COVER ARTIST
THE FOREVER YOUNG
APRIL
2018. Vol.176
FOLLOW UP
CREATE YOUR MUSIC LIFE!
heaven in her arms ... CASBAH×IDORA ... Kip Winger ... RIOT ... and more!!

THE FOREVER YOUNG

OFFICIAL HP　theforeveryoung.jp　@TxFxY　@TxFxY　tfy_ig

久留米を拠点に活動を続けるTHE FOREVER YOUNG。2007年結成、2016年のメンバー脱退後も休むことなく活動を続け、47都道府県をツアーで廻り、そのツアー中に作られていったという新作が『聖者の行進』。ツアー中だからこその生々しさと、ツアー中だからこそのストーリー性がある本作、心に去来する様々な思いを、未来へ届けとさらけ出した、熱いアルバムだ。全国各地を廻り確実に逞しくなった彼らがそこにいる。THE FOREVER YOUNGという、青春パンクと堂々と胸を張る彼ら。これまでの経緯を交えながら、今の彼らの思いを訊く。

Interview：遠藤妙子　Photo：Misheru Chikako

●前身バンドがあって、THE FOREVER YOUNGとバンド名を変えたのが2014年だそうですね。変えた理由は？

クニタケヒロキ（Vo&Ba/以下クニタケ）：前はKARIBUxNOxKAIZOKUっていうバンド名だったんです（笑）。初ライヴ近くなってもバンド名が決まってなくて、たまたま通りかかったとこにホテルがあってコレでいいやって（笑）。それが2007年。約7年間ぐらいそのバンド名でやってきたんですけど、RYOSUKEさん（STEP UP RECORDS）と出会って、「自分達で思い入れのあるバンド名とか、しっかりしたバンド名のほうがこれから活動していく上で絶対にいいから」って言ってくれて。バンド名、自分達でもなんとなく違和感があったんですよね。

●じゃ、当時もやりたい音、やっていた音は今に繋がる熱い音で。

クニタケ：そうなんですけど、前は英語で歌うハードコアの曲と日本語で歌う曲と共存してる感じで。でもハードコアは、憧れてただけだったんですよね。ハードコアは大好きだけど、自分達は根っからのパンクスとか、そういうタイプの人間ではないしハードコアから音楽に入ったわけでもない。それより日本語で自分の思いを歌ったほうがいい。

●RYOSUKEさんとはどういう出会いだったんですか？

クニタケ：元々FUCK YOU HEROESが大好きだったんです。で、香川県の高松でRYOSUKEさんがやってるHARDCORE FANCLUBと対バンすることがありまして。「ヤバイ本物だ！」って（笑）。

オガワリョウタ（Dr&Cho/以下オガワ）：もう、僕らからしたらレジェンドですから。

クニタケ：当時、一曲だけ日本語の曲があって。そのライヴで最後にその曲をやったんです。そしたら「ああいう曲をもっと増やしていったほうが合ってるよ」って言われて。びっくりしました。

オガワ：怖かったですね。大好きな人と出会えて一緒にライヴやらせてもらって、そういうことを言ってもらえたっていうことが。

●見抜かれた感じだ。

クニタケ：そうなんですよ。バンド名にしろサウンドにしろ、変えていきたいなって思ってたことを見抜いてくれた感じで。

●嬉しいですよね。

クニタケ：嬉しかったです。自分達でもなんとかしたいなって思ってたことを見抜いてくれて。本当にやりたいことをやればいいんだって。

●そこから日本語の曲が増えていった。

クニタケ：ハードコアを聴く前は日本語のロックや日本語パンク、青春パンクと言われてるものをよく聴いて大好きで。そこに立ち返ったというか。

●日本語だと気持ち込め方とか違います？

クニタケ：全然違います。日本語で最初に作った曲が元カノの曲なんですけど（笑）。気持ちの込め方がそれまでとは全然違って。ライヴだと泣けちゃう時もあるし。よく泣いてましたね、自分で歌いながら（笑）。

●感情をさらけ出すってことを、凄く大事にしてるんでしょうね。

クニタケ：まさにそうです。自分をさらけ出したら、さらけ出しただけ思いは伝わるって、僕は思っているので。汗臭くて泥臭い自分が、ステージでカッコつけることはできないですし（笑）。

●THE FOREVER YOUNGっていうバンド名はピッタリだと思うけど、このバンド名にした理由は？

オガワ：いろいろ案を出し合って決まったんですけど。ブルーとかフォーエバーとか、そういう言葉を入れたいって。

クニタケ：青春をイメージする言葉を入れたかったんです。その時期、大人になりきれてない感じだったんですよ。このバンド名になったのは20代半ばで、ギリギリなところだと思うんです、大人になるギリギリ手前。地元の同い年の友達は落ち着いてきたりする時期で。そういう中で久し振りの友達に会うと「まだやってるんだ」って言われて。俺は「え？俺、全然変わってないだけだよ」って答えたんです。ホントに俺らは全然変わってないんだなって。劣等感とかじゃなく、ずっと変わらずにバンドを続けていくんだって再確認しました。そして「まだやってるんだ」って言った友達が、生活の中で苦しかったり悲しかったりした時に、俺らが変わらずにライヴやってたらいいかな、ライヴに来たらちょっとは元気が出るんじゃないかなって。まぁ、ただの自己満かもしれませんが。

●そういう思いがTHE FOREVER YOUNGというバンド名に現れていて。

クニタケ：そうです。そういう気持ちは年齢を重ねるごとに強くなってます。だからこのバンド名でホントよかった。

●なんかあと、FOREVERとYOUNGってある意味、対義語じゃないですか。曲も、「今」と「永遠」を歌っているような気がします。

クニタケ：うんうん。瞬間と永遠ばかり歌ってる気がします（笑）。今が大事なんだけど、それは永遠なんだって。そういう歌詞があるわけじゃないけど、今必死なのは未来へ繋がるって、そう思ってます。

●やりたいことが明確になっていったわけだけど、メンバーが脱退してしまい。

クニタケ：オリジナルメンバーは僕ら2人とギターが2人いたんですけど、ギターの2人が抜けて。結婚して仕事をガッツリしていこうとか、やりたい仕事を見つけたりとかで。そいつらがいつでも見に来られるよう、俺らは変わらずにずっとバンドを続けようって。

●そこで休むことなく、サポートメンバーで活動を続けて。

クニタケ：2016年10月に久留米でオリジナルメンバーでの最後のライヴをやって、その次の次の日、青森の八戸でサポートメンバーとの初ライヴだったんですよ。

オガワ：もう、そのまま青森まで行く勢いで。で、青森からそのままずっとツアー。

クニタケ：とにかく進もう、THE FOREVER YOUNGを消さないようにしようって。ズタボロでしたけどね。

オガワ：そのツアーは前のシングル「また逢える日まで」のリリース・ツアーで、初めて47都道府県を廻ったんです。とにかくやってやろう！って気持ちだけで。

クニタケ：最初はボロボロでした。前のメンバーは同い年で長い付き合いで。そんな2人が抜けて、メンタル的にヤバくて。ライヴやってないと気が狂いそうになってたんです。それで休まずに活動していこうって決めたんですけど。ツアーでは初めて行く場所もいっぱいあって、でも客も少なくて。すると、俺は「なんでバンドしよっとか？」って。ツアーの初めの頃はちょっと限界っぽい気持ちにまでなってましたね。

オガワ：自分もそうでした。サポートメンバーとはスタジオには入ってたけど、ツアーは初めてでいきなり全国各地を廻る。自分でもわけわからなくなってる感じで。

クニタケ：かなり気持ち的にハードだったんですけど、ツアーで一緒にやったバンドを見て、「やるしかない！」って思えるようになって。しっかりしなきゃなって。

●そうですよね。しんどいけど、サポートメンバーだって困っちゃいますもんね。

クニタケ：サポートメンバーは地元の後輩みたいな2人で、やりたいって言ってついてきてくれた。でもぶっちゃけ辛くて…。だからこそ俺ら2人がしっかりしないとダメだって。段々と気持ちが強くなって。ステップアップしたと思います。

オガワ：乗り越えられたって実感が、今は凄くあります。

クニタケ：これからTHE FOREVER YOUNGの歴史ができた時に、「あのツアーはああだったよな」って思えるような、必死こいてやるしかなかった時期がうちらにはあったって思えればいいなって。

●バンドをやっていく覚悟みたいなものが…、

クニタケ：出てきましたね。

●で、しかもそのツアー中に今作を作ったそうで。

オガワ：ツアー中に曲を全部作って。プリプロまで作って。実際のレコーディングは帰ってから去年の年末ですね。東京で。

クニタケ：ツアー中のオフ日はスタジオに入って。その土地土地の。

●うわぁ。なんかホントにドキュメンタリーだな。ドキュメンタリー・バンド（笑）。

オガワ：現実問題として、普段は集まれる時間も限られてるんで。ツアー中だったら確実に全員いるし（笑）。

クニタケ：音源は出したかったし、曲のアイディアや歌詞の断片はあったんでそれを形にしようっていう。「作る」っていうポジティブな作業だったから、そこは大丈夫でした。

●「夢だけに酔っていたいぜ」は車のエンジン音から始まりストーリー性がある曲ですが、ツアー中だから出てきたっていうのも…？

クニタケ：そうですね。その曲だけはアイディアも歌詞の断片もなく、ツアー中にゼロから作った曲なんです。ツアーのことを曲にすればいいかなって。

●ベースラインにもストーリーを感じますよ。

クニタケ：あ、ありがとうございます。

●一曲目の「誓いの詩」、ポエトリーリーディングでびっくりしますよね。

クニタケ：yonigeっていうバンドの牛丸ありささんにやってもらって。そういうスタイルで、前からやってみたいなって思っていて。それで二曲目は速い曲でガーッと。そういう流れをやってみたいって。メッチャいいなって自分では思ってます（笑）。

●この一曲目だからアルバム全体にストーリーを感じます。この人はこの後どうなっていくんだろう？とか。

クニタケ：そうなってればいいなぁ。

●「12月15日」は静かに始まりドラマチックに加速し思いっきりノイジーに終わる。

クニタケ：元カノの歌なんですけど、出会った苦しみっていうか、好きだからこその苦しみというか…。

●感情を現わしたらノイジーな音だったんだ。

クニタケ：そうです。正直な感情を出そうと思ったら、頭で考えてるだけだと、出てこないような意外な音が出てきて。あと以前やってたハードコアも、自分なりにインプットしていて自分なりにアウトプットできるようになったのかなって。

●ショート・チューンもメロディが残ります。「さくらの時」は思い切りのいいメロディに切なさが滲んで。

クニタケ：「さくらの時」は2ビートなんですけど、前はバラード調だったんです。

オガワ：ツアー中に作っていてだんだん変わっていって。結果、全然変わった（笑）。

●ツアーの気持ちが反映して。

クニタケ：はい。その時の気持ちで曲ができていくっていうのはよくあります。というか、それしかないかも（笑）。その時の気持ちっが一番本当だと思うし一番感情が込められるし。

オガワ：作品を作るっていうより、その時に感じたことが曲になって、それが集まったものが作品なので。作品ありきではなくその時の感情ありきで。こういう作品にしましょうって作ったこともないし。

●弾き語りの「小郡駅」は、まさにさっき言ってた、「まだやってるんだ」、「え？俺、全然変わってないだけだよ」ってことを歌にした曲ですね。

クニタケ：まさにそういう歌です。俺、ギター全然弾けなくて、やっとちょっと弾けるようになって。初めての弾き語りなんですよ。

オガワ：曲はメッチャいいなって。バンドとはまた違う味が出てるし、一人だけで成り立ってる曲だし。まぁ、下手ですけどね（笑）。でもそれが今のうちらの本当なんで、それが出せればいいんです。

●うん。今作、ツアー中だからこその生々しさと、ツアー中だからこそのストーリー性があるアルバムですね。

オガワ：47都道府県を廻ってる時に作って大変だったけど、その時の思いがパッケージできたなって。ホント、やって良かった。これからの自信になると思います。

●最後に。青春パンクとして堂々とやっていこうと？

クニタケ：はい、青春パンクです。ただツアー廻って思ったんですけど…、俺らのライヴで泣いてくれたり、明日もがんばろうって思ってくれる人も多くて。でも俺らは「がんばれ」って言いたいんじゃないんです。いや、ライヴでは「がんばれ」って言ってるんですけど（笑）。なんていうか、抱えているものはそれぞれで違うだろうけど、俺もみんなと同じような気持ちのことがメッチャあるし、俺のほうがヤバイかもしれないし。そんな俺が「こんなふうにやりよるけん、その一瞬があればよくない？」って。「がんばれ」とか「がんばろう」とか俺は言えるような奴じゃないけど、この一瞬は俺に任せとけ！みたいな。俺らのライヴという、人生の中の一瞬を思い切り楽しんで、それがそれぞれの心の中で「がんばろう」ってものに変換されて、俺らもお客さんの顔を見て「がんばろう」ってものに変換されて、そんなライヴをやりたいんです。だから伝えたいのは、「無理すんな、そのまんまで行け！」ってことなんですよね。

diskunion オリジナル特典 布パッチ

THE FOREVER YOUNG
MINI ALBUM『聖者の行進』
STEP UP RECORDS/SURCD-025/¥1,800（+税）
2018.5.2 ON SALE!!

LIVE Schedule

- 4.6（金）福岡四次元
- 4.14（土）新宿LOFT
- 4.28（土）大分BittsHALL
- 5.3（木）福岡Queblick

"聖者の行進" TOUR

- 5.25（金）大阪BRONZE
- 5.26（土）名古屋HUCK FINN
- 5.28（月）新潟GOLDEN PIGS BLACK STAGE
- 5.29（火）仙台enn 2nd
- 5.31（木）渋谷CLUB QUATTRO
- 6.2（土）札幌KLUB COUNTER ACTION
- 6.5（火）高松RIZIN
- 6.6（水）岡山CRAZYMAMA 2ndRoom
- 6.8（金）小倉FUSE
- 6.9（土）福岡Queblick
- 6.10（日）久留米GEILS

heaven in her arms × CITY OF CATERPILLAR (USA)
JAPAN TOUR 2018

<OFFICIAL WEB SITE>
heaveninherarms.com/topics/index.html
<twitter> @hiha_official
<facebook> @heaveninherarmsjapan
<Instagram> @heaveninherarms_official

Darkest Hour、Iron Reagan、Pg.99、Malady、Majority Rule等、錚々たるバンドのメンバーを擁する、2000年代エモ/激情HCシーンの伝説、CITY OF CATERPILLAR(USA)が奇跡の再結成。そしてなんと2003年のenvy/Sonzai Recordsによる招聘以来、なんと15年振り2度目の来日ツアーがこの2018年4月からスタートする。ツアー帯同バンドは、3rdアルバム『白暈』がPitchforkをはじめ、世界各地のメディアで絶賛されたheaven in her arms。今回のジャパンツアー2018に向けて、首謀者のKent(heaven in her arms,Vo/Gt)に話を聞いた。

Interview : Sayashi Itaru　Photo : Taio Konishi

2000年代のUS EMOを代表する存在であるCITY OF CATERPILLARのキャリアを総括する2枚組CDが、完全版ディスコグラフィという形で3LAよりリリース!!
CITY OF CATERPILLARの活動期間は2000年〜2003年と短いものだったが、1990年代の当時アンダーグラウンドであった黎明期の重要バンド、Indian Summer、Portraits of Past、Maximillian Colby、Sleepytime Trioといったバンドのエッセンスを受け継ぎながら、静と動のダイナミクス、激しいハードコアの中に美しさを表現する彼ら自身のサウンドをオリジナリティとして確立、2000年代以降のScreamo/Post-Hardcoreに大きな影響を与える存在となった。活動停止後も、メンバーはPg.99、Malady、Majority Rule、Darkest Hour、他にも様々なバンドに参加しており(並行して活動していたものもある)シーンの形成に大きく貢献しているのも見逃せない。長尺な楽曲が多いが決して冗長でなく、少しずつ景色を変えながら幻想的な世界を表現、同時に破綻感のある音のアンサンブルや激しいパッション、まさに「激情」そのものとも言えるエモーションを爆発させる様は今聴いても圧巻で、過去の曲も現在の曲も違和感のない音質でマスタリング、再構築されている。本作は彼らの歴史を改めて振り返るだけでなく、今回の機会をきっかけに初めてバンドに触れるリスナーにも、かつての彼らの音源に触れたこともあるリスナーにとっても響き方がまた違ってくるような音源に仕上がっているはずだ。
CITY OF CATERPILLARは活動停止後、数回の限定的なリユニオンを経て、2017年に完全復活し、新作音源もリリースしている。さらにはチェコで毎年開催されるEMO/HARDCOREの世界的な祭典、Fluff Fest 2017への出演し、三日間のフェスのうち初日メインステージのトリを務めている。偶然にも日本から同ステージで共演を果たしたheaven in her arms

と友情を結び、今年2018年のJapan Tourへと物語は展開する。
このJapan Tourは、主催するheaven in her armsの他にも、killie、COHOL、birthといった日本国内で2000年代より活動しているバンドから、cape lightや5000といった若手バンドまで、更には台湾からUS:WEも参加するなど、シーンの文脈的にも2000年代以降の国内Screamo/Post-Hardcore総決算とも言える豪華な顔ぶれが並ぶ。もちろん、このような奇跡的なイベントが実現した背景には、envyによる招聘で行われた前回2003年の来日があったからこそ、というのも忘れてはならない。envyとの深い友情を築いた彼らが「日本へもう一度行きたい」という想いを抱き、その想いが今回15年を経て現実になったというわけだ。
今回のような完全な形での編集盤のリリースはCITY OF CATERPILLARのバンドキャリアでも初の試みでもあり、アナログのみでしか聴くことの出来なかった楽曲も初めてCD化され収録される。3LAによる歌詞翻訳、ライナーノーツも掲載されたCDに加えて、更に今回のリリースと来日に合わせて特別なブックレットも制作される。ブックレットの内容は、バンドへのインタビューはもちろん、前回来日に深く関わったenvy、今回来日を主催するheven in her arms、そして前回来日公演を目撃し、今回の来日公演に複数箇所共演するkillieメンバーの対談を収録した非常に濃い内容となっている。前回と今回の来日、共演するバンドはもちろん違う。シーンを取り巻く状況も大きく変わった。本作CDに収録されている楽曲は、2000年代の「過去」、そして2010年代の「現在」を繋ぎ、物語の行間をブックレットが補完する。CD、ブックレットと来日前に是非手にし、彼らのJapan Tourを万全の体制で迎えて欲しい。

■今回CITY OF CATERPILLARを日本に呼ぶきっかけって何だったのでしょうか?
Kent(Vo/Gu) :『白暈』のリリースツアーで2017年の夏にヨーロッパへ行ったのですが、ツアー最終日にFluff Festで彼らと共演したのがきっかけですね。ライブ後にバックステージで「凄く良かったよ」って話しかけてくれて。

■Fluff Festとは?
Kent : 毎年夏にチェコのキャンプ場を使って開催されるIndependent hardcore punk festival ですね。DIYでやっている野外フェスではヨーロッパ最大級だと思います。3日間あって、最近は1万人位動員しているみたいです。2017年はヘッドライナーが3組いて、heaven in her arms、Doom(UK)、CITY OF CATERPILLARでした。2014年にも出演したんですが、変わらず素晴らしいフェスでした。

■それまで面識は無かった?
Kent :そうですね。もちろん彼らが同日に出演することは知っていたので共演を楽しみにはしていましたが、やはり出番の前は僕らも戦闘態勢なので一切コミュニケーションを取らず(笑)。ライブ前はメンバーそれぞれピリピリしていて・・・まあでもそのおかげか、ライブの反応は物凄く良くて、CITY OF CATERPILLARも褒めてくれて素直に嬉しかった記憶があります。Doomもバックステージでサムアップしてくれましたね。

■CITY OF CATERPILLARの演奏はどうでしたか?
Kent :鳥肌が立ちました。静寂の中に垣間見える闇と光のコントラストが印象的で、フェス当日の夕日と相まって本当に美しかった。彼らの楽曲って、性急さだけの激情バンドとは明らかに一線を画していて。彼らがシーンに登場した当時は物凄く前衛的だったと思うんですね。なんというか楽曲の到達点を芸術的な荘厳さに置いていたというか・・・その彼らのオリジナリティーが長い期間を経て「成熟」しているような・・・そんな風に感じましたね。

■なるほど。彼らも日本に来たがっていた?
Kent :はい。僕らと日本をツアーしたいとFluff Fest当日にもう言ってくれて。また再結成ツアーは2018年でストップすると言っていたし、どこか使命感というか運命的なものを僕らも感じて招聘を決めました。

■ツアーに向けてなにか一言
Kent :「昔凄かったバンド」を招聘するほど僕らは暇じゃない。「今」のCITY OF CATERPILLARが奏でる、美しいサウンドを体感しに是非会場へ足を運んで欲しいです。また各地でサポートしてくれるバンドも本当に素晴らしいバンドばかりで、どこも伝説的な日になると思います。それだけじゃなく、このツアーに合わせてCITY OF CATERPILLARのDiscographyを3LAがリリースしてくれます。もちろん僕らもツアーに向けてサプライズを仕込んでいますのでぜひ全公演楽しみにしていてください。

**4月上旬、CITY OF CATERPILLARのインタビューをLIVEAGE(https://liveage.today)で公開予定!
ツアーの情報はheaven in her armsのtwitter、HP、FB、instagramで随時更新されるので要チェック!**

編集盤
CITY OF CATERPILLAR『Complete Discography』
3LA -LongLegsLongArms Records-/3LA-024/¥2,500(+税)
2018.4.20 on Sale!!
初回出荷特典 バンドロゴステッカー

CITY OF CATERPILLAR (USA) × heaven in her arms JAPAN TOUR 2018

4/28(土) 東京 下北沢ERA (※Day show)
4/29(日) 横浜F.A.D
4/30(月・祝) 山梨 Bodega
5/1(火) 東京 西荻窪 Flat (※No HIHA show)
5/2(水) 大阪 火影 (※No HIHA show)
5/3(木・祝) 京都 GATTACA
5/4(金・祝) 名古屋 HUCK FINN
5/5(土) 東京 新大久保 EARTHDOM

Kip Winger
『Solo Box Set Collection』
（輸入盤/5CD）
Frontiers Records/802439108556
2018.3.23 ON SALE!!

KIP WINGER

昨年のLOUD PARK 17でベテランバンドらしいステージを観せてくれたWingerのフロントマン、キップ・ウインガーがソロ・アコースティックでの来日ツアーを行いました。（3月10日名古屋、11日大阪、13日東京）ソールドアウトとなった東京公演の直前に、今やバンド活動のみならず、クラシック音楽の作曲で昨年グラミー賞にもノミネートされたキップに、今回の日本でのソロライブについて、Wingerの活動状況についても色々と訊いてみました。

Interview：Green　Edit：FOLLOW-UP　Photo：©Creativeman Productions All Rights Reserved.

ポテトチップスの袋を持ってモグモグしながら取材現場に登場したキップ。「チップス食べるのを止められない」と海外のインタビューで話していたとおりのチップス好きを肉眼で確認。さらにはポケットからキットカットを取り出して食べ始めるキップ…。太りますよ…と注意したい気持ちをぐっとこらえてインタビュースタート。

●今日はありがとうございます。さて、名古屋と大阪のライブが終わりましたが、いかがでしたか？
Kip：素晴らしいよ。日本のオーディエンスは最高だし、皆が気に入ってくれたらいいと思ってる。
●早速ライブの感想が沢山ツイートされていましたが、皆あなたのミュージシャンシップに感銘を受けていましたし、肯定的意見ばかりでしたよ。
Kip：それはよかった。それに今夜はソールドアウトだしね。俺はずっとソロでも来日したいと思っていたんだ。それで、LOUD PARK 17に呼ばれた時に、ソロでも呼んでほしいと交渉していて、今回それが実現したんだよ。本当はもっと早く来たかったんだけど。できれば毎年でもソロで来たいと思っているよ。
●アメリカのソロライブはパーカッションのベン・ハインズとやっていますよね。
Kip：ああ、でも日本のツアーは特別なものにしたくて、ロビー・ロスチャイルドを連れてきたんだ。彼はサンタフェに住んでいて、俺のソロアルバムの全てでプレイしてもらっている。彼にプレイしてもらえたらスペシャルだと思ったんだ。
●97年の来日時に、あなたは日本でソロライブをやるとしたら、どんなバンドメンバーを揃えたいかと聞かれて、ドラムはロッド・モーゲンステイン、ギターはアンディ・ティモンズ、パーカッションはロビー・ロスチャイルド、キーボードはジョーダン・ルーデスと答えていました。その内の1人は実現しましたね。
Kip：ああ。フルバンドを揃えるのはとても費用がかかるし、ジョーダンは今やDream Theaterで大スターだから無理だけど。
●今回の日本公演では特別過ぎるセットリストにとても驚きました。アメリカのファンにこれを見せたら殺されそうです（笑）。
Kip：ビビるだろうなぁ…（ニヤニヤするキップ）“Pages And Pages”、“Where Will You Go”、“Ever Wonder” なんかは今回初めてプレイした。これまでに多くのリクエストを受けていた曲で、それらを練習してきたんだ。まだちょっとミスもあるけれど、プレイしてて楽しいよ。ずっとソロライブにピアノを加えたかったんだ、そうすることでセットにもっと多様性が出せるからね。皆が気に入ってくれて嬉しいよ。これらの曲はこれからアメリカに戻ってからもプレイするだろうけど、日本のライブを特別なものにしたくてやったんだ。
●ソロアルバムの新作はいつ頃制作予定ですか？
Kip：素材は沢山あるんだ。ただ時間がないんだよ。ミュージカルのGet Jackの方もあるし。（現在新作のミュージカル用に楽曲を制作中）ナッシュビル交響楽団のために交響曲第一番も作曲しているんだ。どれも刺激的だけど、とても忙しいんだよ。作曲はかなり出来ているんだけど、歌詞がまだなんだ。ソロアルバムでは歌詞はとても大切なんだ。56歳の俺にとって歌詞を書くというのはとてもやっかいな仕事だ。俺はくだらない歌詞は書きたくない。ソロアルバムには常に何か意味のある曲を入れたいんだ。俺にとっても、他の人にとっても。皆に深い体験をしてほしいんだよ。Wingerはロックのブランドだから、“Deal With The Devil”とか“Midnight Driver Of A Love Machine”とか…わかるだろ？ソロアルバムはもっと精神的な心の内面を覗くようなものにしたい。辛抱強く手を入れる必要があるのさ。買う価値があり、聴く価値のある作品にしたいから。だって、今じゃ音楽ってのは簡単に浪費されるものになってしまった。俺が書きたいのは、今から10年経って聴き返しても、何かを感じ、感情的な共感を得られるものなんだ。そういう高いレベルの曲を書きたい。毎回そのレベルの曲が書けている訳ではないけれど、そう努力している。
●Wingerのニューアルバムについて伺います。多くのファンが新作を待ち望んでいるのですが、仰るとおりあなたはとても忙しそうですね…
Kip：レブもWhitesnakeで忙しいんだよ。でもレブとは話していて、近いうちに集まって書き始めようかとは言っているんだ。4～5ヶ月後には始められたらなと思っている。待たせて悪いけど、Wingerのアルバムについては、俺の中でどんなサウンドにしたいのかはっきりとしたヴィジョンが見えるまでは始めないんだ。
●現在のところはまだそのヴィジョンが見えないということですか？
Kip：見え始めてきたところだ。どんなことをしたいかはわかっているんだ。何をすべきかわかっている方がずっとスムーズに進められる。『IV』の時は、「よし見えたぞ。全員集まれ！」って感じで作ったんだ。そして興味深いことに『IV』は実に難解なアルバムになった。難解過ぎて一部のファンには理解されなかった。一部のファンにはベストアルバムだって言われたけどね。Wingerのアルバムで重要なことは、メンバーそれぞれがなぜ優れたミュージシャンなのかというポイントを盛り込むことなんだ。それは俺にとって大事なことだ。なぜロッド・モーゲンステインが凄いドラマーなのか、それは “Tin Soldier”を聴けばわかる。レブ・ビーチがどうして凄いギタリストなのか、それは“Witness”を聴けばわかる。ジョン・ロスは『Better Days Comin'』で沢山いい仕事をしている。それに、次のアルバムにはポール・テイラーも加えようかと考えているんだ。彼はこのところバンドと合流してよく一緒にプレイしているから。ポールと一緒に新しい“Miles Away”みたいな曲ができたらいい。
●素晴らしいです。数年前にロッドがインタビューで話しているのを聞いたのですが、彼は「Wingerは実のところフュージョンバンドなんだ」と言っていました。あなたはどう思いますか？そしてあなた自身は Wingerというバンドをどう定義しますか？
Kip：ロッドはフュージョン・プレイヤーだ。レブもそうだ。彼は今ソロアルバムを作っていて、それはもう殆ど仕上がっているんだけど、それを聴けば彼が基本的にはフュージョン野郎だってことがわかるよ。だから俺たちが集まると普通のロックバンド以上のものになるんだろうね。俺が書く曲というのは複雑なんだよ。Dixie Dregs程ではないけれど、L.A Gunsよりは複雑だ。そのどこか中間なんだろうな。Queensrÿcheみたいな感じかな。でも実際には俺たちの音楽は彼らよりずっと難しいことをやっていたりするんだ。俺は彼らが好きだから悪い意味はないからね。Wingerの音楽というのは表面上に聴こえるサウンドの裏で、実はとても難しいことをやっているんだ。フュージョンってのはいろんな要素が合わさってできているものだから、俺たちの音楽はそういうものだと思うね。確かに俺たちは80年代のバンドがやっていないような音楽をやっている。俺たちの音楽をプレイできるバンドはそう多くはないんだ。もちろんそれが良いとか悪いとかいうことではない。ただ俺たちはそういうことをやっているということさ。

東京公演にはまさかのFionaが登場！

●『Better Days Comin'』は半分レブ、半分あなたのアルバム、『Karma』はレブ・ビーチアルバム、『IV』はあなたのアルバムという印象を受けます。私が一番好きなアルバムは『IV』で、全てのWingerの曲の中で一番好きな曲は“M16”です。
Kip：“M16”は俺が夢で見て書いた曲だ。（イントロのリフを歌い始めるキップ）あのリフを夢で聴いて、朝、目が覚めてから一気に書き上げたんだ。やっているということさ。
●あのリフはレブのアイデアかと思っていました。
Kip：あれは俺なんだよ。皆はあれを俺が書いたとは知らないけど。俺たちが曲を作る時はこうなんだ。俺とレブが座って、俺がドラムビートをかけて、レブがリフを弾いて、俺はコードチェンジを書く。いい例が“Seventeen”だな。冒頭のリフはレブだ。ギターソロの後にくるリフは俺が書いた。俺は兄貴たちとやっていたロックバンドでずっとリフを書いて育ってきたんだよ。まさに “Seventeen”はレブとのコラボレーションなんだ。でも『IV』の曲は殆ど全てが俺の頭の中に聴こえていたサウンドなんだ。もちろんレブはいつも通り彼のやる仕事をしているけどね。『Karma』も同様さ。“Pull Me Under”がいい例だ。これは俺が全てのコードチェンジを書いた。レブがリフを書いていたんだけど、それが酷くて、「レブ！これはクソだ！俺たちにはもっとクールなリフが要るんだぞ！」って言ってやったら、レブは「クソだよな、わかってる！こんなのが要るんだろ？」ってあれを弾いたんだ。そして俺がコード進行を書いたのさ。“Better Days Comin”も同様だ。“Be Who You Are Now” なんかは違う。ジョンとも何曲か作った。俺とレブではないライティングでどんな曲ができるかと思ったのさ。その結果、俺のソロ曲に近いサウンドになったと思う。“Ever Wonder”も俺が書いた。ソロ曲になってもいいような曲だ。『Karma』の “Always Within Me” 、あれも俺のソロ曲でもおかしくない。まあ、全ての曲はさっき話したような方法で書いているんだよ。そこからいい曲を選んでいくのさ、レブの曲っぽく聴こえるのもあれば、俺っぽい曲もある。大切なのは高いクオリティを保つことさ。でも『IV』は違うんだ。あの時の俺は、このバンドの将来はプログレッシヴ路線だと思った。だからああいうダークでヘヴィな音楽になったのさ。でも殆ど誰も気に入ってくれなかったんだよ…
●私は大好きですよ！では、あなたの一番好きなWingerのアルバムはどれですか？
Kip：『Pull』を脇に置いておくけど、俺がどういうミュージシャンなのかを最も表しているのは やっぱり『IV』だと思う。そしてWingerというバンドを最も表現するアルバムを選ぶとしたら、それも『IV』だ。ロッドが言うWingerがフュージョンバンドだと言うのも、まさにこのアルバムに表れている。これにはとても複雑な音楽が詰まっているんだ。
●そしてこれを聞かなくてはなりません。2014年11月のクラブチッタでのライブを録音、録画しましたよね。ずっと作品化を待っているのですけど、いつリリースしてくれるのでしょうか？
Kip：あ～…ずっとやろうとは思っているんだけど、忙しくてね。それに録音していたレコーダーが途中で止まってしまって、7曲も録音できなかったんだ。それで前日の録音をあたったりして、何とか繋げようとしてはみたんだけど、時間がなくてね…。いつかやるから。
●もしDVDやCDでリリースしないのであれば、バンドオフィシャルのYouTubeに動画か音源を上げて下さい！日本のファンはあれが観たいんです！
Kip：わかった。どうにかしよう。あの夜は良かったよな。2ndアルバムを全曲プレイしたし。
●次回はいつWingerで日本に戻って来てくれますか？
Kip：わからない。俺のプランではニューアルバムを2019年に出そうと思っている。でもデヴィッド・カヴァーデイルの予定を確認しなくちゃいけない。Whitesnakeがどんな予定なのかわからないから。俺たちはできるだけ早く戻って来たいけれど。
●最後に。もしWingerがBon Joviのような成功を収めていたら、それでもあなたはクラシック作曲の道を進みましたか？
Kip：もちろんさ。俺は自分が何をしたいのか16歳の時からわかっていたから、自分が選択してきた音楽の道は変わりようがない。もっと金持ちになっていたかどうかの違いだけだ。オーケストラが俺の曲を演奏するのに金を払うとは思ってもいなかった。うーん…何て言ったらいいだろう… 俺は根っからの忠実な音楽学習者なんだ。それが俺にとって一番重要なことなんだよ。音楽の仕組みを解明すること。俺は音楽を勉強して優れた音楽家になりたいんだ。

最後に適切な言葉を選ぼうとしばし考えたキップが静かに発した「俺は根っからの忠実な音楽学習者なんだ」の言葉に、彼という音楽家の本質を見た気がしました。80年代の華やかなロックシーンに登場してからの浮き沈みを経て、歳を重ねるにつれて才能を昇華させ、進化しているキップの新作が楽しみです。

Live Reportはこちらを Check！ >>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>

＊追って本インタビューの完全版もUP予定
ココログblog『Stay Together』

《Facebook》@nomoreslaughter　《Twitter》@CASBAH_Japan

80年代からほぼ同時代を生き抜いてきたCASBAHとIDORAのスプリットCD『Friction』がリリースされた。彼らと同じく我が道を行くインディペンデント・レーベルのHELLO FROM THE GUTTERからの発売で、新曲を２曲ずつ収録。すべての曲の歌詞が載った紙ジャケット仕様のCDである。トータル19分ほどの計4曲入りながら特濃バンド同士だから、歯応えありまくりのサウンドで聴き応えありありだ。

Text:行川和彦　Photo:Yasutaka Kaneuchi(CASBAH)／Takahiro Matsuda(IDORA)

王道から外れたメタルやハードコアを愛するアンダーグラウンド・シーン好きの間では、長いことCASBAHはスラッシュ・メタル・バンドとして、IDORAはハードコア・パンク・バンドとして知られてきた。

'83年10月に千葉県で結成されたCASBAHは'85年にソノシート『Live』で“レコード・デビュー”。'86年には今もライヴで絶対的に盛り上がる代表曲のシングル「Russian Roulette」をリリースし、CASBAHのスラッシュ・メタル・イメージが固まったといっても過言ではないが、一方でハードコア・パンクからも触発されていた。GHOUL、UNITED、LIP CREAM、SAVER TIGER、CITY INDIANが参加し、双方のシーンが付かず離れずだった当時の状況を象徴する'86年のオムニバス盤『Devil Must Be Driven Out With Devil』に、CASBAHが参戦したところにも表れている。

そういった感じでスラッシュに留まらない我流のヘヴィ・サウンドを創り続け、コンスタントにデモ・テープを制作しながらライヴを続け、『Bold Satement』('96年)をはじめとしてロードランナー・ジャパンから４枚のCDを出すも2000年の９月に活動を停止。だが2013年に復活し、90年代初頭までの“クラシック・メンバー”のTaka Hatori(Vo)、Koichi Mitani(B)、Ryo Murayama(G)に、Shu Ishikawa(Ds)が加わって現在の4人になり、2015年にB.T.H. Recordsよりオリジナル2ndフル・アルバム『Reach Out』をリリースしている。

一方のIDORAは止まらずマイペースで33年近く活動している。東京で結成され、吉澤文裕(Vo)と共に不動のメンバーの中田俊哉(G)が青森県在住になってからもコンスタントにライヴを続けている。数枚のオムニバス盤に参加したあと'90年に7”EP『Idora』でドイツのレーベルからレコード・デビュー。2000年に1stアルバム『Idora』を発表後、'90年前後にIDORAとよく対バンしていたNUKEY PIKESの元メンバーの松岡至(Ds)、さらに神宮雄一(B)が入って現在４人になる。以降HELLO FROM THE GUTTERから、2nd CD『Seek』(2001年)、3rd『Idora III/異端の為の偉大なる騒音と絶叫そして嗚咽』(2007年)、STUPID BABIES GO MADとのスプリット7”EP『Between The Screaming And Scumbag』(2014年)を発表している。

スタイルをブチ抜き破る剛速球サウンドゆえに当初からIDORAは既成のハードコアと一線を画し、DOORSのソウル炸裂のヴォーカルはポーズ一切無しの全身全霊。ロックが深化／進化した究極がハードコアという意識で、中田のレーベルの'89年のオムニバス盤に収めたLED ZEPPELINの「Communication Breakdown」の高速カヴァーが象徴的だ。

IDORAのメンバーがCASBAHを聴いていたとはいえ、活動シーンが違っていたから両者は長年交わることはなかった。でも異形のサウンドと無所属のアティテュードゆえに期せずしてシーンの“アウトサイダー”になっていた“同志”だから、出会うべくして出会ったスプリット盤だ。復活後のCASBAHが埼玉県熊谷市におけるライヴでたまたま対バンして一目惚れしたHatoriがIDORAに声を掛け、CASBAHの2015年の『Reach Out』発売記念ライヴに出演。それを観たHELLO FROM THE GUTTERの主宰者のアイデアで今回のスプリットCDが実現したのであった。

先に攻めてくるのはCASBAH。1曲目の「Fire and Ice」はCDのオープニング・ナンバーにもかかわらず、いやだからこそいきなり7分強の長尺でねじ伏せる。前述の歴史的なスラッシュ・チューン「Russian Roulette」を思い出す曲展開で、プロローグとエピローグでじりじりと追い詰め、メイン・パートはいわゆる米国ベイエリア系スラッシュの走りで押す貫禄の曲だ。2曲目の「Wings」はRAMONESとBLACK FLAGとDISCHARGEのミディアム・テンポ・ナンバーの間を行くような4分弱の疾走チューンで、ヘヴィなドライヴ感のCASBAH流パンク・ロックと言い切りたい。どの音も強度が格別で若きドラマーのスピード感にも胸がすく。英語堪能なだけに英詞もバッチリのストロング・スタイルの剛腕ヴォーカルは、Hatoriのボディと同じく贅肉を削ぎ落した骨っぽい声で熱く迫る。

かたやIDORAの1曲目の「Absulute pressure」は、スラッシーに加速した混じりっけなしのハードコア・パンク・チューン。ブルージーなハード・ロック風のIDORA特有の簡潔なギター・ソロも渋く、侘び寂びもたまらない。スタンディング・マイクでステージ斜め上を見つめるステージが目に浮かぶ天を突くスクリームも健在だ。ラストの「Paid in expiation」は、2000年代以降に目立ってきたグルーヴィなテイストが強い4分半の新境地。ボ・ディドリーも頭をよぎるリズムでファンキー＆サイケデリックなテイストも流し込まれ、松岡がシンセサイザーも演奏してソウル・ミュージックのダシの効いたハードコアなロックを展開。ヴォーカルも絶叫とは一味違い、本作のクレジットどおりの“エモーショナル・シャウト”を聴かせ、英語(日本語のコメント付)で“重圧”と“贖罪”を歌うのであった。

まさにタイトルどおりのCDである。むろん仲が悪いわけではないが、両バンドともいい意味でメンバー間の“摩擦”や“軋轢”を表現として昇華したように聴こえる4曲だ。馴れ合いではないそういった真剣勝負の関係はバンド内だけではなく、CASBAHとIDORAとの間にも言える。両者の“friction”の末に生まれたポジティヴなエナジーが渦巻いているのだ。ただ曲を提供しただけではなく一枚のCDの中にCASBAHとIDORAが交感したケミストリーが真空パックされ、メタルもパンクも突き抜けた強靭なロックそのものの一枚だ。

CASBAH&IDORA
Split CD
『Friction』
HELLO FROM THE GUTTER/
HFTG-026/￥1,500(+税)
2018.3.20 on Sale!!

Live Schedule [CASBAH]
◎5/12(土) 横須賀 かぽちゃ屋 ◎7/14(土) 西横浜El Puente ◎9.24 (月・祝) 新宿Wildside Tokyo

Live Schedule [IDORA]
◎6/24(日) 池袋 手刀

FEVER

LIVE HOUSE “FEVER” SCHEDULE 2018 04-05

04.01 (SUN) Poet-type.M presents「Pocketful of stardust ±0」 ONE-MAN
Poet-type.M

04.03 (TUE) THEY LIVE 7
The ManRay / w.o.d. / sayonarablue / and more!!!

04.04 (WED) chelovek. presents 2nd mini album『Land(E)scape;』release party『Heptagoniz( )』
chelovek. / テスラは泣かない。/ UNIDOTS / カトキット

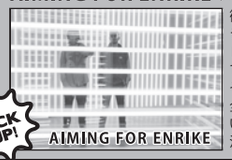
04.05 (THU) “Amazing Dreams” release party ONE-MAN
SWANKY DANK

04.06 (FRI) SAIKORO Presents「セカイイチ × 渡會将士 MWtrio」Anniversary37135 in TOKYO
セカイイチ / 渡會将士 MWtrio

04.07 (SAT) 快速東京 LIVE DEATH(ライブデス)
快速東京 /
MASS OF THE FERMENTING DREGS / 劇団・ドラマティックゆうや

04.08 (SUN) 石田ショーキチ 50 years special month・day 1
石田ショーキチ grp / 寺田康彦

04.09 (MON) AIMING FOR ENRIKE JAPAN TOUR 2018 TONE FLAKES Vol.125
AIMING FOR ENRIKE (from Norway) / tricot



PICK UP!

徹底的にやります！ノルウェーの爆裂マスロックデュオ “AIMING FOR ENRIKE”、2 度目の日本ツアー。レーベルオーナーがノルウェーで彼らのライブを見て度肝を抜かれてリリースすることになったバンド。その徹底的なライブバンドとしてのインパクトは完全保証！今回の日本ツアーは 13 日連続の 13 公演というパンチある内容に！全公演、超強烈共演者も決定。パチパチです。FEVER 公演には “tricot” ！！

04.11 (WED)「クボノ宵～初恋 3 セット」
クボケンジ with 山本健太(Key)、曽根巧(Gtr)

04.12 (THU)「コー・(ドント)・ラブ・ミー・テンダー」メジャー 1st ミニアルバムレコ発ツアー FINAL ONE-MAN
グッバイフジヤマ

04.13 (FRI) ATFIELD inc. Presents CAMP OF THE NIGHT!!! ～花よりバンド～
愛はズボーン / ププブランド / 2　【O.A】ヤングオオハラ

04.14 (SAT) MINT mate box “DOMINO ROUND TOUR”
MINT mate box　【GUEST】SUNNY CAR WASH

04.15 (SUN) “MOUNTAIN HIGH”
ROCKY & The SWEDEN / SxOxB / PILE DRIVER / ZAY / milkcow

04.17 (TUE) [Less is More vol.4]
oscilloscope. / シンクロニシティ / ミッドナイトロビンソン / オトロシ / 無敵キャンディ / 雨のマンデーズ

04.18 (WED)「idle id sense vol.4.」
Day and Buffalo / all about paradise / 神様クラブ / Domestic Trouble

04.19 (THU)「有形ランベイジ～アルカタチと再定義（ダッシュ）～」 ONE-MAN
有形ランベイジ

04.20 (FRI) 国府達矢「ロックブッダ」リリース記念ライブ
国府達矢 (ROCK BUDDHA FORM) / 七尾旅人 / skillkills

04.21 (SAT) **22** (SUN) Young Bloods vol.9, vol.10
SCOOBIE DO
【21 日 vol.9】Layne　【22 日 vol.10】LUCKY TAPES

04.29 (SUN) チリヌルヲワカモバイル企画『チリヌルヲワ会 vol.5』 ONE-MAN
チリヌルヲワカ

04.30 (MON) 1st album「未来世紀エキスポ」リリースツアー “極東パビリオン” ONE-MAN
フィッシュライフ

05.03 (THU) HUSKING BEE presents Resonance 向井秀徳アコースティック＆エレクトリック
HUSKING BEE / 向井秀徳アコースティック＆エレクトリック
【O.A】ニトロデイ

05.04 (FRI) TOKYO BIG RUMBLE 2018
HAPPY DRIVERS (from france) / APACHE CROTALE / THE Qo'noS / SPIKE / MUTSUMI & THE RAT BONES / NEIGHBORS / GIGOLO 13 / HELLBENT / GREAT INVADERS

05.05 (SAT) MOSH BOYz
LOW IQ 01 & THE RHYTHM MAKERS / COKEHEAD HIPSTERS / TROPICAL GORILLA / ETERNAL B / COCOBAT / NUMB / DBX / 雷矢
【DJ】ヒカル / U-ichi / YOUicTHi-raw

05.06 (SUN) THE AUTOCRATICS presents. 4th Full Album “THE AUTOCRATICS” Release Tour Final!!
THE AUTOCRATICS
【SPECIAL GUEST BAND】THE SKA FLAMES　【DJ】UP&UP Comrade

05.09 (WED) 恋は魔物 presents ＜君はまだ恋を知らない＞
恋は魔物 / katyusha

05.10 (THU) SEVENTEEN AGAiN 戦争はおわりにしよう レコ発東名阪ツアー
SEVENTEEN AGAiN / LEARNERS / SUNNY CAR WASH

05.12 (SAT) Pure vol.3
BURGER NUDS / cinema staff

05.13 (SUN) LIVE HOUSE FEVER presents「新代田 環七フェスティバル」
出演者情報は HP へ！

環七フェス
☆イメージ作成中☆

PICK UP!

新代田も弾き語りのライブが出来るお店が増えてますして、昨年「新代田環七フェスティバル」を開催しましたが大好評だったので、今年もやります！しかも T シャツ作成＋刺繍が出来るお店「yacht」が増えて合計 7 店舗！昨年も出演してくれた outside yoshino（イースタンユース吉野氏ソロ）やLOSTAGE 五味岳久氏などどんどん出演者決定しております。FEVER HP をチェックして下さいませー！

05.16 (WED) 平賀さち枝 × DJみそしるとMCごはん “春どまんなかSpecial live” ～さっちゃんとおみそはん～
平賀さち枝 / DJみそしるとMCごはん

05.18 (FRI) teto ＜60 分 2,800 円ツアー＞ SOLD OUT !!
teto / The Mirraz

「新代田から世界へ、羽根木から宇宙へ」と言い出して海外でのイベントが終了しましたが（タイでのイベントの様子は FEVER HP BLOG をご覧ください！）次は何やろうかなーと考えたところ昨年好評だった ” 穏やかな日曜日 ” なイベント「新代田環七フェスティバル」を 5/13 に開催決定！ GW 後ののんびりとした日曜日、新代田へ遊びに来て下さい！ FEVER 西村

FEVER では盛大にデモテープを募集しています。テープでなくても CD、DVD でも、音源素材であれば OK です！！！バンドのプロフィールを添付の上、FEVER まで直接お持ち下さい。後日こちらから連絡させていただきます。ジャンル、経験問わずいろんな音源待ってます！！！！！！

東京都世田谷区羽根木1-1-14新代田ビル1F
京王井の頭線新代田駅徒歩30秒

TEL：03-6304-7899
MAIL：info@fever-popo.com
http://www.fever-popo.com

-Thundersteel 30th Special In Japan- Live Report

2018.3.10,11@CLUB CITTA' Photo : Mikio Ariga

JERO（以下 J）：まずね、俺はライブ始まってあのバックドロップが視界に入って来た瞬間、3秒程固まりました。あのイラストのトッドの顔がNew Renaissance Recordsのアルバムにあるような生首に見えて… 今思い出しても硬直します。

Dirtydog夜死濡魔（以下 D）：わはは!!! EXECUTIONERみたいなね!

J：それ! あのシャツを買わなかった事は末代までの恥!

下北沢Faster Pussycat（以下 F）：そしてあの絵とおんなじ、期待を裏切らない昭和センスのトッド君の今回の衣装にも釘付けでしたよ。

J：あれしまむらで見たことある。

F：マリズロックにも売ってる。

D：（笑）・・・しかし今回のライブはThundersteel完全再現って縛りがある中で、前半のセトリもナイスだった!

J：その要因は、前作の『UNLEASH THE FIRE』の出来が凄く良かったからだと思う。やはり「Land of the Rising Sun」! 泣けますよ、あの曲は。日本人ならば。何と言っても歌詞がたまらんですよ。伊藤先生も出て来るし。

D：あと土曜の一部で燃えたのは「Black Leather and Glittering Steel」!! 俺プリヴィレッジ大好きだから。あと一部の後半にやった新曲「Messiah」が思いっきり「Thundersteel」だったな!

J：イントロなんてまんまだったし、曲の骨組みが同じだよね。

F：まぁみんなそれを求めてるから全然いいでしょ。

J：そしてね、今回のライブ、私的にはドラムのフランクさんがMVPですよ! 見事過ぎるドラミングに惚れ惚れしました。

D：ボビーじゃなくても全然やれんじゃんって思ったね。ボビー程詰め込み過ぎてなくて、マーク・エドワーズみたいにドタバタしてなくて。

J：『Thundersteel』時代の曲も、新曲も、フランクさんが新しい風を吹き込みましたよ! 流石はLiege Lordのドラマーです!

D：そして第二部、お楽しみの完全再現の前に流れた映像と歌詞をもごもご言ってたやつ、結構良かった。

J：あれ、鎧とか剣とかエピックな今のヨーロッパのファン層が求めてるイメージを映像化してきましたね。

F：何回かイントロ寸止めで聴かせて、幕がバサーって落ちて始まるのはかなりアガった。やはり人間焦らされると興奮倍増するもんです。

J：おっさんの焦らしプレイですよ。なかなか攻めて来ない!みたいな。

D：JEROさんはカバーバンドと言いますが、「Thundersteel」の出音一発目、レコードとまんま同じで鳥肌立ちましたよ!

J：仰るとおりです。最初は今回は完全再現か～なんてあまり期待してなかったけど、私がバカでした。気が付けば共に叫び、拳を天に掲げ、涙を流しておりました…

D：でしょ～! それでさぁ、一部は音イマイチだったけど、二部で急に良くなったよな。

J：そう!一部と同じ位置で観てたのに、明らかに出音が変わってびっくりした。

F：二部はレコードそのまんまのバランスでしたね。実はSEだったりして…

D：えーっ、そんな… それはないって! 「Buried Alive（Tell Tale Heart）」のイントロのSEから演奏に入るとこのギターもスムーズで良かったけど、あそこのハモリは生で聴たかった。

J：スーパー・マリオみたいなルックスでおなじみのマイク・フリンツ、マークが弾いていたパートを見事に再現してくれてて泣けてきました。

F：マークとほぼ全く同じに弾けるって凄いよね。今回生で通して聴いて、やっぱ『Thundersteel』って、最初から最後まで捨て曲ないアルバムだなぁって改めて思った。

J：私は当時LPで聴いていたのですが、B面になると「Bloodstreets」で燃え尽きてしまっていたのです。なので最後の2曲は少しダレてしまった…

F：えー! 次に「Run For Your Life」が来るのに!?

D：そうだよ! あの間奏のブレイクのとこ最高じゃん! そういや「Run For Your Life」のコーラス入るとこ、トッド歌ってなくなかった?

J：あー、あそこ難しいよね。トッドにはあいうメロディが曖昧で言葉を乗せるようなのはちょっと苦手なのかな?

F：「Angel eyes」や「Sign of the Crimson Storm」でわかるけど、トッドはハイトーンだけじゃなくミドルも低いとこもバッチリ声が響くとこが凄い。

D：うん。全ての時代の曲をまともに歌える奴なんて他にいないでしょ。トニーはレットの曲歌えないし、ダメオはトニーの曲歌えないし、古くはレットがガイの曲が歌えなかった。

J：今回の完全再現も衰えてしまったトニーでなくトッド君だから出来たんですよね。

F：今年のラウバでのトニー、ボビー入りでまた再現やるってのは結局ポシャったのかな? やってくれるならもう一度観たいけど、もはやトニーが出て来てもトッド君に実力の差をつけられちゃうだけのような…

J：もうトニーは要りません! ところでトッド君、さらに腕太くなってて凄まじい身体になってたけど、今回は脱がなかったですね。

F：今回あの大胸筋を拝めなかった事だけが無念です… 全女性ファンが、いや、その筋の男性ファンも楽しみにしてたに違いないです。

D：トッドの身体ってもはやMANOWAR以上、THOR並みだよね。

F：歌は完璧だったけど、脱がなかったからマイナス10点です。

J：脱がないから減点… しかしトッドには、MICHAEL SCHENKER FESTのヴォーカル3人が束になっても敵わないな。でも地獄大使ことロビンの歌う「Warrior」はちょっと聴いてみたいけど… 輝かないか…

D：怒られるよ! ドンちゃんは今回ちょっと音弱かったですよね。「Johnny's Back」のイントロのベースは最高に良かったですが。

J：弱く感じたのは、今回フランクのバスドラが凄すぎてそれに負けていたかなと。ドン・ヴァン・スタヴァンは基本的にランニングベースで、曲全体の疾走感を産み出すが上手いんですよ。ニックはレスポールを弾くのを止めちゃったんですね。ギターの音がメタリックでアンプも2台で鳴らしてたような。ACCEPTもそうだけど、アンプを鳴らさないバンドが増えてきたこのご時世、ちゃんとマーシャルを鳴らすバンドは最高です。

F：アンコールの「Road Racin」にも感極まったけど、日曜は途中リズムちょっとずれた?

J：だね。もっと難しい曲は間違えずにこなしてたのに惜しかったです。最後の「Warrior」で登場したジョニー軍団、なかなか盛り上がったけど、誰か1人だけ『Thundersteel』のジャケットの人をやって欲しかったな。下半身ハリボテの戦車で出てきたら面白かったのに。ハナ肇の銅像みたいに。

F：（笑）。それをやるのはあなたしかいない! いやしかし、こんなに凄い今のRIOTを、マークがいないから云々のこじらせオールドファンが意固地に認めないのは実に勿体ない!

J：もっと酷い輩になると、「マークいないのにアルバム出すな!」って鼻の穴広げて怒ってるのもいるよ。ホント勿体ないと思う。

D：そんな奴らは放っておきましょう。もうね、とにかく一部の選曲の妙、二部のその名に恥じない完全再現っぷり、そして会場の皆とバンドとの愛!あの場に居られて良かった。RIOTには何度泣かされるんだろう!

RIOT New Album『**ARMOR OF LIGHT**』
ワードレコーズ
［初回限定盤 *ボーナスライヴCD付2枚組］
GQCS-90576/7/¥3,000（+税）
［通常盤］GQCS-90578/¥2,500（+税）
2018.4.25 on Sale!!
<Official HP> **areyoureadytoriot.com**
<Twitter> **@RiotVMetal** <Facebook> **@riotrockcity**

MSG歴代シンガーを迎えたマイケル・シェンカー・フェストが4人目のヴォーカル「ドゥギー・ホワイト」を加え
この豪華メンバーで初のスタジオ・アルバムを発表、一段とパワー・アップしたファン必見の来日公演！

TOKYO ONKYO PRESENTS

8/29(水) 大阪:Zepp Namba
OPEN 6:00PM / START 7:00PM
前売1Fスタンディング¥12,000　2F指定席¥14,000(税込・ドリンク代別途)
(問)キョードーインフォメーション:0570-200-888

8/30(木) 名古屋:Zepp Nagoya
OPEN 6:00PM / START 7:00PM
前売1Fスタンディング¥12,000　2F指定席¥14,000(税込・ドリンク代別途)
(問)サンデーフォークプロモーション:052-320-9100

9/2(日) 札幌:Zepp Sapporo
OPEN 4:00PM / START 5:00PM
前売1Fスタンディング¥12,000　2F指定席¥14,000(税込・ドリンク代別途)
(問)キョードー札幌:011-221-0144

9/4(火) 仙台:チームスマイル・仙台PIT
OPEN 6:00PM / START 7:00PM
前売¥12,000(税込・スタンディング・ドリンク代別途)
(問)キョードー東北:022-217-7788

9/5(水) 東京:東京国際フォーラム ホールA
OPEN 6:00PM / START 7:00PM
全席指定¥12,000(税込)
(問)東京音協:03-5774-3030
●東京音協ロック専用ブログ開設:http://ameblo.jp/tokyoonkyorock/

disk union MUSIC DISTRIBUTION

自分が作ったCD、DVDなどの作品を
全国流通させたい!!
と思ったら、
まずはメールかお電話を!!!

配給先は、タワーレコード、HMV、新星堂、amazon.co.jp 他、大型チェーン店から個人の専門店まで、
全国津々浦々。もちろん、ディスクユニオンでもお取り扱い致します!
専門スタッフが、売り込みから発売、その後の追加受注、清算まで完全にフォローいたします。
詳しい内容は下記までお気軽にお問い合わせ下さい!

disk union ディスクユニオン・ミュージック・ディストリビューション
MUSIC DISTRIBUTION
TEL: 03-3511-9944
FAX: 03-3511-9938
E-mail : distribution@diskunion.co.jp

disk union
DIVE INTO MUSIC.

HARD ROCK / HEAVY METAL

-2018. MARCH- NEW RELEASE INFORMATION

CROSS VEIN
GATE OF FANTASIA

3.21 ON SALE

zenorecords
ZRCV1801
¥3,000(+税)

世界中のクサメロファンが待ち望んだ美しきシンフォニック・メタル・バンドCROSS VEINのニューアルバム

disk union オリジナル特典：①DVD(MV+メイキング) ②イベント参加券

EARTHSTREAM
EARTH SCREAM

3.21 ON SALE

REPENTLESS
RETS5
¥2,500(+税)

全盛期北欧メロディック・デスの煌びやかな疾走サウンドを現代に甦らせるEarthstreamの1stアルバム

disk union オリジナル特典：CD-R(ヴァージョン違い)

アイスクリームネバーグラウンド
ライブアスリート強化計画

3.28 ON SALE

自主制作
ING001
¥1,500(+税)

男女ツインヴォーカルの6人編成、暴レンターテイメントバンド、アイスクリームネバーグラウンド(通称ING)の1stミニアルバム

disk union オリジナル特典：ポストカード

KALMAH
蒼炎

4.4 ON SALE

KING RECORDS
KICP1901
¥2,600(+税)

コッコ兄弟率いるフィンランド産メロディック・デス・メタル・バンドの5年ぶり8thアルバム

disk union オリジナル特典：革キーホルダー

STRYPER
GOD DAMN EVIL

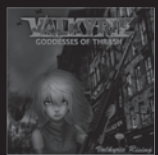
4.11 ON SALE

Marquee/Avalon
MICP11409
¥2,600(+税)

元FIREHOUSEのペリー・リチャードソンが新たに加わった新生STRYPER、約2年ぶりのニューアルバム

disk union オリジナル特典：メモ帳

VALKYRIE
VALKYRIE RISING



4.11 ON SALE

SLUMBER RECORDS
SRCD025
¥2,500(+税)

1985年結成、伝説の女性大阪スラッシュ・メタル・バンド、VALKYRIEの復活アルバム

disk union オリジナル特典：①直筆サイン入り生写真 ②缶バッジ

DIVINEWIND
TRIPLE CROSS

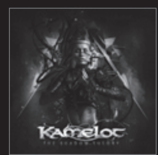
4.11 ON SALE

自主制作
ULMT0011
¥1,111(+税)

光速ギターと叙情的メロディの融合、ネオクラシカル・ヘヴィ・メタル・バンド渾身の3rdアルバム

disk union オリジナル特典：CD-R(未発表ヴァージョン)

KAMELOT
THE SHADOW THEORY



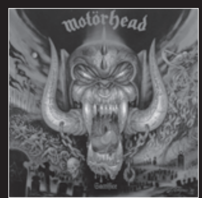
4.25 ON SALE

KING RECORDS
KICP91899 / KICP1899
初回盤:¥5,000
通常盤:¥2,600(各+税)

トーマス・ヤングブラッド(G)率いるメロディック・メタル・バンドKAMELOT通算12枚目のニュー・アルバム

disk union オリジナル特典：クリアファイル

他にも特典付新譜多数ございます!詳しくは http://diskunion.net/metal/、Twitter @diskunionMETAL



メタル・レコード 高価買取実施中!

日本全国、専門スタッフが宅配買取/出張買取します!実家に帰った時、眠っているCDもレコードも買取させていただきます!まずは電話/メールにてお気軽にご相談ください!

今月はMOTÖRHEAD特集!

※掲載タイトル以外も高価買取中!

MOTÖRHEAD『鋼鐵の稲妻』 YX7209CW	¥25,000
MOTÖRHEAD『モーターヘッド』 P11216	¥4,000
MOTÖRHEAD『オーバーキル』 VIP6774	¥3,000
MOTÖRHEAD『エース・オブ・スペイズ』 VIP6751	¥5,000
MOTÖRHEAD『エース・オブ・スペイズ』 VIPX1555	¥18,000
MOTÖRHEAD『極悪ライヴ』 VIP6787	¥2,000
MOTÖRHEAD『アイアン・フィスト』 VIP6824	¥3,000
MOTÖRHEAD『BASTARDS』 202631	¥4,000
MOTÖRHEAD『SACRIFICE』 00876941	¥6,000
MOTÖRHEAD『WORLD IS YOURS』 UDR0003LP	¥2,000

※有効期限:2018年4月30日まで ※記載している買取価格は付属品完備、コンディション良好な場合に限ります。※同じアーティスト、タイトルでもレーベル/規格番号違いは対象外となります。※表示価格は3月27日現在の価格です。相場や在庫状況により変動する場合がございます。※許可なく複製・転載することを禁じます。

ハードロック・ヘヴィ・メタル 専門買取センター

70'sハードロック、NWOBHM、パワーメタル、スラッシュメタル、デスメタル、ブラックメタル、ドゥームメタル等、ハードロック/ヘヴィメタルのCD・レコード・Tシャツ・バンドスコアなど高額買取いたします! 日本全国、メタル専門スタッフが宅配買取/出張買取に対応しますので、まずはTEL/メールにてお気軽にご相談ください。

お茶の水ハード&ヘヴィ買取センター

〒101-0062
千代田区神田駿河台2-6-10
E-mail
do_metal_buy@diskunion.co.jp
営業時間
11:00〜21:00
(日祝11:00〜20:00) 年中無休
買取専用フリーダイヤル
0120-816-950
携帯電話からは 03-3219-5782

新宿ヘヴィメタル買取センター

〒160-0022
新宿区新宿3-28-4 新宿三峰ビル5F
E-mail
ds_metal_buy@diskunion.co.jp
営業時間
11:00〜21:00
(日祝11:00〜20:00) 年中無休
買取専用フリーダイヤル
0120-708-702
携帯電話からは 03-3356-5975

渋谷パンク・ヘヴィメタル買取センター

〒151-0042
渋谷区宇田川町30-7 アンテナ21 5F
E-mail
dp2_punk_buy@diskunion.co.jp
営業時間
11:00〜21:00
(日祝11:00〜20:00) 年中無休
買取専用フリーダイヤル
0120-068-191
携帯電話からは 03-3461-1121

SEX PRISONER
"Tannhauser gate" CD
¥1,800
2018.3.28
EZCT-79

PUTV TOUR

SEX PRISONER / FIGHT it OUT

SEX PRISONER / FIGHT IT OUT JAPAN TOUR 2018

4.19(thu) EL PUENTE Yokohama
Sex Prisoner, Fight It Out, Super Structure, D.C.I.D

4.20(fri) BUSH BASH Tokyo
Sex Prisoner, Fight It Out, Fixed, Elmo, Leech, Thirty Joy

4.21(sat) HOKAGE Osaka
Sex Prisoner, Fight It Out, Palm, Runner, Wrong State, Completed Exposition

4.22(sun) WALL Tokyo
Sex Prisoner, Fight It Out, Friendship, Otus, Payback Boys, Saigan Terror, Numb

LIQUIDROOM presents

BLOODFEAST

GMF
COCOBAT
GARLIC BOYS
HELLBENT
HUSKING BEE
Rocky & The Sweden
WRENCH

18.06.09 SAT LIVE AT EBISU LIQUID ROOM
OPEN 15:30 / START 16:00
前売券：4月7日(土) 10:00より発売：3,500円［税込・1ドリンク代(500円)別途］
問い合わせ先：LIQUIDROOM 03-5464-0800 http://www.liquidroom.net

BLOOD FIRE DEATHの 異常メタル愛好癖 VOL.99

AC/DCを産んだオーストラリアはハード・ロック/ヘヴィ・メタルの先進国であると言えるでしょう。しかしアンダーグラウンドで猛威を振るったスラッシュ・メタルで盛り上がっていた80年代前半においてオーストラリアのバンドで有名なバンドはいなかったと言ってもいい。80年代後半になるとTESTAMENTと日本のOUTRAGEと共に(ここ日本で)ポストMETALLICAの急先鋒に挙げられたMORTAL SINが出現したが、例えばベイエリア・スラッシュやジャーマン・スラッシュと同じように"オージー・スラッシュ"という言い方は一切されなかったぐらいオーストラリアはスラッシュ・メタル不毛の地であったと言える。一方で80年代末期になるとアンダーグラウンドのメタル・シーンはスラッシュ・メタルからデス・メタルへと移行しつつあったが、オーストラリアはその流れに早くから反応していた…というよりはそれを通り超えてカナダのBLASPHEMYやフィンランドのBEHERITとも並べたいブラック・メタルの要素も多分含んだベスチャルなバンドが出現した。それは、ウォー・ブラック・メタルのパイオニアの一つとして挙げられるBESTIAL WARLUSTの前身となったCORPUS MOLESTATIONと奇才Rokが結成したSADISTIK EXEKUTIONである。

メジャー所属にもなったMORTAL SINと強烈にベスチャルだったCORPUS MOLESTATIONやSADISTIK EXEKUTION。対岸に位置するようなバンドが混在していたオーストラリアにおいてそのミッシングリンクとなったのがSLUGHTER LORDというバンド。85年から87年に活動しデモしか残していないバンドだが、そこには後にMORTAL SINのメンバーとなるSteve Hughes<Ds>とMick Burke<G>、そして後にSADISTIK EXEKUTIONの初期メンバーとなるSandy Vahdanni<G>がいたのである。そのSLAUGHTER LORDであるが、80年代半ばというスラッシュ・メタル第1世代が成熟し第2世代が生まれたぐらいの時期においてとんでもなく過激な音を発していた。はっきり言ってしまえば初期KREATORを無茶苦茶にしてデス・メタルにも繋がりそうなサウンド。POSSESSEDという先駆者はいたが、DEATHの前身MANTUS辺りと同様、この当時としては最先端に過激なスラッシュ・メタルを発していた。最先端と言っても単に猛烈な攻撃性を剥き出しにして突っ走るだけ。勢いあまってブラスト・ビート寸前まで行っているドラムもかなり凄い。そしてこの過激さは時代を超越してプリミティヴなカッコ良さがあると思う。ドイツのASSASSINやノルウェーのMAYHEMと並んでアンダーグラウンドでは当時絶対的な支持を得ていたのも当然なサウンドと言える。

そう言えばAT THE GATESがこのSLAUGHTER LORDのカヴァーをしていた。なのでAT THE GATESファンは是非聴いてほしい。AT THE GATESと同じものを期待すると確実に痛い目に合うけど。

text：田村"Blood Fire Death"直昭(diskunion)

ベッド・インの そこまで挿入(イ)れて委員会!? 第四十一回

あなたのおクチの恋人であり、利き手の恋人であり、白濁い恋人であるなんてっ勃ってアイドル、ちゃんまいです♡ちわ〜♡
もうすぐ春…ですね! 優しいアクメが、そっとほほ笑みマングリ返しする季節になってまいりました。春といえば、桜。桜と言えばお花見。お花見と言えば、花びら。花びらといえば、びらびら。びらびらといえば、そう、セックスでございます。ちゃんまいはお花見をするよりも、自らのお花びらびら見られをしてもらえる方がどっちかというとスキスキスーなのです♡そんなお天気ヤリマンお姉さんなちゃんまいの春サキ小紅も色づいてきたところで今回もヌッポシ、ズッポシ、舐り倒していきますんでシクヨロ〜♡

さて、前回〝バブル時代を現代に置き換える遊び〟を常日頃楽しんでいる!という話をしたので今回は拡大バージョンでお送りしたいと思います。
大江千里=現代の星野源説
これはどうだろ! 薄めのしょうゆ顔男性シンガーソングライター。俳優までこなすところまで一致。曲のシティー感もほら!
森高千里=現代のきゃりーぱみゅぱみゅ説
これを人に話すとえぇー?と言われるんですけど、当時話題になった衣装の奇抜さとか(絶対今後何十年かしたら森高を語るようにきゃりーを語る音楽ライターが出てくると思う。)あとはとにかく、このお人形感だよね。きゃりーフィギュアを冷蔵庫で保管して愛でているやつもいるに違いない!
宮沢りえ=現代の広瀬すず説
これもドヤ?? ちゃんまい的にはかなり的を得ているとおもうんですが! このフレッシュさ、無垢さ、美しさ! 今後広瀬すずちゃんに臨むことは、コント番組にでてほしいってことどぶっとびぃ〜ッ!を超える流行語を作ってほしいってことと、早く脱いでほしいってこと。それだけですね。はやく吸った揉んだしてケロ〜!
浅野温子=現代の石原さとみ説
これも人に話すと、とんでもなく反感を買うのですが、あの頃の温子の可愛さをみんな知ってるのかな〜?? モノマネ芸人さんのやってる〝あはっ!〟だけじゃないのだよ…そして、最近のドラマも観るくらいにドラマッ子なちゃんまい、そこはかとなく石原さとみちゃんにはバブル時代のトレンディー女優のイキフンを感じています。わかりやすいコミカルなねちっこい愛嬌の演技、これまさに現代の温子なんですよ。
…ということで、上のクチでお嬢だんかましすぎちゃったのでこの辺でドロン! 久々にちゃんとしたコラムをカキコキさせていただきました♡
ベッド・イン、夏のツアーもあるのでチャックしてクリクリ! そんじゃ!んちゃ! えへ!

『ベッド・イン』…日本に再びバブルの嵐を起こすべく一念勃起した地下セクシーアイドルユニット(益子寺かおり/中尊寺まい)セルフプロデュースで活動中◆最新アルバム『TOKYO』絶賛発売中◆その他最新情報はベッド・インのおツイかパソコン通信サイトで♪

Live Schedule
-EU'S ARSE(ITALY)
& MUSTANG(函館)
JAPAN TOUR 2018-
5/25(金) 新大久保Earthdom
5/26(土) 西横浜EL PUENTE
5/27(日) 函館CASA

eu's arse

イタリアのハードコアと言われて思い浮かぶバンドと言えば、WRETCHED、Indigesti、Raw Power、Negazioneなど、どのバンドもブチ切れたテンションでつんのめりまくりの演奏が特徴的ですが、やはり最大の醍醐味は、何と言ってもイタリア語による独特な響きのボーカル。中でもIMPACTとのスプリットEPでのEU'S ARSEは最高です！なんとも生々しい叫びが耳にこびり付く事この上なし。そんなEU'S ARSEが遂に5月初来日という事で、唯一のオリジナルメンバーであるリーダーでベーシストのGianluca"Killy"にメールインタビューを敢行。彼らの歴史を知り、彼らの"今"を目撃すべし！

Interview:FOLLOW-UP

●EU'S ARSEの歴史について教えていただけますか？

Gianluca"Killy"（Ba/以下G）：バンドのルーツは70年代の終わり頃、ウディネに住んでいた仲間達だよ。ディスコミュージックやFiorucci（イタリアのブランド）が流行ってたけど、俺達はもっと新しいものを見つけようとしていた。当時の歴史的、社会的な状況については知ってると思うけど、イタリアでは民主党や共産主義政党の覇権主義が台頭していて、赤い旅団の活動や経済不況なんかもあった。若者にとってファシストである事がファッショナブルだったみたいだけど、彼らのカウンターカルチャーはドラッグに汚染されシステムに制度化された、ただのヒッピーのようだった。海外ではロナルド・レーガンのせいで米国とソ連の政治的緊張が警戒レベルまで達していて、イタリアに米軍基地があった事で原子爆弾の恐怖を生んだ。その時俺達はパンク、ニューウェーブ、スカなどのオルタナティヴな音楽を聴いてた。そして1980年代になってウディネでRAMONESやUK SUBSのライブがあって、そこから我々の音楽はより"パンク"な方向へ進んだんだ。服装も皮ジャンやスタッズの所謂パンクなものへと変わっていった。そして1981年、機は熟してEU'S ARSEが誕生した。Ruggero、Andreaと自分の3人で始めたんだ。誰一人楽器の演奏はした事が無かったけど、俺達の怒りや不満を表現するのにそんな事は関係なかったよ。Ruggeroはパンクロッカーとして生きた、ウディネで最初のパンクスだった。彼は非常に個性的で、強いカリスマ性を持っていたんだ。Ruggeroに出会った時の事は良く覚えてはいないけど、Andreaは近所に住んでいて、昔からの馴染みだった。一緒にGermsやDead Kennedys、Circle Jerksなんかを聴いてた。そして77パンクムーブメントから派生して、既に当時あったパンクのシーンに飛び込んでいったんだ。Kill TeacherというバンドでRuggeroと一緒にプレイしていたFulvioと出会ったのもその頃で、彼はWicked Wolvesというファンジンを作っていたよ。楽器を演奏する事も出来たし、何より俺達に"楽器の壊し方"を教えてくれたんだ。"THE EU'S ARSE"というバンド名は"ヨーロッパのケツ"っていう意味で、イタリア人がヨーロッパでは全く別の人種と思われている事を皮肉ったものさ。バンド名のチョイスはSEX PISTOLSからの影響を感じるかも知れないけど、俺達にとってはぴったりなバンド名だった。だから今も変わらないんだ。バンドが出来て、まずは宣伝活動をしまくったよ。"THE EUROPE'S ARSE - HARD CORE PUNK"というステッカーを町中に貼ったんだ。そしてVillalta通りのドヤ街に大きな部屋を借りて、そこで練習を始めた。勿論隣人は警察にしょっちゅう通報してくれたよ（笑）。結局そこに居られたのはひと夏だけだった。リハーサルをする場所が無くなった俺達は、全然進歩しなかった。だからしょうがなくギタリストとドラマーを募集して、FulvioとMAXが加入する事になった。そうしてようやくリハーサルルームを見つけた俺達は、ウディネのRocktondaという伝説的なライブハウスで最初のライブをしたんだ。俺はFulvioと一緒にバンドをコントロールしていたんだけど、RuggeroとMAXとでは"NO FUTURE"だと感じて、KKFというバンドをやっていたStinkyとSteveを代わりに入れる事にした。Ruggeroをクビにするのは本当に辛かったんだけど、彼は歌詞を覚える事が出来なかったし、時間を作る事も出来なかった。でも彼はバンドを応援してくれると言った。そうしてようやく物事がうまく転がり始めたんだ。Stinkyはメタルバンドをやっていて、D-BEATをすぐにマスターした。Fulvioはリフの作り方を教えてくれて、一緒に沢山の曲を作り、Steveはそれをヒステリックでパワフルな声で歌った。俺は作曲の他に、当時のガールフレンドのLauraと歌詞を書いた。10曲完成した時に最初の作品を出そうと思い立って、友達の力を借りて1982年に1st EPをリリース出来た。反軍国主義を宣言するために、ジャケットにはRuggeroが軍隊入隊者募集のポスターを破っている写真を使ったんだ。1,000枚プレスして、販売価格は1枚1ドル。勿論大損だったよ。でもお陰でイタリア全土でライブをする事が出来るようになったし、WretchedやImpactなど、友達も沢山出来た。83年になってFulvioがバンドを辞め、代わりに友達のTeoが加入した。その年はDisorderのサポート公演をオーガナイズしたり、ImpactとのスプリットEPをリリースしたりしたよ。その後も沢山のライブをしたけど、結局84年の終わりにStinkyとTeoはバンドを去ったんだ。代わりにMarcoとBoneで新体制を作った。でも長くは続かなくて、85年にBoneの負傷でツアーをキャンセルしなければなくなった時に、バンドも解散する事を決めたんだ。それから色々な事があったけど、今はBone、Rihard、Mark、そして俺の4人で活動をしているよ。

●85年の解散後、2003年に再結成されましたが、どんな理由で？

G：85年に我々が解散した時、メンバー間の仲は正直最悪だった。音的にもメタルの影響が強くなってきてしまったし、お互いを理解し合う事が出来なくなっていたんだ。その時は解散を選んだけど、もう一度始める事をみんなが望んでいたんだと思う。誰が始めた事なのかは忘れてしまったけど、ウディネの近くの町のMortegliano Festで再結成ライブが企画された。当時の精神を持って、80年代の音楽を再び鳴らす事に成功したんだ。そして今もここに居るよ。

●いよいよ5月に初のJAPANツアーが予定されています。多くのファンが長い間待ち望んでいました。

G：ヨーロッパのバンドはみんな日本はツアーをするのに最高な場所だと思っているよ。でも渡航費用のハードルは高くて、実現するのがとても難しいという事も知っている。2008年にMCR COMPANYからLPをリリースしたんだけど、その時にもJAPANツアーの話があったんだ。結局それは水泡と化したんだけどね。それから10年が経ってようやくその時が来たんだ。MUSTANGとスプリットEPをリリースして、ツアーを回ることが出来るなんて！MUSTANGと、レコードをリリースしてくれるBREAK THE RECORDSには本当に感謝しているよ。実際に日本へ行って色んなバンドとプレイ出来ると思ったら興奮を抑え切れないよ。

●最後に日本のパンクスへメッセージをお願いします。

G：俺達のアンセム、「IL PUNK NON E' MORTO」を聴いた事はあるかい？あれは"PUNK'S NOT DEAD"という意味なんだ。大切なのは最後まで自分自身でいる事。誰も他の人の代わりになる事は出来ないんだからね。

EU'S ARSE : MUSTANG
『SPLIT EP 2018』
（7インチレコード）
BREAK THE RECORDS／BTR-060／￥1,300(+税)
2018.4.11 on Sale!!

Daymare tabloid

2018.MARCH
Daymare recordings
www.daymarerecordings.com
twitter.com/daymarerec
www.facebook.com/daymarerecordings

ハードコアに感化されたエレクトロニック・ボディ・ミュージック! 来日記念盤!!

YOUTH CODEはロサンゼルスを拠点とするEBMユニットだ。FRONT 242やSKINNY PUPPYといった先駆者直系の音楽性ながら、より直接的にハードコアに感化された音楽性は攻撃的だ。
メンバーのRyan Georgeは激ハードコア・バンドCARRY ONの主要メンバーであり、YOUTH CODEの成り立ちはAMERICAN NIGHTMARE～COLD CAVEにオーヴァーラップする。90'sリヴァイヴァルの中心的存在と目されるのも当然かもしれない。
盟友ともいえるNAILSやDEAFHEAVENとの結び付きは強く、昨秋には同じカリフォルニア拠点のゴシック・クイーンCHELSEA WOLFEの全米ツアーに同行するなど、シーン内でのフックアップも完璧。恐らく今年リリースされるであろう新作は注目の的でもある。

Commitment To Complications
CD: DYMC-294 ¥2,400+tax
4/18 on sale

来日公演決定!
4/20（金）大阪Socore Factory
4/21（土）新宿Live Freak
4/22（日）新大久保Earthdom w/ ENDON

EARTHのメイン・マンにしてドローン・マスター、最新ソロ作をリリース

生誕50年、その人生の半分以上をEARTHでの活動に費やしてきたドローン・マスターDylan Carlson。古くはKurt Cobain（NIRVANA）やChris Cornell（SOUNDGARDEN）、Mark Lanegan（SCREAMING TREES）の盟友として最初期のSub Popを支え、その後はSUNN O)))やBorisといったヘヴィ・ミュージック・アーティストに直接的な影響を与えてきた偉大なミュージシャンだ。
EARTHでの活動と並行し、昨年はTHE BUGとのジャンルを超えたコラボレーション作をNinja Tuneからリリースしコラボ・ライヴを敢行するなど、アーティストとしての幅を広げ続けている。ここに到着したのは最新ソロ・アルバムである。
元々は2016年5月にレコーディングされ、2017年中のリリースを噂されていたが、THE BUGとのコラボ作での活動に集中したいがためか、今まで繰り越されてきたもの。前ソロ作『Gold』は映画のサントラ盤だったためよりインプロ色の強い小曲が並んでいたが、本作では近年のEARTHを思わせるようなアメリカーナ調の長尺楽曲を披露している。このままバンド形態で演奏すればそのままEARTHの新作として通用する作風だ。
日本先行発売、日本盤のみボーナス・トラック（Robin Trowerカヴァー）収録。

Conquistador
CD: DYMC-295 ¥2,400+tax
*including bonus tarck
4/25 on sale

CITY OF CATERPILLAR（US） heaven in her arms Japan Tour 2018

3年間という短い活動歴ながら、2000年代のエモ/激情HCシーンで圧倒的存在感を示したCITY OF CATERPILLARが奇跡の再始動、15年の時を経て、再度日本の地を踏む。2003年にenvy/Sonzai Recordsの招聘で初来日、解散後はDARKEST HOUR、PG.99といったバンドに派生し、その名を轟かせていった。不穏な旋律に潜む幻想的で美しい一筋の光、洪水のように襲いかかるノイズギターの音壁、激しさと静かさが繰り返される暗く陰りのある美しいサウンド…バンド史上最後になるであろう日本ツアー、伝説を目撃できる機会を逃すべきではない。

eye of the sheep in target

去年はプライオリティが高い作品が続いたのと、ツアー/ライヴに比重を置いたので意図的にタイトル数を絞りましたが、今年はエグめ/チャレンジングなものも含め色々出していきます。4月から9月は月2-3作ペース、年内いっぱい大体決め込みました。4月のYOUTH CODEを含め、来日案件もいくつか仕込み中。ひとつは来月あたりに発表しようかと。ご期待下さい…

5/9 on sale

THE BODY
I Have Fought Against It, But I Can't Any Longer
CD: DYMC-296
¥2,400+tax

now on sale

COFFINS+ SECOND TO NONE
nine cocoons of dens to F
CD: DYMC-293
¥1,800+tax

GODFLESH
Post Self
CD: DYMC-292
¥2,600+tax
*including 3 bonus tracks

THE BODY+FULL OF HELL
Ascendin A Mountain Of Heavy Light
CD: DYMC-291
¥2,400+tax
*including bonus track

Nepenthes
Confusion
CD: DYMC-290
¥2,400+tax

ALL PIGS MUST DIE
Hostage Animal
CD: DYMC-289
¥2,400+tax
*including bonus track

UNSANE
Sterilize
CD: DYMC-288
¥2,400+tax
*including 2 bonus tracks

upcoming show: ENDON 4/14（土）国分寺Morgana 4/29（日）新大久保Earthdom w/ SWARRRM

all on Daymare

disk union
DIVE into MUSIC.

NEW RELEASE INFORMATION [APR.] 2018
PUNK/HARDCORE

ディスクユニオン・オリジナル特典付他、今月の注目リリース！※掲載の商品は全て通販でもご予約頂けます！

2018 3.23 ON SALE!!

SYSTEMATIC DEATH

『SYSTEMA 1011』
FADE-IN RECORDS/
FIRC029/¥2,000(+税)

1983年結成、日本が世界に誇る伝説的ハードコアバンド "SYSTEMATIC DEATH"海外でのレコードリリース用に録音された2作品を1CDに纏めてリミックスした、現メンバーによる待望の国内初音源!!

1983年結成。世界を席巻する"Japanese Hardcore Punk"の代表的バンドのひとつ。結成当初より積極的に国内ツアー、遠征を行い、地元横浜では自主シリーズ"PIPECUT GIG"を企画、国内HCシーンの礎を築いたバンドとして数えられる。88年の解散以来、20年の永きに渡り活動を停止していたが、2008年過去作品を纏めた"SYSTEMANIA1"、"SYSTEMANIA2"のリリースを機に突如としてワールドツアーを敢行、復活の狼煙を上げる。以降、毎年の様に海外遠征を行い、大型フェスを含め4度のUSツアーと3度のEUツアー、そのいずれも成功を収め、国内に於いては海外の伝説的HCバンドのサポート、ホストを務め、ワールドアンダーグラウンドの友好に一役買っている。再始動10年目に当たる本年リリースされる当アルバムは、2016年のメンバーチェンジ、Napalm Deathとの国内CLUB QUATTROツアーを経て、17年のEUツアー&USツアーに向け、それぞれ海外でのレコードリリース用に録音された2作品を1CDに纏めてリミックス。今作収録の11曲中10曲が新メンバーであるRyu(ex-THINK AGAIN)とYuzuka(borderline case)により作曲されたもので、変化を恐れずに突き進む"Don't Stop My Way"の精神が体現されている。若き遺伝子が投入され、よりソリッドに、よりスリリングに進化を遂げた、現メンバーによる待望の国内初音源。

RUDE BONES
Just Started
SKA IN THE WORLD/SIWI263/¥2,500(+税)

diskunion限定
7インチ付限定版
¥4,000(+税)

東京と米国VERSION CITY STUDIOで録音された、リリーフランキー主演映画「パーフェクト・レボリューション」オープニング曲含む全10曲、結成25周年イヤーにふさわしい8thアルバム。ディスクユニオン限定でキラーチューン"YOU BY MY SIDE"をシングルカットした7インチ付セット有！生産数量限定の激レア化必至7インチです！

SA
GRACE UNDER PRESSURE(初回限定盤)
テイチクエンタテインメント/TECI1580
¥4,000(+税)

diskunionオリジナル特典
缶バッジ

シングル・ナンバー『MY ONLY LONELY WAR』を含む、全12曲収録のニュー・アルバムが完成！前作アルバム『WAO!!!!』は、SAの持つ音楽的バックホーンの深さを打ち出した作品だったが、今作ではSAの「核」を真空パック！剥きだしの言葉とサウンドが斬り込んでくる、SAの「核」が強く貫かれた作品となっています。

Xero Fiction
SEVENTEEN/Silent Story
Xero Xero records/XERO009/¥1,200(+税)

XERO FICTIONが「日本語に」更なる進化を遂げた。彼らが提示する新たなポップサウンドが炸裂したシンガロング必須、一度聴いたら誰でも覚えられる「Seventeen」、THE「80年代のpowerpop風」な「Silent story」からバンドの進化を感じ取って欲しい。毎回アナログは即完売となりますのでお早めにどうぞ！

DON KARNAGE
reminiscence
DISRUFF/DFF5/¥2,000(+税)

diskunionオリジナル特典
布バッチ

カオティック・ハードコアの聖地・札幌で育まれた真の90's激情系継承者 DON KARNAGE。zArAme, ex-COWPERS, ex-SPIRAL CHORDの竹林現動プロデュースで、DISRUFFより待望のフル・アルバムリリース!! ebullition, THREE ONE G, vermiform, Gravity周辺のルーツを独自に咀嚼し進化させ、混沌と狂気を体現したこのサウンドに、全国の激情ファン、多くのバンドマンからも絶賛の声が寄せられている大注目バンドDON KARNAGEの1stフル・アルバム!!

DEAD FISH BOYS
return of the everlasting youth
STRAIGHT UP RECORDS/
RLCA1197/¥1,852(+税)

diskunionオリジナル特典
缶バッジ

『激しい』『速い』『短い』『ポップ』北のセンス全て詰め込んだSAPPORO THRASH HARDCORE"DEAD FISH BOYS"が、STRAIGHT UP RECORDSより廃盤になった自主レーベル作品1st mini album "Lazy life strikes back",cassette tape single"CYCLE EP", Pee-Wee RECORDSよりリリースされたV.A"Bumpy fields forever"参加曲4曲をまとめた、編集盤アルバムをリリース!

SKITKLASS
THE RULER OF THE FUCKIN'ASSHOLES
POGO 77/POGO93/¥1,000(+税)

現在日本のみならず、世界的にハードコアフリークからその動向を期待されている、謎の覆面ハードコアバンド、SKITKLASS！極限定的な場所でのみ発売されたカセットテープが話題を呼び、その後HARDCORE SURVIVESからリリースされた7インチは即完売。そして間髪入れずにリリースされる2nd EP。今回も即完売必至。今後も目を離すべからず！

CENTiPEDe
bystander
POGO 77/POGO90/¥1,000(+税)

ex-ADIXIONの櫻井氏率いる、KILLER PUNKROCKバンド"CENTiPEDe"同POGO77より2014年にリリースされた1st EP同様の、日本語詞で歌われる、POPでありながら剥き出しのパンクロック！細かい事はごちゃごちゃ言わなくていい。とにかくぐわーっと、ぶわーっとやっちまおう。そう、パンクロックってこうだ！

END IN BLOOD
The Past Is Not The Best
FORBIDDEN GARDEN REC/
FGR004/¥1,852(+税)

diskunionオリジナル特典
キーホルダー

2014年BaのKEI229、VoのANALを中心に結成された東京出身4ピースバンド。これまでに2枚のデモ音源のリリースのみだが、圧巻のLIVEと楽曲のクオリティが各地で人気を博し、Arkangel, First Blood, Fall Silent等のジャパンツアーにも多数出演し、関東のみならず今や全国レベルでのインパクトと知名度を誇るEND IN BLOODが今回満を持して、正式音源にして初のフルアルバムをリリース！

パンク・ハードコア専門買取センター!!

パンク専門スタッフが1点1点丁寧に査定させて頂きます。
それぞれの右記買取センターまでお気軽にお問い合わせ下さいませ。

★★★★★★★★★★★★★ < 70'S PUNK/POWER POP/PSYCHOBILLY/SKA/80'S HC/EMO/NEW SCHOOL HC/JAPANESE PUNK etc... > ★★★★★★★★★★★★★

宅配専門の買取センターも是非ご利用下さい！

●ディスクユニオン買取センター
買取専用フリーダイヤル 0120(111)649
携帯からは03(3511)9950

	買取専用フリーダイヤル	携帯からは	E-mail
● 新宿 買取センター:	0120(396)067	03(5363)9779	ds_punk_buy@diskunion.co.jp
● 渋谷 買取センター:	0120(068)191	03(5489)8191	dp2_punk_buy@diskunion.co.jp
● 柏 買取センター:	0120(651)660	04(7165)1660	dk_buy@diskunion.co.jp
● 下北沢 買取センター:	0120(478)301	03(3467)3231	dsk@diskunion.co.jp
● 池袋 買取センター:	0120(455)741	03(5956)4550	dib@diskunion.co.jp
● 町田 買取センター:	0120(177)249	042(720)7249	dm_buy@diskunion.co.jp
● 横浜西口 買取センター:	0120(553)421	045(317)5022	dy2_buy@diskunion.co.jp
● 吉祥寺 買取センター:	0120(178)063	0422(20)8063	dkp_buy@diskunion.co.jp
● さいたま 買取センター:	0120(060)166	048(832)0076	dki@diskunion.co.jp
● 千葉 買取センター:	0120(678)214	043(224)6372	db@diskunion.co.jp
● 立川 買取センター:	0120(523)513	042(528)0186	dta_buy@diskunion.co.jp
● お茶の水 買取センター:	0120(146)560	03(3295)1461	do1_buy@diskunion.co.jp
● 高田馬場 買取センター:	0120(358)045	03(6205)5454	dbb@diskunion.co.jp
● ディスクユニオン大阪店:	0120(946)300	06(6949)9217	dok@diskunion.co.jp

パンク・ハードコア商品の新入荷情報や、各店セール情報、通信販売や商品の試聴、メルマガ情報や委託販売のお問い合わせ等、パンク情報はコチラからどうぞ!!

PC/スマホ http://diskunion.net/punk
携帯 http://diskunion.net/mobile

FOLLOW-UP 主要設置店

disk union

●お茶の水駅前店 ●お茶の水HARD ROCK/HEAVY METAL館 ●神保町店 ●新宿本館 ●新宿PUNK MARKET ●新宿HEAVY METAL館 ●新宿中古センター ●dues新宿
●大宮店 ●渋谷パンク・ヘヴィメタル館 ●渋谷中古センター ●池袋店 ●高田馬場店 ●下北沢店 ●吉祥寺店 ●中野店 ●立川店 ●町田店 ●横浜関内店 ●横浜西口店
●千葉店 ●柏店 ●北浦和店 ●大阪店

<北海道・東北>
札幌:KLUB COUNTER ACTION / 札幌:BESSIE HALL / 札幌:PENNY LANE 24 / 札幌:STRAIGHT UP RECORDS /札幌:UNISEX HAIR MAKE CAOS. /
札幌:HALL SPIRITUAL LOUNGE /札幌:ヴィレッジヴァンガード 札幌平岡店 /
札幌:PIGSTY / 旭川:mosquito / 旭川:CASINO DRIVE / 苫小牧:さいとう楽器店 /
青森:QUARTER / 秋田:LIVE SPOT 2000 / 弘前:Mag-Net / 弘前:亀HOUSE /
盛岡:DISK NOTE 盛岡 / 盛岡:CLUB CHANGE WAVE /
岩手・宮古:焼肉・冷麺もりもり / 岩手・宮古:KLUB COUNTER ACTION MIYAKO /
岩手大船渡:FREAKS / 宮城石巻:BLUE RESISTANCE / 仙台:MACANA
仙台:BIRDLAND / 仙台:ヴィレッジヴァンガード 仙台ロフト店 /
仙台:CLUB JUNK BOX / 山形:酒田hope / 山形:酒田MUSIC FACTORY /
山形:HANG OUT / 山形:新庄VICTROL CAFE / いわき:CLUB SONIC /
郡山:CLUB #9 / 郡山:HIPSHOT / 郡山:PEAK ACTION

<関東・甲信越>
甲府:CONVICTION / 甲府:KAZOO HALL / 長野:LIVE HOUSE J /
ヴィレッジヴァンガード イオン上田店 / 新潟:PHASE / 新潟:WOODY /
新潟:Cosmic Farm / 新潟:OVAL RECORD / 新潟:FUNNY SWEET
新潟:LIVE HALL GOLDEN PIGS / 新潟:CLARITY /水戸:LIGHT HOUSE /
水戸:record KNOX / 守谷:SOUND STUDIO OZ /
日立:RECORDS SHOP CONQUEST / 宇都宮:HEAVEN'S ROCK
宇都宮:HELLO DOLLY / 宇都宮:POP GARAGE /秩父:ladder ladder /
秩父:STUDIO JOY / 足利:Rockshop S.O.S / 足利:CLUB SOUTH BBC /
高崎:club FLEEZ / 北浦和:KYARA / 熊谷:HEAVEN'S ROCK /
熊谷:MORTAR RECORDS / 藤岡:studio BOOGIE / 埼玉:新都心HEAVEN'S ROCK /
北越谷:SOUND STUDIO GREGORI /越谷:EASY GOINGS /千葉:LOOK
千葉:スタジオペンタ 千葉 / 千葉:スタジオペンタ 千葉2 /
千葉:スタジオペンタ 千葉駅前 / 千葉:サウンドスタジオパックス船橋店 /
柏:TIME SHOCK / 柏:JUDGE / 柏:ALIVE / 柏:サウンドスタジオ M3rd /
柏:サウンドスタジオ M5th / 稲毛:K'S DREAM / 川崎:CLUB CITTA' /
横浜:club LIZARD / 横浜:STUDIO JUST / 横浜:イシバシ楽器 横浜店 /
横浜:F.A.D. / 横浜:SUTUDIO BLOOM! / 横浜:スタジオペンタ 横浜 /
横浜:BRIXTON MARKET / 横浜:B.B. STREET / 横須賀:かぼちゃ屋 / 横須賀:FAN /
江の島:カレー喫茶 OPPA-LA / 鵠沼海岸:green / 厚木:Thunder Snake ATSUGI /
厚木:じょいふるミュージック厚木 / 大和:INSIDE BOUND / 首都圏:PEACE MAKER /
首都圏:リンキィディンクスタジオ

<東京>
小岩:BUSH BASH / 島村楽器 錦糸町リヴィン店 / 浅草:ROLLING CRADLE /
一之江:EMTEN / 鶯谷:Monster Cafe / 秋葉原:CLUB GOODMAN /
秋葉原:STUDIO REVOLE / 大岡山:PEAK-1 / 五反田:スタジオペンタ 五反田 /
目黒:(株)フェイスインターナショナル / 目黒:いろはスタジオ /恵比寿:Guilty /
赤坂:エクスプロージョンワークス / 代官山:UNIT / 渋谷:eggman /
渋谷:O-WEST / 渋谷:O-NEST /渋谷:CLUB CRAWL / 渋谷:クリッパーズ /
渋谷:ROLLING CRADLE SHIBUYA / 渋谷:スタジオペンタ 渋谷シティサイド /
渋谷:スタジオペンタ 渋谷ムーンサイド / 渋谷:CYCLON / 渋谷:乙 /
原宿:Dr.Martens / 原宿:Attractions / 原宿:EROSTIKA / 中野:MOON STEP /
中野:CLUB HEAVY SICK ZERO / 新宿:INOXIA RECORDS SHOP DPT /
新宿:Studio JAM / 新宿:RED CLOTH / タワーレコード新宿店 / 新宿:Monster Cafe /
新宿:LOFT / 新宿:スタジオペンタ 新宿 /新宿:Live House MOTION /
新宿:Live House Marble / 新宿:Live Space MARZ / 新宿:NINE SPICES /
新宿:専門学校 ESPミュージカルアカデミー / 初台:WALL / 代々木:Zher the ZOO /
代々木:御天 千駄ヶ谷店 / 幡ヶ谷:CLUB HEAVY SICK / 高田馬場:CLUB PHASE /
早稲田:ZONE-B / 新大久保:EARTHDOM / 三軒茶屋:ヘヴンズドア /
下北沢:CLUB QUE / 下北沢:Club 251 / 下北沢:ERA / 下北沢:BASEMENT BAR /
下北沢:GARDEN / 下北沢:SHELTER / 下北沢:MOSAiC / 下北沢:45 REVOLUTION /
下北沢:KOGA MILK BAR / 下北沢:EXPLOSION From OUTER SPACE
八幡山:BLACK MEANS / 世田谷:JUSTROCK STORE (WEB SHOP) /
高円寺:P.I.G. STUDIO / 高円寺:CLUB LINER / 高円寺:FUŪDOBRAIN
高円寺:THE CLURACAN / 高円寺:UK EXTRA / 高円寺:Club ROOTS
高円寺:Record Shop BASE / 阿佐ヶ谷:studio Zot / 池袋:スタジオペンタ 池袋 /
池袋:スタジオペンタ 池袋ロックオン / 池袋:スタジオペンタ 池袋ハンズサイド /
池袋:MANHOLE / 大塚:スタジオペンタ 大塚 / 吉祥寺:ROCK JOINT GB /
吉祥寺:Warp / 吉祥寺:CRESCENDO / 吉祥寺:スタジオペンタ 吉祥寺ノースサイド /
吉祥寺:スタジオペンタ 吉祥寺サウスサイド / 吉祥寺:スタジオペンタ 吉祥寺武蔵 /
荻窪club Doctor / 西荻窪Pit Bar / 調布:スタジオ・ニド / 武蔵境:STATTO /
小金井:東京工学院専門学校 / 国分寺:山田堂 / 町田:NUTTY'S / 立川:BABEL /
立川:スタジオペンタ 立川 / 立川:スタジオペンタ 立川III / 八王子:MATCH VOX /
八王子:GATEWAY STUDIO 八王子店 / 八王子:日本工学院ミュージックカレッジ
八王子キャンパス / 蒲田:日本工学院ミュージックカレッジ 蒲田キャンパス

<中部・東海>
富山:もみの木ハウス / 富山:SOUL POWER / 富山:CLUB MAIRO /
金沢:van van V4 / 金沢:AZ / 福井:福井CHOP / 静岡Live House UMBER /
静岡:LIVE BAR FREAKYSHOW /静岡:SUNASH /静岡:騒弦 / 浜松:FORCE /
清水:SOUND SHOWER ark / 浜松:G-SIDE / 浜松:LIVE HOUSE MESCALIN DRIVE /
沼津:QUARS / 沼津:RAZZMATAZZ / 名古屋:Tokuzo / 名古屋:DAYTRIP /
名古屋:Club Diamond Hall / 名古屋:今池HUCK FINN / 名古屋:LIVE HOUSE OYS
名古屋:BOTTOM LINE JAPAN INC / 名古屋:CLUB QUATTRO / 名古屋:EROSTIKA /
名古屋:CLUB ROCK 'n' ROLL / 名古屋:Studio246 NAGOYA /
名古屋:APOLLO BASE / 名古屋:CLUB UP SET / 名古屋:Record shop ZOO /
名古屋 Live&Bar Red Dragon / 岐阜:BRAVO / 岐阜:柳瀬ANTS /
四日市:CLUB CHAOS / 四日市:SNOT / 四日市:garage peanuts /
四日市:VORTEX / 安城:夢希望 / 安城:MEIBAN堂 / 豊田:NEO 斑屋 /
豊橋:ハヤシ楽器 / 岡崎:新星堂 アピタ岡崎北店

<関西>
滋賀:LIVEHOUSEB♭ / 滋賀:U-STONE / 京都:MUSE / 京都:磔磔 / 京都:GATTACA /
京都:music place MOJO / 京都:LIVE BAR BAD BRAIN / 大阪:十三FANDANGO /
大阪:BIG CAT / 大阪:新神楽 / 大阪:PANGEA / 大阪:TIME BOMB /
大阪:ROCK AND ROLL MUSEUM / 大阪:Studio GEN / 大阪:Studio A /
大阪:ライブハウス エレパティ / 大阪:堺東Goith / 大阪:B.O.T. music school 北堀江 /
大阪:Studio246 OSAKA / 大阪:Studio Q / 大阪:北堀江 club vijon /
大阪:AKASO / 大阪:VOX STUDIO アメリカ村 / 大阪:CLUB MASSIVE /
大阪:HM STUDIO 心斎橋 / 大阪:MUSIC BAR 新神楽 / 大阪:心斎橋club DROP /
大阪:心斎橋MUSE /大阪:心斎橋CLAPPER / 大阪:BEARS / 大阪:難波MELE /
大阪:HOKAGE / 大阪:SHOCKER!!! / 大阪: EGYPT RECORDS / 大阪:S.A. MUSIC /
大阪:ヴィレッジヴァンガード なんばパークス店 / 兵庫:尼崎 Deepa / 神戸:太陽と虎 /
神戸:BLUE PORT / 神戸:108 / 神戸:Studio246 WEST / 奈良NEVER LAND /
和歌山:CLUB GATE / BASS ON TOP 近畿圏12店舗

<中国・四国>
米子:AZTiC laughs / 鳥取:ブックセンターコスモ岩吉店 / 岡山:PEPPER LAND /
岡山:RACCOS BURGER / 岡山:MO:GLA / 岡山:ライブハウス・イマージュ /
岡山:CRAZY MAMA / 津山:津山K2 / 津山:TSUTAYA ノースランド店 /
広島:CAVE-BE / 広島:NAMIKI JUNCTION / 広島:CLUB QUATTRO /
広島:DUMB RECORDS / 広島:MISERY / 高松SOUND SPACE RIZIN' / 高松:DIME /
高松:TOONICE / 山口:防府 トレンド書店防府今宿店 / 松山:SALON KITTY /
松山:Double-u studio / 高知:CARAVANSARY / 高知:高知X-PT /
高知CHAOTIC NOISE / 愛媛:新居浜Jeandore / 愛媛:Double-u studio

<九州>
福岡:VIVRE HALL / 福岡:DRUM Be-1 / 福岡:福岡CB / 福岡:DRUM SON /
福岡:FUKUOKA BEAT STATION / 福岡:HEACON / 福岡:田口商店 /
福岡:TINY SQUARE / 福岡:ナイスビーム / 福岡:music studio CUBE / 福岡:graf /
福岡:PARKS / 福岡:MRT / 福岡:Early Believers / 福岡:YABAN / 福岡:GROOVIN' /
福岡:音楽堂PLUM / 福岡:BE BOP / 福岡:KEITH FLACK / 福岡:四次元 /
福岡Queblick / 小倉:kokura FUSE / 長崎:DRUM Be-7 / 長崎:studioDo! /
北九州:MURCUS / 熊本:DJANGO / 熊本:DRUM Be-9 / 大分:OITA TOPS /
鹿児島:SRHALL / 鹿児島:CAPARVO HALL / 鹿児島:WALKINNSTUDIO /
北九州:GROOVE MUSIC /北九州:LIVE SPOT WOW!

<沖縄>
宜野湾:ヒューマンステージ / 中頭郡北谷町字港:反骨商店 NEVER MIND /
宮古島:RICQUORS YUM YUM

FOLLOW-UP
毎月25日発行
広告/記事掲載 大募集!!
1/4P広告なら¥6,500!!!(税別)
インタビュー掲載なら
1P ¥40,000~(税別)(※価格応相談)
diskunion他、全国のCDショップ、ライブハウスやスタジオなど約500箇所に設置・配布しております。
詳細はこちらまでお気軽にお問い合わせください。
<e-mail> follow-up@diskunion.co.jp <tel> 03-3511-9930
発行1ヵ月後にwebでも公開中! ▶ diskunion.net/follow-up
@followup_zine @followupzine

編集後記

2007年から11年という長きに渡り、本誌のデザインを担当していただいていた高梨暢夫さんが、今月号をもってFOLLOW-UP卒業となりました。かつてはTHE VICKERSというロックバンドのG/Voだった高梨さん。某業界の御大にも怯まず物申す結構オラオラな高梨さん。編集後記のベイスターズネタがつまらないでおなじみの高梨さん。実は年に一度、忘年会でしか会わない高梨さん。丁寧な仕事でとってもステキなデザインをたくさん作ってくれた高梨さん。本当にどうもありがとうございました!!! 今年もぜひ忘年会には来てください、自腹で! ★S

★先日ふと、ギターのピックアップってどういう仕組みなんだろ???と部屋のSGを眺めながらモヤモヤし始め、いろいろと調べてみました。「磁石とコイルの上で磁性体が動くと、コイルに電流が流れるという現象」らしいです。さらにモヤモヤしてくるのが、アンプやエフェクターは進化しているのに、楽器本体自体は昔からたいして進化していないのではと、、、★楽器自体は変わっていないと言いつつも、個性あふれる音楽がどんどん生まれてくることを考えると、モノ自体よりも、使い方次第なんだな~と思うのであります。★んなコト言いつつも横の高梨メンが引退っぽい感じなんですが、なんかお疲れ様。いやいや、ベツクチで呑みが待ってますよ。
★FxUxJxI / OUTRO

先月、感謝の編集後記を書いてしまい、書くことが無くなった高梨暢夫です。「ありがとう みなさんどうもありがとう」と全く無駄な句で文字数を増やしてみます。思い返せばこの編集後記で書くことがなさすぎて、宇宙人になってみたり、時にはスパイになってみたりもしました。何気にここの「編集後記を読んでるよー」と言ってくれた人も多く、くだらないエロネタを書いた時は、わざわざメールで「馬鹿じゃないの?」と貴重な時間を割いてくれた友人もいました。それもこれも僕への期待と履き違え、あっちゃこっちゃ方向を見失いながら書いて来たのも、今となっては良い思い出です。…と、かなりの無理矢理感に自分が誰よりも驚いておりますが、デザイナーとしては2007年より、また読者として「EXTRA」時代から色んなものをこのフリーペーパーからいただいて来たと思って感謝しかありません。11年間、皆さんどうもありがとうございました!
★高梨暢夫 / デザイナー

何十年かぶりに「一人で来日アーティストを観にいく」ってのをやってみました。なんかちょー新鮮(フレッシュ)でした。そんなに大きな会場でなく、自分でも時々出るくらいのライブハウスだったんですが、この歳になると遊ぶタイミングが合う友達もあんま居なくって、消去法的に一人で行きました。なんか普段「行きゃー誰かいんだろ」で友達がいないことが無いような場所での完全なる「ぼっち」経験は、10代の頃に好奇心と期待と不安が綯い交ぜも状態で、地下への階段をドッキドキで降りてった頃を思い出して、なんかグッと来ました。入場したあと、喫煙所でタバコ吸ってたら、若い男の子に若い女の子が「◎◎さんですよね~」って話しかけて居ました。きっとどっかのバンドの誰かなんだろうなぁと思いました。当然、終演後呑みもせずにまっすぐ帰りました。イェイ!イェイ!
★小林哉 / FxBxG

次号は 4/26(木) 発行予定です!! よろしくお願いします!!!

FOLLOW-UP APRIL 2018 vol.176 発行:株式会社ディスクユニオン 発行形態:月刊/毎月25日
編集部 〒102-0074 東京都千代田区九段南3丁目9番14号7階 TEL 03-3511-9930 FAX 03-3511-9941 E-MAIL follow-up@diskunion.co.jp
印刷:株式会社ディー・フリー www.d-free.co.jp TEL 03-3525-8728
FOLLOW-UP WEB http://diskunion.net/follow-up/
発行から1ヶ月後に全ページWEBで見れます! 過去のバックナンバーもVOL.85号から全部見られます!!

NAGOYA Live House HUCK FINN

Live House HUCK FINN SINCE 1981

LIVE SCHEDULE 2018 4

3/30 (FRI) [HUCK FINN PRESENTS]-Various encounter 2018 #1-
新しい学校のリーダーズ 1st アルバム「マエナラワナイ」レコ発
「無名ですけど何か？～有名になんかなりたくない。なりたいけど。～」

クリトリック・リス vs 新しい学校のリーダーズ

3/31 (SAT) [HUCK FINN presents] - 春の LOSTAGE まつり 2DAYS-

-DAY 1-
LOSTAGE / Age Factory /
The Firewood Project / NOT WONK

4/1 (SUN)

-DAY 2-
LOSTAGE / milkcow /
VACANT DJ: yama

4/6 (FRI) [The Cheserasera 春の喧騒 2018 スリーマン Tour]

The Cheserasera /
WOMCADOLE / the quiet room

4/7 (SAT) [THRASHOUT "We Wanna All Get Laid" TOUR FINAL!!]

THRASHOUT / FIVE STATE DRIVE /
OWEAK / ONIONRING

4/8 (SUN) [KING BROTHERS Presents 20th Anniversary & New アルバム先行発売ツアー『wasteland』]

KING BROTHERS O.A. : COUNT PHANTOM

4/10 (TUE) [今池ビッグバン Vol.4]

ハヤシタケシ (ONIONRING) / シンテツヤ (SUNs) /
シミズシュウヘイ (BEAGLE) / いおり (PUFFER COD) /
カトウタイキ (bit and pieces) / コーダ (UPPER CUT) /
りょーぺ (Smic Box) / ハナフサリュウノスケ (THE NOiSE) /
Task(ONIONRING) / etc...

4/14 (SAT) [plus/minus 38]

Discharming man / チーターズマニア /
Dancebeach / Climb The Mind

4/15 (SUN) [あ・き・ら・め・る・な 其の弐拾八]

AKA-MAMUSHI DRINK / HOWLING BRATS /
BURN BLUE BOP / バラモンズ /
MaRS VIOLET LOVE / the 1970 /
うずまきがみ / APACHE CROTALE /
EAST HEART PENGUINS / THE MONSTERS
DJ: バード小林 / MAI / 正 / オチシノブ / YUKI

4/18 (WED) [GRIND FREAKS / FUNGUJE 1st GIG]

FUNGUJE / マグダラ呪念 / VOIDD /
PUNHALADA / mur mur / UNHOLY GRAVE

4/20 (FRI) [HiYT prs. More stupid fun!]

HiYT ---「STEP FORWARD」レコ発初日！！ /
ガナリヤ、サイレントニクス --- 活動再開 Large DEMO
「閑話 " 急 " 題」レコ発 " 誰も知らないツアー "/
Take out bright ---"Brilliant" TOUR 2018 /
Drive Boy / kiseki / ASTLO

4/21 (SAT) [PG vol6] -NODAYSOFF 1st ALBUM "OLD CITY BRAND"release Party-

NODAYSOFF / T.J.MAXX / BEYOND HATE /
DEAD- REFORCE / ONE LINE /
LOST COMMITMENT
DJ:UTCHY [SNOT / M.A.G SIDE] /
USK [DUB O THIRTY / Delicious sand]

4/22 (SUN) [玉 ROCK ! ! ! 2018]

the 原爆オナニーズ / NOT REBOUND /
SOUTH BOUND / TAMA SKABAND
オープニングアクト : Chihana

4/26 (THU) [ぼくたち わたしたちのツアー " すずき、今月で 40 だってよ "]

BUGY CRAXONE

4/27 (FRI) [39degrees "Resolution" Release Tour]

39degrees / COUNTRY YARD / etc...

4/29 (SUN) [GRIND FREAKS] -HELLFIRE Japan Tour 2018-

SABBAT / HELLFIRE (from CHINA) /
S.H.I / GALAMUTA / DEMOLITION /
CLANDESTINED / METAL-X / UNHOLY GRAVE

4/30 (MON) [Unveil Raze Presents "In Dying Day vol.02"]

Unveil Raze / Vorchaos

5/2 (WED) ["For" tour]

uri gagarn Guest : 羊文学

5/3 (THU) [BEAGLE pre. forever pop teenage vol.3]

KONCOS / either / ANGRY NERD /
△ / BEAGLE / etc...

5/4 (FRI) [CITY OF CATERPILLAR (USA) & heaven in her arms Japan tour 2018]

CITY OF CATERPILLAR (from U.S.A) /
heaven in her arms / killie / Heliostrope

地下鉄桜通線８番出口下車。東へ徒歩３分。イオンの南側、ホテル長楽の看板が目印。

〒464-0850 愛知県名古屋市千種区今池 5-19-7 石井ビル B1
052-733-8347 hkf@huckfinn/co.jp
http://huckfinn.co.jp

『コウイチロウこらむ』 (XERO FICTION,GASOLINE,NOT REBOUND)

【気づけば 3 年目】
このコラムを書き出して 3 年目だそうです。
意外や意外。毎日ブログを更新していた身としては 1 ヶ月に一回くらいは楽勝ですね。
3 年、、、早いですね。過去の記事を読み返してみたところ、バンドが忙しいやら、
リリースがあるやらそんな事が書いてありました。、、、今と変わらねぇ。。。
今まで熱中した事、自分の生活の一部になっていたものを振り返ると、、
幼稚園児の時はヒーローもの、小学生の時はミニ四駆、
中学生は海外の音楽とギター ←この辺りから全く変化なし。
と言うわけで XERO FICTION の 7 インチが遂に 3/21 リリースされます！笑
初の日本語と言う事で嬉し恥ずかしな気分ですが、よりポップに
(ポップスにはならねぇ！) 仕上がっておりますので是非是非手にとってください！
来月は音源の事でも触れていきたいと思います。よろしく！

『白痴淫乱不倫火山』

～第96章 ポスト・フェミニズム闘争編～

文責：イライザ・ロイヤル（イライザ・ロイヤル＆ザ・総括リンチ）

みんな元気？ 花粉症の季節ね…。ああ、忌々しいったら。

さて、今年に入ってからというもの、芸事あれやこれや。4/7～14『P.Y.T.Paris』というフェスにイライザ・ロイヤル＆ザ・総括リンチで出演するため、パリに遠征予定よ。詳細はSNSもしくはフェス公式サイトをチェックしてね。パリ公演に向け物販を充実させるべく、先月はCDのレコーディング＆ジャケット撮影を。今回は、ここ10年お世話になっているdiwphalanxからのリリースではなく、完全自主制作。自主なんて私、90年代以来よ。あの頃は、デモテープをせっせせっせと自宅でダビングし、コンビニでコピーしたジャケを切って折って封入して…。さすがに21世紀に突入したので今回はそういった形のDIY作業は無しで（いや、個人的には好きな作業だから、そういうのはバンドではなく、ソロの時に）。

新作CDのプロデュース、レコーディング、ミックス、アートワークはすべて、BORISのAtsuoさんにお願いしたの。マスタリングは中村宗一郎さん（Peace music）、撮影は松島幹さん。

私、イツメンとの阿吽の呼吸でできる仕事も大好きだけど、初めての相手との制作は何もかもが新鮮で楽しいので、どちらも大好き。今回は、Atsuoさんとの初めての現場。彼との作業によってヴォーカリストとしての幅が拡がった（気がする）し、ミックスの過程で音作りに関する視野と可能性も拡がった（気がする）し、やっぱり相手選びって重要よね。しみじみ。

パリから戻ったら日本でも販売しなきゃね。5曲入りですべて既存曲だけど、新録でアレンジも違うから、気分はほぼ新曲みたいなモノよ。流通アレコレは、全国のレコード店、ディストロ皆様、お世話になりまーす。日本国内での初出しは、5/6（日）高円寺De Live（SHOTGUN PLAYBOYZ企画）でのライヴ物販の予定よ。よろしくね！

宣伝ばかりになっちゃったわね。本当はもっと下衆近況をタラ書きしたいのに。

大変よ、日常が。あまりに性欲過多で気が狂ったのかと思い、どのレベルから精神疾患になるのか『ニンフォマニア』で検索をかけてみたり、男娼を買おうとしたら手続きの煩雑さに怒り狂ったり、わりと散らかし放題。

パリ公演、新作CDなどの最新情報はSNSをチェックしてね。

＜イライザ近況＞
・CD　イライザ・ロイヤル＆ザ・総括リンチ1stアルバム『おんなの独立記念日』発売中。
・ミニアルバム自主製作中。
・『イライザのおにぎり屋さん』を中心に、和・洋家庭料理、焼き菓子を手がけています。ケータリング出店依頼や、来日ミュージシャンのヴェジタリアン/ヴィーガン対応など、料理業務は内容フルオーダーで随時受付中。詳細はfollowup編集部もしくはSNSでご相談ください。
＜イライザ執筆情報＞
・トラッシュカルチャーマガジン『TRASH-UP』コラム連載
＜ライヴ情報など近況はSNSにて随時アップ＞
twitter→@erieza_royal
facebook→erieza.royal
instagram→eriezaroyal
チェックしてね！

Photography by Miki Matsushima

果樹園残酷物語 第九十八回

二宮友和（トンカツ）
PANICSMILE／uIIIn

東日本震災。あの時、人の命や暮らしが何よりも尊いのだと強烈に思い知ったのだが、七年経って未だに避難問題は解決せず、原発は四基も再稼働しているなんて、まあ想像できないでもなかった。特に長らく東電と昵懇で原発を推進してきた自民党に政権交代した時には絶望的な気持ちになった。一方で当時目にした記事に「民主政権は官僚と対立しているで復興が進まない。自民政権なら実行力を発揮できる」というようなことを書いてあるのを目にしたが「そんなもんかね、でもそんな実行力をろくでもないことに発揮するのが安倍晋三だろう」と思った。というのも安倍が最初に総理をやった一年足らずの間に片っ端から強行採決をして戦慄したのを覚えているからだった。そしてその戦慄は想像以上に巨大化して帰って来た。秘密保護法や安保法制など憲法をないがしろにした法案をめっちゃ強引に強行採決するなどやりたい放題である。そして前述の記事にあった「官僚を統制しての実行力」これも想像を遥かに超えたものであった。内閣人事局を新たに設置し、人事を掌握して従属せざるを得ない状況に置いた。そうして今の森友学園や加計学園問題での省庁の働きに繋がっている。追いつめられて命を落とす人まで出てきている。そしてこの期に及んで安倍や周囲の政治家たちは公務員に全ての責任を押し付けようとしている。心の底から憤りを感じる。今回、久しぶりに国会前のデモに参加した。ECDがいなくなって初めての大きなデモだ。だがシュプレヒコールのビートや波の中にECDのソウルが宿っている。「言うこと聞かせる番だ俺たちが」こんな事態でも安倍に押し切られるようなことがになれば民主主義を取り戻す機会はしばらく訪れないかもしれない。今が正念場である。

ユニオンのHPは新品＆新譜の予約だけではありません！

ディスクユニオンのホームページで中古商品が購入できます！

廃盤品や新品では見かけなくなったお買い得プライスの中古品もお取り扱いしてます！ QRコードはこちら!! →→→

もちろん新品と合わせてご購入もできます！

毎日出品がありますので要チェックです!!

5,000円以上お買い上げで送料無料!!

アクセス方法
PUNKホームページから 「中古情報」のバナーをクリック！／スマートフォンの方は左上の「中古」をクリック！

さらに！全店の新品＆中古品の在庫検索ができるんです!!

なんと、自宅にいながらパソコンで、移動中の電車の中からスマートフォンで、ディスクユニオンの新品/中古品の在庫検索ができるんです!! QRコードはこちら →→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→
※2015年2月1日以降はディスクユニオン・メンバーズにご登録された方のみのサービスとなりました。ご了承下さい。こちらからアクセスし新規登録していただければご利用可能となります。

disk union ディスクユニオン

アクセス方法
PUNKホームページから 画面左下段に進んで「オンライン在庫検索システム」のバナーをクリック！
スマートフォンの方は一番下段に進んで「店舗在庫検索サービス」をクリック！
入力画面からお探しのアーティストや作品名で検索! 在庫ありの店舗にご連絡頂き、店頭or通信販売で購入できちゃいます!

《ご注意・お願い》●『店舗在庫検索サービス』はあくまで店舗の在庫を検索するサービスです。『diskunion中古オンラインSHOP』(http://diskunion.net/used/)からは直接ご購入頂けませんのでご了承下さい。●掲載されている商品はセール用取り置き品や所在不明等で現物確認、販売出来ないケースがございます。予めご了承の上、ご利用をお願い申し上げます。まずは電話かメールにて該当店舗への問い合わせにてご確認お願い致します。 ●在庫の確保ができれば該当店舗でのお取り置き、また通信販売もご利用いただけます。(お取置きは翌日まで、セール品は対象外とさせていただくことがございます) ●在庫情報は前日の営業終了時のものです。 ●在庫の情報は刻々と変わります。品切れの際はご容赦ください。●店舗の混雑状況により店舗からの返答が遅れる場合もございますので、ご了承の程宜しくお願いいたします。

DIWPHALANX records http://diskunion.net/diw/

DIWPHALANX RECORDS NEWS

OLEDICKFOGGY 日本全都道府県縦断79会場TOUR!!!

OLEDICKFOGGY「Gerato TOUR 2018」
03月18日（日）東京 新宿LOFT（ワンマン）
03月23日（金）秋田 LIVE SPOT 2000
03月24日（土）岩手 盛岡CLUB CHANGE
03月25日（日）栃木 宇都宮HEAVEN'S ROCK VJ-2
03月31日（土）岡山 津山K2
04月01日（日）和歌山 CLUB GATE
04月06日（金）青森 弘前MAG-NET
04月07日（土）福島 OUT LINE（ワンマン）
04月08日（日）埼玉 熊谷HEAVEN'S ROCK VJ-1
04月14日（土）徳島 CLUB GRINDHOUSE
04月15日（日）奈良 NEVER LAND
04月21日（土）高知 CARAVAN SARY
04月22日（日）兵庫 姫路FAB-SPACE
04月27日（金）愛知 豊橋CLUB KNOT
04月28日（土）静岡 沼津POCO（ワンマン）
04月29日（日）大阪 心斎橋CONPASS
05月03日（祝）東京 下北沢BASEMENT BAR AND THREE
05月04日（金）岐阜 柳ケ瀬ANTS
05月05日（土）三重 鈴鹿ANSWER
05月11日（金）山口 湯田ORGAN'S MELODY
05月12日（土）島根 出雲APOLLO
05月13日（日）鳥取 米子MOON&SPOON
05月18日（金）滋賀 大津B-FLAT
05月19日（土）兵庫 神戸太陽と虎（ワンマン）
05月20日（日）静岡 磐田FM STAGE
05月26日（土）群馬 高崎CLUB FLEEZ（ワンマン）
05月27日（日）千葉 LOOK
06月02日（土）宮崎 SR BOX
06月03日（日）鹿児島 SR HALL
06月08日（金）福岡 小倉FUSE
06月09日（土）福岡 博多QUEBLICK
06月10日（日）福岡 久留米GEILS
06月16日（土）愛媛 松山DOUBLE-U STUDIO
06月17日（日）香川 高松DIME
06月23日（土）京都 MUSE
06月24日（日）三重 四日市CLUB CHAOS（ワンマン）
06月29日（金）山形 米沢LIVE ARB
06月30日（土）新潟 GOLDEN PIGS BLACK（ワンマン）
07月01日（日）福島 いわきCLUB SONIC
07月07日（土）福井 HALL BEE
07月08日（日）長野 THE VENUE
07月13日（金）熊本 DJANGO
07月14日（土）佐賀 GEILS
07月15日（日）長崎 STUDIO DO!
07月16日（祝）大分 CLUB SPOT
07月20日（金）神奈川 横浜F.A.D
07月21日（土）宮城 仙台ENN 2ND
07月22日（日）茨城 水戸LIGHT HOUSE
08月04日（土）三重 松坂M'AXA
08月05日（日）島根 松江B1
08月06日（月）広島 TO FUTURE
08月10日（金）岩手 宮古KLUB COUNTER ACTION
08月11日（土）岩手 大船渡KESEN ROCK FREAKS
08月12日（日）宮城 石巻BLUE RESISTANCE
08月18日（土）愛媛 新居浜JEANDORE
08月19日（日）岡山 PEPPERLAND
08月24日（金）京都 福知山STUDIO FARM
08月25日（土）静岡 UMBER
08月26日（日）静岡 浜松G-SIDE
09月01日（土）愛知 名古屋CLUB QUATTRO（ワンマン）
09月08日（土）福岡 博多QUEBLICK（ワンマン）
09月09日（日）広島 福山MUSIC FACTORY
09月14日（金）福島 会津若松KARAN堂
09月15日（土）新潟 小千谷市山本山高原山頂広場
09月16日（日）富山 CLUB MAIRO
09月17日（祝）石川 金沢VANVAN V4
09月21日（金）北海道 旭川MOSQUITO
09月22日（土）北海道 帯広REST
09月23日（日）北海道 北見夕焼けまつり
09月24日（祝）北海道 札幌KLUB COUNTER ACTION
09月29日（土）大阪 梅田CLUB QUATTRO（ワンマン）
10月05日（金）沖縄 那覇OUTPUT
10月06日（土）沖縄 宮古島YUM YUM
10月12日（金）山梨 甲府KAZOO HALL
10月13日（土）福島 郡山PEAK ACTION
10月14日（日）栃木 足利 CLUB SOUTH BBC
10月20日（土）山形 酒田HOPE
10月21日（日）宮城 仙台MACANA（ワンマン）

TOUR FINAL
10月28日（日）東京 日比谷公園 野外大音楽堂（ワンマン）

OLEDICKFOGGY

2018年10月28日（日）
日比谷野外大音楽堂
OLEDICKFOGGY
Gerato TOUR 2018 FINAL
OPEN 16:00 / START 17:00
指定席 ¥5,000

二次先行抽選受付中!!
3/19(月)12:00～4/01(日)23:59

OUTCAST SONS NITE

NEIGHBORS　CABALLERO POLKERS
HOOT STRINGS　DRUNK BIRDS
THE EREXIONALS　THE FOOTSTEPS
NO ALL　THE RODEOS　VOOOLLTA
ロス・ランチェロス　THE SWING KIDS

DJ
KAKEI (THE WILD ROVER)
MINORU (PUNK ROCK LOCAL WARABI)
NAKANO (DRINK 'EM ALL)
TOSSY (HELL CALLING)
YWK1 (VITE!)

2018
04.29(SUN)
新宿LOFT

OPEN/START
16:00/16:30

ADV:
2000YEN (+1D)
DOOR:
2500YEN (+1D)

P:106-798
L:71423
info:
outcastsons@gmail.com

ATOM -AGE VAMPIRE IN 308 BALZAC

BALZAC OFFICIAL WEB: www.balzac.jp　http://twitter.com/Balzac_jp

2018.3 March NEWS

20年前に初登場したBALZACのトレードマークでもある BONE Tシャツが完全復刻!

BALZACのトレードマークでもありますBONE Tシャツですが、1998年の初登場以来、幾度もアレンジを加えられ現在も定番アイテムとして現行販売されておりますが、20年前のオリジナルの版下から完全復刻したオリジナルバージョンが完全再現で現在発売中!

BALZAC BONE LONG SLEEVE T-SH
※Tシャツも有り
【問い合わせ】
SHOCKER（電話）06-4390-8869（通販）http://shocker.ocnk.net

レアナンバーだけを演奏するワンマンライブを決行

BALZACの普段のライブではあまり演奏されない曲、これまでライブではほとんど演奏されなかった曲、最近のライブではあまり登場がなくなった曲、シングルのB面的なナンバーを中心にセレクトしたナンバーだけでセットリストを組んだワンマンライブを実現。更に、V.A作品の参加作で発表された、これまでライブではほとんどやらなかったカバー曲などもこの日は演奏いたします。ライブ当日、ご参加いただいた方にはメンバーセレクションのミックスCD非公式海賊盤『B-side BALZAC』（非売品）をプレゼント!

3月31日（土）大阪南堀江Sound Kitchen QUPE
『B-side Balzac』（ワンマンライブ）
OPEN 16:30 / START 17:00 前売り¥2,800 / 当日 ¥3,300 ドリンクオーダー別
入場者全員にCDプレゼント

1998年にスタートし2004年に一旦開催を終了していた自主イベント『EVILEGEND-13』が13年ぶりに開催決定

1996年から2005年あたりまでBALZAC自主イベントとして開催してきました『EVILEGEND-13』が13年ぶりに復活! BALZACにゆかりのあるバンドが出演いたします。特に、今年でSOBUTとは出会って約20年を迎え、ちょうど初めてのツアーを一緒に回ってから20年になります。その後、1999年にスプリットアルバム『OLDEVILS』を発売するに繋がっていく事でも、BALZACにとってとても重要な出会いでした。そんなSOBUTの他にも、2010年に一緒にスプリットシングルを発表したRADIOTS、HIROSUKEと雑誌『BOLLOCKS』で表紙を飾ったHAT TRICKERSら多数のバンド、DJ陣が出演。入場者先着で100名にイベントポスターをプレゼントいたします。

EVILEGEND-13
2018.4.29.sun. Open / Start 16:00
Shimokitazawa ReG
Balzac / Radiots / Sobut / Hat Trickers / Musica Familia / Death Waltz
Ticket: Adv. ¥2,800 (+1drink) / Door ¥3,300 (+1drink)
e-plus / Shocker 06-4390-8869 / Shocker web store http://shocker.ocnk.net

DJ: Higo-Vicious / モチヅキマサル / B@L / Sakura
Total Info. Balzac Fiendish Club 06-6531-5601

4月29日（日・祝）東京下北沢ReG
『EVILEGEND-13』
OPEN/START 16:00
前売り ¥2,500 / 当日 ¥3,000 ドリンクオーダー別

【出演】
BALZAC / RADIOTS / SOBUT
HAT TRICKERS / MUSICA FAMILIA
DEATH WALTZ
【DJ】
HIGO-VICIOUS / モチヅキマサル
B@L / SAKURA
※先着入場順で100名に
イベントポスタープレゼント

その他のライブスケジュール

5月12日（土）名古屋今池GROW　5月13日（土）大阪難波BEARS

disk union Monthly Sales Chart TOP10

FEBRUARY 2018

PUNK/HARDCORE

1. **BRAHMAN**「梵唄 -bonbai- 」(CD) TOY'S FACTORY/TFCC86632
2. **チャッカーズ**「日本緑地化計画」(CD) FADE-IN RECORDS/FIRC028
3. **COFFINS + SECOND TO NONE**「nine cocoons of dens to F」(CD) Daymare Recordings/DYMC293
4. **SWARRRM**「こわれはじめる」(CD) LongLegsLongArms Records/3LA023
5. **ITA（板垣正信）**「CEMETRY GATES vol.2」(CD) DDA CONFIDENTIAL/DDAMDC011
6. **チャッカーズ**「日本解放最前線」(CD) FADE-IN RECORDS/FIRC026
7. **SKITKLASS**「kaos och forstorelse 4-latars EP」(ファインチレコード) HARDCORE SURVIVES/HCS062
8. **the blue leeching ambulance songs**「vanished noise」(CD) FINE TUNING/FINETUNING33
9. **ANTI CIMEX**「VICTIMS OF A BOMB RAID - THE DISCOGRAPHY」(CD) DISSONANCE/DISS099CDBX
10. **V.A.**「VILLAINY PRISON PUNK CHARTBUSTERS」(CD) VILLAINY PRISON RECORDS/VIR027

HARD ROCK/HEAVY METAL

1. **THOUSAND EYES**「Day of Salvation」(CD+DVD/CD) BLOODY EMPIRE/OTCD6331/32 / OTCD6333
2. **SABER TIGER**「HALOS AND GLARE - The Complete Trilogy」(CD BOX) HYPE NATION/HNCR0010
3. **BAND-MAID**「WORLD DOMINATION」(CD+BLU-RAY/CD+DVD/CD) 日本クラウン/CRCP-40545 / CRCP-40546 / CRCP-40547
4. **ARK STORM Feat. MARK BOALS**「Voyage Of The Rage」(CD) キングレコード/KICS-3672
5. **ANGRA**「ØMNI」(CD+DVD/CD) ビクターエンタテインメント/VIZP-156 / VICP-65481
6. **BAND-MAID**「MAID IN JAPAN」(CD) 日本クラウン/CRCP-40550
7. **MICHAEL SCHENKER FEST**「RESURRECTION」(CD+DVD+Tシャツ/CD+DVD/CD) ワードレコーズ/GQCS-90519 / GQCS-90522 / GQCS-90524
8. **ANTHEM**「ATTITUDE 2017 - Live and documents -」(BLU-RAY+CD/DVD+CD/BLU-RAY/DVD) ワードレコーズ/GQXS-90307/9 / GQBS-90341/4 / GQXS-90310 / GQBS-90345/8
9. **ROYAL HUNT**「CAST IN STONE」(CD+DVD/CD) キングレコード/KIZC-432/3 / KICP-1874
10. **ADRASTEA**「Pathetic Bluemoon」(CD) Black-listed/BLRC00105

JAPANESE ROCK/POPS

1. **はっぴいえんど**「HAPPY END＜45回転2LP＞」(LP) FUJI/FJLP1003
2. **小沢健二**「アルペジオ（きっと魔法のトンネルの先）」(CD) ユニバーサルミュージック/TYCT39071
3. **°C-want you!**「君だけさ/モコゾウ・ブギ」(EP) 雷音レコード/RHION20
4. **フィロソフィーのダンス**「ダンス・ファウンダー（リ・ボーカル・バージョン）」(CD) PHILOSOPHY OF THE WORLD/UXCL144
5. **校庭カメラアクトレス**「ミギヒダリ」(CD) tapestok records/TPSTK15
6. **夢のはてまでも**「SAKA-SAMA」(CD) TRASH-UP!! RECORDS/TUR22
7. **カネコアヤノ**「群れたち」(CD) WE ARE/WRCA16
8. **Yogee New Waves**「WAVES」(LP) HMV Record Shop/HRLP089
9. **くるり**「その線は水平線」(CD) ビクターエンタテインメント/VICL-37359
10. **Taiko Super Kicks**「Fragment」(CD) Taiko Super Kicks/TSK1

ディスクユニオン JAPANESE ROCK & INDIES

日本のROCK&INDIES

disk union

NEW RELEASE INFORMATION (APR.2018)

PICK UP ITEM!!!

The Pen Friend Club

『Garden Of The Pen Friend Club(CD)』
1 Penpal Records/PPRD-0003/¥2,500(+税)

『飛翔する日常/Don't Take Your Time(7インチ)』
2 Penpal Records/PRDU-0001/¥1,400(+税)

disk union オリジナル特典
duesイベント参加券
■日時:2018年4月22日(日) OPEN 13:00 / START 13:30
■会場:dues新宿 ■内容:ライブ+サイン会 ■出演:The Pen Friend Club

60's中期ソフトロック色を強く押し出したザ・ペンフレンドクラブ流ポケットシンフォニーたる5thアルバム発売!

生ストリングスに『夜長オーケストラ』を迎えペンクラサウンドに新たな彩りと変化を与えた一枚が完成!ロジャー・ニコルス『Don't Take Your Time』、バート・バカラック『My Little Red Book』、大瀧詠一『水彩画の街』、ラスカルズ『Good Lovin'』などのカバー群に、平川雄一オリジナル新曲『Our Place』、『飛翔する日常』やRYUTistへの提供曲を改詞改題した『まばたき』など計11トラックを封入!4.21(土)RECORD STORE DAYには限定7インチ・シングル『飛翔する日常/Don't Take Your Time』も発売!

ディスクユニオン・オリジナル特典付他、今月の注目リリース!! ※掲載の商品は全て通販でもご予約頂けます!

非常階段
MADE IN USA
テイチクエンタテインメント/TECH-25522/¥2,315(+税)
disk union オリジナル特典
CD-R

VIOLENCE! NOISE! LIVE! LA熱狂の連続爆音!亜米利加実況録音銀盤!"キング・オブ・ノイズ"「非常階段」が2017年に行ったアメリカツアーより、ロサンゼルスのライブと、ケンタッキー、ベルビューで行われた"T. 美川"のソロライブを収録。

SOLEIL
My Name is SOLEIL
ビクターエンタテインメント/VICL-64973/¥2,315(+税)
disk union オリジナル特典
缶バッジ

魅惑の14歳!それいゆを擁するスーパー・バンド、SOLEIL(ソレイユ)のメジャーファーストアルバム。ビートルズ、フィル・スペクター、60'sガールポップ、をとことん追求し、全てモノラル録音ということだわりの12曲を収録。

どついたるねん
どついたるねん
キングレコード/KICS-3690/¥2,500(+税)
disk union オリジナル特典
キーホルダー

「最高は今!」"東京で一番かっこよくて、おもしろいバンド"どついたるねんメジャー1stフルアルバムをドロップ!

アーバンギャルド
少女フィクション
【初回盤】前衛都市/FBAC-50/¥3,800(+税)
【通常盤】前衛都市/FBAC51/¥2,800(+税)
disk union オリジナル特典
クリアファイル

本年2018年でCDデビュー10周年を迎えるアーバンギャルドの10周年記念アルバムにして、2年4ヶ月振り8枚目のオリジナルアルバム!アルバム発売週の週末(4.8)には、10周年記念公演を中野サンプラザホールで行う。

Yuka & Chronoship
SHIP
キングレコード/KICS-3687/¥3,000(+税)
disk union オリジナル特典
缶バッジ+未発表音源CD

Yuka & Chronoship大航海時代到来!! 大海原へ漕ぎ出す記念碑的金字塔!! ジャパニーズ・プログレッシヴ・ロックの新鋭艦"Yuka & Chronoship"NEXUSレーベル移籍となるメジャー・デビュー・アルバムが堂々完成!! 圧巻のコンセプト・アルバムが新世代プログレッシヴ・ロックの幕開けを告げる!!

赤いくらげ
赤裸々
らいおっとレーベル/RICD-1024/¥1,852(+税)
disk union オリジナル特典
CD-R

三軒茶屋発ガレージサイケな三人組赤いくらげ。初の全国流通盤が完成。砂の山、嘘つきなどのライブ定番曲や愛情、わがままなどの新曲も入った12曲入り。地下のライブハウスから最高の一番上を目指す一枚。

BACK TO THE NY
リベンジ
押入れの奥のレコード/OSIR1001/¥2,000(+税)
disk union オリジナル特典
缶バッジ+duesイベント参加券

名古屋発"普通"のバンド「BACK TO THE NY」通称バクニュー。過去の経験や積み重ねを咀嚼し噛み砕き余計なものを全て削ぎ落し吐き出した断捨離ロック。足すことも引くことも出来ない「ちょうど良い」歌とメロディー。能書きとテクノロジーによってこんがらがってしまったミュージックに彼らの音楽が真っ向から問いかける。

虎の子ラミー
予期せぬ事態と必然の園
TORANOKO RECORDS/TNKR-1002/¥2,000(+税)
disk union オリジナル特典
クリアファイル

サファリロックバンド「虎の子ラミー」が2年ぶりに全国リリース!彼女たちから放たれるパワフルなサウンドは、どのジャンルにもあてはまらない唯一無二のバンド。新体制となり、新たな虎の子ラミーの出発を現した1枚。

LIZARD
BABYLON ROCKER
SS RECORDINGS/SS-107A/¥2,800(+税)
disk union オリジナル特典
正方形ジャケット缶バッチ

東京ロッカーズを代表するリザードの2nd album「バビロン・ロッカー」がW紙ジャケット仕様で再発売!! 1980年に発表した本作は鬼才MOMOYOプロデュースによる傑作アルバム!!

日本のロック・ポップスCD・DVDレコード・音楽本など高価買取いたします!

ロカビリー、エレキ歌謡、GS、日本のフォーク・ロックからJ-POP、インディーズまで特に廃盤、貴重盤は高額査定致します。
内容/枚数によってはスタッフがお伺いしダンボール手配から配送まで対応させて頂くことも可能です。まずはお気軽にご相談下さいませ。

	買取専用フリーダイヤル	携帯からは	E-mail
新宿 買取センター:	0120(396)067	03(5363)9779	ds_punk_buy@diskunion.co.jp
渋谷 買取センター:	0120(068)191	03(5489)8191	dp2_punk_buy@diskunion.co.jp
柏 買取センター:	0120(651)660	04(7165)1660	dk_buy@diskunion.co.jp
下北沢 買取センター:	0120(478)301	03(3467)3231	dsk@diskunion.co.jp
池袋 買取センター:	0120(455)741	03(5956)4550	dib@diskunion.co.jp
町田 買取センター:	0120(177)249	042(720)7249	dm_buy@diskunion.co.jp
横浜西口 買取センター:	0120(553)421	045(317)5022	dy2_buy@diskunion.co.jp
吉祥寺 買取センター:	0120(178)063	0422(20)8063	dkp_buy@diskunion.co.jp
さいたま 買取センター:	0120(060)166	048(832)0076	dki@diskunion.co.jp
千葉 買取センター:	0120(678)214	043(224)6372	db@diskunion.co.jp
立川 買取センター:	0120(523)513	042(528)0186	dta_buy@diskunion.co.jp
お茶の水 買取センター:	0120(146)560	03(3295)1461	do1_buy@diskunion.co.jp
高田馬場 買取センター:	0120(358)045	03(6205)5454	dbb@diskunion.co.jp
ディスクユニオン大阪店:	0120(946)300	06(6949)9217	dok@diskunion.co.jp

宅配専門の買取センターも是非ご利用下さい! ●ディスクユニオン買取センター:買取専用フリーダイヤル 0120(111)649 / 携帯からは 03(3511)9950

日本のROCK&INDIES商品の新入荷情報や、各店セール情報、通信販売や商品の試聴、メルマガ情報や委託販売のお問い合わせ等、日本のROCK&INDIESの情報はコチラからどうぞ!!

PC/スマホ http://diskunion.net/jp 携帯 http://diskunion.net/mobile

DISK UNION STAFFS NEW DISC REVIEW

V.A. / A TRIBUTE TO BROCCOLI – R.S.V.P.
FIXING A HOLE/FIX-90/渋谷パンク・ヘヴィメタル館:KOBAYASHI

奇跡の復活で再来日も果たした90年代UK MELODICを代表するBROCCOLIのトリビュート作品。割と活動歴の長いバンドから新人バンドまで、CHOPPERのトリビュートと同様に日英中心で38組も収録した2枚組。SNUFFのSimonも参加しています。トップを飾るCTGは現メンバーとなって初となるレコーディング作品。ブックレットはBLEWとCHOPPERのSPLITシングルにも使われた写真で、BROCCOLIが初来日した際に、カップリングで来日したCHOPPERのメンバーにより落書きされた、ツアー中の高速道路の伝言板です。各バンドによってアレンジの大小はありますが、改めて原曲の良さを再確認。

Heavy Load / Stronger Than Evil
NO REMORSE/TCD83417/渋谷パンク・ヘヴィメタル館:Dirtdog夜死濡魔

こんなにも愛おしいメタルがあるでしょうか。こちらは83年の3rdアルバムで、歌詞は北欧らしいヴァイキング系の雄々しい内容なんですが、ヴァイキングというにはあまりにボーカルの音程が危なっかしくハラハラさせるので、テクニック偏重の当時の日本メディアに酷評されていたように記憶していますが、決して臭くないのに胸を締め付けるようなメロディや、スピードメタル以前の心地よいスピード感、また、当時のNWOBHM辺りにも触発されたようなところもあり、正統派メタルなんて言葉では済まされない素晴らしいアルバムです。2nd『Death Or Glory』(邦題は白夜伝説(笑))も早く再発して欲しい!!!

DEAD FISH BOYS / return of the everlasting youth
STRAIGHT UP RECORDS/RLCA1197/営業部 PUNK部門:安藤

札幌THRASH HARDCORE、DEAD FISH BOYSの入手困難音源をぶち込んだ編集盤CD。SLANGやzArAme、THE KNOCKERSなどなど、同郷の先人のインパクトが非常に大きい中でも独自の路線で活躍し、日本狭しと全国を飛び回る大注目バンド。速くて激しく、そしてフックの効いたPOP感を持ち、一度ライブを目撃すれば自然と体が揺れる揺れる。そのうち体がぶつかり合って大きなモッシュピットを形成する。良い音楽がかっこよく鳴っていれば演者が要求しなくてもピットは勝手に出来るもんだなーという原点を再確認。頭の中でそんなストーリーが浮かんじゃう、悩み全部吹き飛ばしちゃう系の作品です。

NIGHT IN GALES / THE LAST SUNSETS
APOSTASY/CDARC040/営業部 METAL部門:渡

90年代半ばより活動を続け初期の作品は日本盤もリリースされていたこともあるドイツのメロディック・デス・メタル・バンド、初期のシンガーだったChristian Müllerがバンドに復帰して制作された18年発表の6thフル。2本のギターが紡ぎ出す慟哭のメロディとデスメタル的なアグレッションを兼ね備えた古き良きメロディック・デスというスタンスはデビュー以来変わらず。バンドの貫くべき姿勢をしっかりと貫き、前作『Five Scars』から7年という時をかえ純度を高めたような力作。最近のメロデスだと甘すぎると感じているような方にオススメ。

day's eye / MARGARET e.p.
adabana records/ADBN02/新宿PUNK MARKET:石谷

いそうでいなかった期待の国産Girls Vo. Emo/激情バンドの1st EP。アク抜きを2度した後期ANOMIEにPIRI REISの爆発力を2, 3振りし、GIANTS CHAIRからFUGAZI感を抜いたアンニュイさをトッピング。その中で、この手にはあるあるスポークンしがちなワーズは取り入れず、メロディーで押す楽曲は90'S EMOが根底にあることを体現しつつも、昨今の若者らしからぬ愛情を感じずにはいられません。アユミ嬢の絶叫は完璧。あとはJEJUNEばりの飛びぬけ過ぎないキャッチーなメロディーが備われば一気にいきそう。B面のくるくる回るマーガレットも可愛くて良し。限定300枚。お早めに。

TURNSTILE / TIME&SPACE
ROADRUNNER/RR74422/渋谷パンク・ヘヴィメタル館:時田

名門ROADRUNNERに移籍しての2ndフルアルバム。一分台の小気味よい疾走ナンバー中心に絶妙なモッシュパートとヘヴィグルーヴナンバー、若干ロッキンなパンキッシュナンバーなど多彩に織り交ぜてアルバム一枚の流れも驚くほどスムーズ。SHEER MAGのTinaさんをゲストに迎えた⑧『Moon』もムーディーで◎。所謂モダンハードコアの枠内で捉えられてるバンドですが個人的にこれ、BAD BRAINS好きな人にもぜひ聴いてほしいです。「各メディア絶賛!!」みたいなのはンーーとか思っちゃうけど、内容良いです。

ACUTE / 鬣 -unasare-
CREW FOR LIFE/CFL046CD/営業部 PUNK部門:青砥

昨年末にリリースした5曲入り単独シングルも大好評の岡崎シティ・ハードコアパンク"ACUTE"の2014年にLP盤(CD付き)でリリースされた大傑作アルバムがCDのみのフォーマットで再発!猟奇的でおどろおどろしい雰囲気と、ヒリヒリした緊張感の中で己の怒りを爆発させた、正にACUTEにしか成しえない血生臭い和製レイジングハードコア全11曲。この完成度の高さは近年の国内ハードコア作品でも随一ではないでしょうか?個人的な話でいえば昨年5月VIVISICK主催により浮間舟渡のスケートパークで行われた衝撃のライブも未だに強く脳裏に焼き付いています。まだ未聴の方はこの機会に是非!

RAPT / THRASH WAR DISCOGRAPHY 1984-1987(LP+7"+CD)
F.O.A.D./FOAD139/千葉店:内澤

大崩壊!フランスハードコアパンクレジェンドPARTの嬉しいディスコグラフィーがLP+7吋+CDというダイハードなフォーマットでF.O.A.D.よりリリースされました。廃盤のSPEED STATEからリリースされていたディスコグラフィーにも収録されていた85年作のDemo2本とコンピ参加曲は勿論しっかり収録! 更に87年Demoやリハーサル音源をぶち込んだ超オトクな内容。85年のデモ音源も素晴らしいですが、7吋に収録の87年デモ音源は「あれ? 思ったよりしっかりしているかも…」なんてイントロでは思わせつつも、やっぱり期待を裏切らないボンコツ&RAWな内容で安心します。SPEED STATEのディスコグラフィーを持っていない人は勿論、持っている人へも収録曲がたっぷり増えているのでは是非。

柳家睦&THE RAT BONES / 希望の街
BIG RUMBLE PRODUCTION/BRPS08/池袋店:松口

アウトローフォーク、和風メスティーソ、和風ムードコアetc...と新し過ぎるスタイルのレベルミュージックを提示し続けてきた柳家睦&THE RAT BONESの6枚目のシングル。ストレートな言葉で綴られているタイトル曲でジーンとしてたら、来ちゃいました。M3「柳家睦の夏だ! アミーゴ」、お得意の歌謡曲meetsラテン音楽。以前リリースされた、Tバック!の掛け声でお馴染みの「八月の恋は蜃気楼」という大人になりきれない中年の夏を彩る名曲の2018年最新型。武田久美子のくだりなんか最高です。毎日パッとしない労働者やまだ渇きたくない気持ちはお姉さん、大人なんて信じらんないと思ってる若者なんかに手にして欲しい一枚。

カネコアヤノ / Home Alone
雷音レコード/RHION21/新宿日本のロック・インディーズ館:本野

よくいるかわいい女の子のシンガーだと思って聴いたらぶん殴られます。ギターを抱えてぴんとした声で歌う彼女の姿はまぶしくてひりひりする! 昨年レコードのみでリリースされたアルバム『群れたち』が即完売、今年1月にはカセットテープ『序章』、続いてアルバムのCD版も発売されるもこれまた相次いで完売。そして今回、4月に発売する新作アルバム『祝祭』より先行7インチシングル『Home Alone』を本秀康氏主宰のレーベル"雷音レコード"からうれしいリリース! まばたきのスピードで進化する、今のカネコアヤノをどうか見逃さないで!

2018.04 PICK UP

SHELTER

-卯月アーティストコラム-

音楽を始めた時から、いくつか誓いを立てた上で、
バンドマンを名乗っている。

良い曲が書けなくなったら辞める
つまらなくなったら辞める

これだけはぶらさずに、あっという間に干支が一周ちょっと回った。
やはりバンドは楽しいままだし、自分としては、馬鹿みたいに思われるかもしれないが、作り手として絶賛成長過程にあると思っている。
つい先日新曲2曲のレコーディングを終えた。このバンドを始めて、ようやく20曲出来た。数としてはちっぽけだけど、どれもが誇らしい位に良い曲だ。皆にどうしても聞いて欲しくて、YouTube、配信で過去作18曲、全曲を聴けるようにした。CDが売れる売れないといったビジネスの話ではなく、少しでもライブに足を運ぶきっかけを、能動的にバンド側から作りたいと思ったからだ。4/15は、下北沢シェルターにて、我々、GRAND FAMILY ORCHESTRAの新譜
【オー晴レルヤ!!】レコ発記念ライブである。
我々はちょうど二年前のこの日に初ライブをした。
二歳おめでとうの日でもある。

まだようやく立って歩き出した位の年齢だけど、可能性しかないバンドだと思っている。この文章がどれだけの人の目に留まるかは分からないが、一度騙されたと思ってYouTubeでもなんでも良いから一曲聴いてもらえないだろうか。
あなたの心に触れる曲が、そこにありはしないだろうか。

そして、願わくば一度、現場に足を運んでくれないだろうか。
ライブハウスには、つまらないしょうもないバンドも沢山いるけど、面白くてカッコいいバンドも沢山居るよ。そして我々は間違いなく後者の一つです。感動と躍動を是非ライブハウスで。

(GRAND FAMILY ORCHESTRA / 松山 晃太)

04.15(sun) GRAND FAMILY ORCHESTRA presents
「大家族会議vol.4～オー晴レルヤ!! リリースツアー～」
GRAND FAMILY ORCHESTRA
音の旅crew
FAITH

OPEN 18:30 / START 19:00
ADV ¥2800 / DOOR ¥3300

PICKUP!

04.22 (sun) 下北沢SHELTER PRESENTS 北沢爆音祭 ラウドにいこうぜ！

BACK DROP BOMB
ROS

PICKUP!

2018年4月22日(日曜日)に下北沢SHELTERで下北沢SHELTERが不定期に開催している北沢爆音祭 ラウドにいこうぜ！を開催しBACK DROP BOMB VS ROSのミクスチャーロック対決が実現。 1994年10月バンド結成し、もはや誰もが認める日本のミクスチャーロックバンドの象徴になりつつあるBACK DROP BOMB VS来門（smorgas）、HIROKI（Dragon Ash）、U:ZO（ex-RIZE）が在籍するROSの熱過ぎる2マンイベントです。
どんな化学反応が起こる夜になるかは、お客様が目撃して下さい。

【SHELTER深夜部】
シェルターはLIVE終了後から
28時までPUBタイムとして営業中!!
ボトルキープ(焼酎鏡月¥1800 ect...)
＊キープボトルの場合は、
チャージ¥500のみでご利用頂けます。
その他のドリンクはノーチャージ!
KOGA選定ワイン、オリジナルフードも
ご用意しております!!!
Twitter アカウント→@SHELTER_1991
深夜部はこちら→@SHELTER_yoru
こちらからシェルターの様子を
ゆるーくお伝えしております。ぜひcheck!!!

EVENT INFORMATION

04.01(sun)DAY 『せのしすたぁ 4周年&まお生誕』
せのしすたぁ / アミーガス

04.03(tue) SHELTER presents. 『ありまとカジさんとしのぶくん』VOL.2
有馬和樹（おとぎ話） / カジヒデキ / 渡邊忍（ASPARAGUS） / 飛び入りGUESTあり！？

04.04(wed) Sams × ソラミズツキヒ presents 「 街灯 」
Sams / ソラミズツキヒ / アノアタリ / smile for me

04.06(fri) SPLASH MAKE YOUR LIFE TOUR FINAL
SPLASH / SKA FREAKS / MINAMI NiNE

04.07(sat) KNOCKOUT FES 2018 spring
詳細はこちら→http://knockoutfes.com

04.10(tue) HOT STUFF×PCI MUSIC pre Score book #10
KAKASHI / Climbgrow / 街人 / +1BAND

04.11(wed) SHELTER presents “Hand down”
真空ホロウ / テスラは泣かない。/ THE LITTLE BLACK

04.12(thu) MOROHA自主企画「怒濤」第十五回
MOROHA / アルカラ

04.13(fri) 1st Full Album “No Direction Home” RELEASE TOUR FINAL
cheep cheese / STRIKE AGAIN / Mexican Age / Take out bright

04.14(sat) RUDE BONES presents. 《OLDNEW special》
RUDEBONES

04.15(sun)DAY mezcolanza の春のワンマンライブ
mezcolanza

04.17(tue) SHELTER & nishijoe presents. “TKMK”
Slimcat / Layne / ROKI / myeahns

04.18(wed) CATCH ALL RECORDS&SHELTER pre. “UNITY” vol.3 -CATCH ALL RECORDS 15th Anniversary-
OWEAK / VELOCITY / THE SWING KIDS / Stellarleap / readingnote / and more..

04.19(thu) yasuragi
Andare / yEAN / 夕食ホット / 三宅遥

04.20(fri) Fiesta Carnival Ⅰ
FEELFLIP / ENTH

04.21(sat) 絵恋ちゃん×つしまみれ2マンライブ”えつしまみれん”
絵恋ちゃんと楽器 / つしまみれ

04.22(sun)DAY 宮川企画「マイセルフ,ユアセルフ」
サニーデイ・サービス × 台風クラブ

04.23(mon) LINE wanna be Anchors presents『TOKYO SYNDROME』
LINE wanna be Anchors / 鳴ル銅鑼

04.24(tue) kobore ”アフレル” release tour final!
kobore / KAKASHI

04.25(wed) SHELTER LIVE COLLECTION 2018
EARNIE FROGs / waybee / TRY TRY NIICHE / YOI'S

04.26(thu) 鴉4th.album還り咲レコ発ワンマン 「東名阪秋咲き巡り」
鴉

04.28(sat)DAY nim pre.FRIENDS CONNECTION VOL.7- nim “searchlight” Release Party -
nim / Camping trailer

04.28(sat) 《メレ レコ発企画 逃げ道で拾ったギターを担いで》
メレ / and more..

04.30(mon) EMPTINESS SOLDIER
THE BELGA / BOMB FACTORY / and more..

※各公演の詳細はHP、またはお電話にてご確認下さい
shimokitazawa SHELTER 東京都世田谷区北沢2-6-10仙田ビルB1
tel:03-3466-7430 http://www.loft-prj.co.jp/SHELTER/

《Official WEB SITE》skalapper.jimdo.com 《Twitter》@skalapper 《facebook》@skalapper

SKALAPPER

幾度のメンバーチェンジが重なり背水の陣となりながらも、見事大復活を遂げ4th Album『90 MILE』を完成させたSKALAPPER。持ち味である切れ味抜群のカッティングはそのままに、ブラッシュアップされたポップなメロディー、そして新たな武器となった力強いホーンセクションが一体となった渾身の9曲が収録！ベースボーカルLEEとギターNONOに話を聞いた。

Interview:大澤ヒロキ（I Hate Smoke Records/SEVENTEEN AGAiN） Photo:Kensuke.J

●前作「BOUNCE」より3年半という時間が空きましたが、その間どういった活動をしてきたのでしょうか？

LEE（Vo/Ba 以下L）：前作のツアーファイナル後に当時のトランペットが脱退し、色々と調整が必要になっちゃって、そのタイミングでテナーサックスのSiocoが加入しました。その後、幾つかのフェスを経験してメンバーのモチベーションも上がり「よし新譜だ！」となった所で、今度はトロンボーンとアルトサックスが脱退（笑）。…でも活動を止めず模索していたらトロンボーンのARARCHYと出会って加入。「よし、いよいよ！」となったら次はドラムが脱退（笑）。…本当に紆余曲折の苦節3年半でした。立ち止まらずにここまで来れてホッとしています（笑）。

●Siocoさん、ARARCHYさんとはどういった出会いだったのでしょうか？彼女たちは以前もバンドをやっていたのですか？

L：Siocoは地元の福井CHOPで元々スタッフをしていて、前作のツアー後にサックスが吹けるってことが発覚したので勧誘しました。本当は当時の3管編成に加えて4管編成にしたかったのです。

NONO：ARARCHYは元々彼女の地元の富山県でバンドをしていて、対バンで知り合いました。ちなみに当時のパートはドラムです（笑）。県内外問わずいろんなライブハウスに顔を出すようなアクティブな子だし、吹奏楽でトロンボーンの経験もあると聞いたので加入してもらいました。

●メンバーチェンジを経てテナーサックス、トロンボーンの編成になったからなのか、サウンド面も今までに比べ骨太なサウンドな印象を受けました！音作りの面などでこだわった部分はありますか？

N：今までの3作品には必ずトランペットがいたので、そこをどうするか試行錯誤しました。低音域のテナーサックスとトロンボーンでも華やかさがあるようなメロディやハモりをつけたり、逆に低音域だからこそできるパワフルなサウンドを意識しています。

L：LESS THAN JAKE、The Planet Smashers、the Suervillainsなどよく聴いて2管のアレンジのオイシイ部分を勉強しました（笑）。わかりやすくて印象に残るフレーズを採用したと思います。

●SKALAPPERの武器である踊れるスカチューンもありながら、今作は「You're the one for me」や「Daybreak」など、よりメロディックパンク/ポップパンク的なメロディーに重きを置いた楽曲が多数揃ってる印象を受けました。曲作りにおいて従来から変わっていったところはありますか？

L：特に意識はしていないですが、たぶんその時によく対バンしていたバンドやよく聴いていたバンドなどから自然と影響を受けているのかも。「ライブで踊れる曲つくらなきゃ！」とかは特に思っていなくて、「このフレーズかっこいいな」とか「こういうイメージで作りたい」ってところから曲作りに入るので、根本的な曲のつくり方は変わってないです。「いま曲出来そう」って思ったら一気に作ったりします。たしか「You're the one for me」は最初にホーンメロディを思いついてから1時間くらいで各パート完成したと思います。

●制作にあたり新しくチャレンジした部分、苦労した点などはありますか？

N：SKALAPPERといえばシンプルでキャッチー、サビでみんなで叫ぶっていうイメージを持ってる人が多いと思うんです。もちろん今作でもそういう曲はありますが、いい意味でウチらしくない曲も収録しました。僕が聴いてきたPOP PUNKやMELODIC PUNKからの影響が強く出てる曲も有ります。

L：苦労した点は…、やっぱり編成が変わったことですね（笑）。旧メンバー在籍時の曲は特に苦労したかも。ホーンに関しては特にニュアンスや聴こえ方が変わってしまったので、一から作り直したりしました。他にもコーラスワークやドラムがガラッと変わった曲もあります。作り直す行程でさらに新しい曲が出来たり、曲がブラッシュアップされたりして、結果的に刺激に溢れて楽しんでやれました。

●タイトルの『90MILE』にはどういった意図が込められてるのでしょうか？

N：SKALAPPERは福井を活動拠点にしていますが、今住んでいる場所は福井以外のメンバーもいて、Siocoは金沢、ARARCHYは富山に住んでいます。毎週福井で集まりスタジオに入り、各地でライブして福井、金沢、富山に帰っていく、という生活をしていて、福井・富山間の約145Km（=90 MILE）を何往復もしているのでタイトルに採用しました。

L：SiocoとARARCHYはライブの無い週も金曜日に約2時間かけてスタジオに来て、4時間練習して、また2時間かけて戻るって感じで、ちょっと普通の女の子じゃ考えられない生活をしてると思います。無茶苦茶だと思う人が普通でしょうね（笑）。そんなクレイジーな今の生活、今の僕たちを象徴するキーワードとして使いました。

●今年で3年目となるサーキットイベント「LOCAL SOUND CALLING」を始めたきっかけとなったエピソードがあれば教えてください！また最近の北陸シーンはいかがでしょうか？

L：今まで福井ではサーキット型のフェスというのがなかったんです。というか、フェス自体があまりない。で、こんなイベントあったら面白いのになぁ～って話が呑みの席で出て、「ないんだったら作ればいい！」と。始めて良かったです。。

N：自分達の遊び場は自分達で作ればいい、というコンセプトは今までやって来た自主企画LOCAL SOUND BORDERLESSと同じですね。今、北陸のシーンはかなりバンドが少ないです。これはどこの地方でも共通だと思いますが。それでも若いバンド、個性的でカッコいいバンド、全国でバリバリ活動してるバンドもいます。最近北陸バンド限定のオムニバスを聴いたんですが、僕らがまだ出会ってないかっこいいバンドも沢山いました。地方だからといって「出来ない」と諦めるのではなく、地方だからこそ発信できるものがあると思ってやっています。

●今後のバンドの展望はありますか？

L：まずはこの新譜のツアーで各地へ行き、僕たちの音楽で一緒に遊びたいです。あと、地元福井で開催してるイベントをもっと大きくし、野外で出来るような規模にしていきたい。そしてバンド結成当時からの夢であるフジロックにもいつか出たい！

N：安全運転、無事故無違反でツアーを回ることです（笑）。

SKALAPPER
NEW ALBUM
『90 MILE』
PARKING LOT SOUNDS
PLS-008/￥2,000(+税)
2018.3.21 on Sale!!
ディスクユニオン オリジナル特典
キーホルダー

Live Schedule『90 MILES』Release Tour

◎3/25（日）下北沢ReG &club251 ◎4/1（日）甲府KAZOOHALL ◎4/14（土）大阪 新神楽 ◎4/22（日）金沢AZ ◎4/29（日）富山MAIRO ◎4/30（月・祝）横浜FAD ◎5/3（木・祝）名古屋「GOLDRUSH2018」 ◎5/4（金・祝）川崎CLUB CITTA'「Hoppin'&Steppin'2018」 ◎5/19（土）八王子RIPS ◎5/20（日）名古屋Party'z ◎6/2（土）3（日）石川県「百万石音楽祭2018」※出演日は追って発表となります。 ◎6/9（土）京都MUSE ◎6/10（日）松本ALECX ◎9/1（土）福井県「LOCAL SOUND CALLING 2018」

札幌PUNK/HCシーンから彗星の如く出現したニュー・ジェネレーション、DON KARNAGE!
竹林現動(zArAme)の監修の元、DISRUFFから満を持してリリースされる1stアルバム『reminiscence』が、
発売前から各方面で傑作と囁かれている。そのサウンドは90's激情/カオティックと形容されがちだが、
果たして本人たちの意識は？今作のプロダクションについてメンバーに詳しく聞いてみた。

Interview : yamadaTHANKS（THE THANKS）　Photo :うじ（MAPPY）

Live Schedule
5/26(土) 札幌161倉庫
7/14(土) 下北沢three
7/15(日) 小岩Bushbash

●アルバムが出来上がってみての感想を聞かせてください。

アナペベ(Dr/以下 アナ)：いい作品が作れたと思います。今の段階ではやれることは全部やれたかなって感じですね。ただ正直、完成までの構図が出来上がるまでは、全く想定できなかったって言うか、よくわからなかったなっていう。でも結果的に自分たちが想像していた以上の物が出来上がりましたね。

●こういう風に作ろうっていうイメージが漠然とあったわけでなく？

アナ：あるものをとりあえず並べてみましたみたいな感じでやっていって。そもそもフル・アルバムっていう一つの作品を作るってことが考えれるほど器用なバンドではないなと。

●1stの荒々しさというか、ゲンドウさんのプロデュースってこともあって、激しさはあるけど、なんていうかスタイリッシュ？シュッとしてる感じもありますね。

レオ(Ba)：今までの音源は結構荒かったですからね。こういう風にやってみて良かったかもしれないです。

アナ：このアルバム作りに1年かけて準備してきたってのもあるんで。曲の構成だったり、どの曲を収録するかとか、どういう風に作っていくかを結構話し合って、バンドを構築する1年だったのもあって、それがちゃんとまとまった結果にはなったのかなと思います。

●その準備がちゃんと結実して形になったっていう。積み残しがないと。

アナ：各々は多少あるかもしれないけど、バンドとして今できることは全部やりきれたのかなっていうのはありますね。

●結構なボリュームがありますけど、どういう印象の作品にしたかったの？

アナ：ボリュームあり過ぎたと。お腹一杯にしたかったんでしょう(笑)。ただ小田さん(レコーディングエンジニア)とゲンドウさんの音の力で、作品として最後まで聴きやすくまとまったなと感じてます。

●サウンド面ではある程度ゲンドウさんに委ねたのかなと思うんだけど。

大明(G/Vo)：ゲンドウさんに、「どういう音にしたい？」とは言われたんですけど、「はっきり言って特にないです」って。逆に録った曲をどうしてくれるのかなっていう楽しみがあったから。

●そうだよね、プロデューサーを立てて作る場合、自分たちの違う一面を見たいっていう期待はあるよね。

アナ：はい。そもそもバンドをやってて、第三者が自分たちの音に関わるっていう機会がなかったので、自分たちを客観的に捉えるいい機会かなと。ゲンドウさんの場合、バンドマンでもあるから、音の表現でのアンサーがあるじゃないですか。それを体感できるのは楽しみでしたね。セッションみたいで。

●しょうちゃんは？

将平(G/Vo)：アルバムを通してのニュアンスと合ってないんじゃないか？って思ってた曲があって、聴けば聴く程ドツボにはまって。でもそれをミックスしてもらって上がったのを通して聴いた時、マジックが起こってた。

●なるほど。今回のアルバムが初収録の新曲4曲っていうのは、アルバムを作るって決まってから作り始めたの？

アナ：そうですね。

大明：あえて今までの曲とは違う雰囲気の曲っていうのは意識しました。

●それは曲数目でいうと？

大明：3.5.7.8ですね。

アナ：逆に、毛色が似てる曲はあんまりないよね。結果的にいい感じに分かれたなっていうのはあるかな。

●確かにリズムの速度はどの曲も違ってて飽きないで聴けると思う。7曲目の「sailing」は、12曲中真ん中に位置する曲で、アルバムを通してそこだけ歌メロがあるっていう。そこがアルバムのハイライトになると思うし、ドンカネ史上初の新たな手法で可能性を感じたんだけど、あの曲はどういう風に作られたの？

レオ：新曲の中で一番最初に出来た曲ですよね

将平：前半出来上がった状態でスタジオに持っていって。

大明：あのドドッドドッって部分は。やってくうちにみんなあれをやり始めた(笑)!

将平：みんな首振り始めた(笑)!

●なんであそこに歌メロを乗せようと思ったのかっていうのが気になるんだけど。

大明：ちらっと曲の中に歌メロを乗せられたらいいなあって話をしてた気がするけど、できたらいいなぐらいで。

将平：それがうまいこと曲にハマったっていう。

●主にやっている絶叫スタイルのボーカルとは違う、メロディを歌う曲があってもいいんじゃないか？っていう話をゲンドウさんから大明にしたっていう話を聞いたけど、それがきっかけではないの？

大明：それはこの曲が出来た同時期ぐらいに言われたんです。「実はそういう曲出来たんすよ」って(笑)。

●じゃあお互いの思いがちょうどクロスしたんだね。相思相愛の時に生まれるグルーヴというか。

将平：俺はその話今初めて聞きました。

大明：エフェクターを直してもらって2人で飲んだ時に言われたんだよね。「たとえダサいと思っても絶対フックになるから」って。で、そこで「実は…」って(笑)。

将平：せっかく歌ってるんだから、ちゃんと歌を聴かせたいなって気持ちもあって。わかりやすくてとっつきやすい部分があってもいいのかなって。実際ライヴでも反応はありましたね。

●展開もかっこいいしね。

大明：ハードコア以外の好きなものも出せました。

●ここでメンバーのバックボーンについての話を聞かせて欲しいんだけど、それぞれいろんな音楽を聴いたりやってきた訳だけど、DON KARNAGEではなぜ90年代の激情ハードコアっていうスタイルを選んだの？

大明：俺の中でのきっかけはL!EFの企画だったのかなって思ってます。

将平：そうですね、L!EFの企画イベントに通ってて、出てるバンドのルーツだったり、L!EFの皆さんに教えてもらった音源を漁ったりしてた中で。

●例えばどんなバンドが出てきたの？

将平：それこそThree one Gのバンドが結構多かったです。

大明：Swing Kids、Crimson Curse、Antioch Arrowとか、早くて奇天烈で、メンバーはナード感があって。こういうハードコアがあるんだって結構衝撃を受けましたね。

将平：最初観ていたハードコアバンドの主流が、クラストだったり、重いビートダウン系のゴッツイ人たちっていう認識だったから、それとは違うスタイルの人たちもハードコアをやってるっていうのが革新的に思えたんです。

大明：Swing KidsからBorn Againstに辿り着いて、Born Againstから何があるんだろうって。Universal Order of Armageddonとか、歴史の勉強をしていったって感じですかね。

●ライブを観てると、凄くテンション高いし、感情が乗ってるっていうか、我を忘れてフレーズを弾いていて、気持ちと直結した表現なんだろうなっていうのを感じるね。

将平：表現できる音っていうか、うまい言葉が見当たらないですけど、スキル的にもアウトプットしやすいっていう気はしますね。

アナ：メンバー各々いろんな音が好きだし、この音を選択する理由ってそんなになくて、今と違う音をやっていても全然違和感はないと思うんですよ。絶対的なこうじゃなきゃいけないっていう世界観はないんですよね、ドンカネに関しては。ただ年齢的にも、人間的にも、一番感情を出しやすい音なのかなって勝手に結びつけてはいます。

●童貞感がそこに…

アナ：そこで童貞感にもっていこうとしないで！！

一同笑

●ドンカネはカオティックながらもキャッチーな部分もあるのが個性だと思うんだけど。

アナ：俺と大明としょうちゃんでエレファントカシマシのライヴを観に行ったんですよ。、他にもBUMP OF CHICKENや山下達郎を観に行ったりしてて、そういうとこも好きだから、いろんな音楽を聴いてるっていうのは出てるかなと。

将平：キャッチーさが欲しいっていうより、違う物を混ぜてみたいっていうのはあります。ここでこう来るのか！っていう期待を裏切るのはやりたいです。

●リズムパターンに、色々なバリエーションがあるっていうのは、アナペベがいろんなバンドをやってたし、ツアーで色々吸収してきたものもあるのかなと。

大明：ドンカネをドンカネたらしめているのは、ベードラなのかなと。曲を作る時、なんとなくリズムのパターンのイメージはあっても、丸投げの状態でやるんです。そうしたら、「おお！」ってことが結構あって、それがドンカネらしさなのかなと思います。

●裏切りだ。

大明：裏切りです。

レオ：元々自分はギタリストだけど、任せてもらって自分の好きなようにできるっていうのが凄く楽しいんだと思います。

●普通のベーシストじゃないところに正解があるっていう感じなんだね。

レオ：それにかっこよさを感じているし、それ以外の仕事の仕方を正直知らないので。

アナ：曲作りの最大のテーマにしているんですけど、メンバーをどんだけ爆笑させるかっていうのを考えてます。

●それいいわ～。みんな爆笑させられてるの？

大明：結構爆笑します。

将平：十中八九爆笑です。

アナ：逆に爆笑しなかったら不採用になる可能性が高いです。いっせーのでバンっと音鳴らしてる時が一番いいですね。やっぱ音で爆笑したいじゃないですか。

将平：フロント3人はケガするぐらいのこととかやってるから、ドラムも最終的にふざけなきゃと。

アナ：俺らは難しいことはできないからね。

●奇怪なフレーズはあるけど、そのフレーズが曲を殺さないし、凄く疾走感もあったから、結構ストレートだなと思うし、1stアルバムとしては大成功なんじゃないかと思います。

アナ：全力で投げたストレートがたまたまシュート回転して変化球になっちゃったってのが理想です。少年野球みたいに(笑)。

プロデューサー 竹林現動(zArAme DISRUFF)インタビュー

●プロデュースするに至った理由

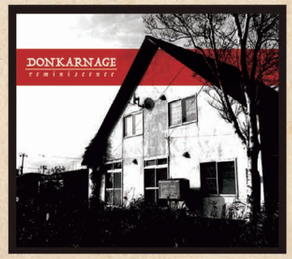
たしか2016年に何処かのライブハウスでG/Voの大明に1stデモを渡されて、家に帰って試聴しました。彼等がどういう意識と解釈でこの時代に90's をあからさまにフォローしようとしているのかが気になって、直ぐにライブを観に行きました。単純にカッコイイと思いました。ただ折角の熱量の表現の仕方が散漫に感じたので、アドバイスするつもりで終演後に話していたら、流れで「DISRUFFから出そうか？」という事になったかと。

●ゲンドウさんが感じるドンカネの魅力とは？

所謂、正統派90's を継承しながらカオティックの枠組みだけに収まっていない所。根本に潜んでるロックンロールの部分に惹かれます。

●プロデュースするにあたって、ドンカネのどういうところをクローズアップしたかったか。

ドンカネを良く知る人も知らない人も問答無用に音で捩じ伏せるモノを作り上げたかったので、カオティックをなぞるだけの事はしたくなかった。誰も聴いた事のないドンカネのあるべき姿を提示したかったです。端的にいうとキャッチー、でもそれこそが長く愛される作品の本質だと俺は思います。思わずギターのリフを口ずさんでしまうような。



DON KARNAGE
1st Full Album
『reminiscence』
DISRUFF/DFF-5/￥2,000(+税)
2018.4.4 on Sale!!

ディスクユニオン オリジナル特典
布パッチ

《Official HP》www.lolita18.jp　《Twitter》@Lolita_No18

LOLITA NO18

Interview:遠藤妙子　Photo:Audrey Kimura(BENTEN Label)

全8曲のアルバムに、昨年の秋冬の東名阪ツアーのライヴDVDをパッケージした『kinder PUNK market』をAA recordsからリリースの
ロリータ18号。溌剌として楽しく、リアルに刺さり、心にグッと迫り泣ける。バラエティ溢れながらビシッと背骨のあるアルバムと、
本気のパンクロック・バンドであることがグイグイ伝わるライヴDVD。AA recordsからの最初のアルバムである前々作『LOLITA!!!』から
大きく変化。その道のりを含めて石坂マサヨにインタビュー。今のロリータ18号、本当にカッコイイ。

●来年で結成30年！メンバーチェンジはあったけど、ずっと休むことなく活動して。

石坂マサヨ(Vo/以下M)：休んでないですね。メンバーチェンジはかなりしてきてるんですけど、一ヶ月以上休んだことないです。ケンカ別れが一回もないのが幸いで。各々の事情で卒業していったという感じで。

●今、ギターはサポートメンバーで。

M：もともとロリータのメンバーだったライト(MAYOU)。今はTHE LEAPSってバンドをやってるんでロリータではサポートとして。気心も知れてるんで何の問題もなく。

●今のメンバー、凄くいい感じですよね。ドラムのちーちゃんはもともとロリータのファンだったそうで。

M：お母さんがロリータのファンで、ちーちゃんが小学生の頃から、お母さんはライヴに来てくれていて。ちーちゃんにロリータのCDをずっと聴かせてたらしく。でも高校生になるまでライヴは行っちゃダメって、お母さんだけガンガン来てて(笑)。ちーちゃんもやっと高校生になってライヴに来るようになって、そのうちロリータのスタッフになって。ちーちゃんは前のドラムのTO-BUちゃんからドラム・レッスンを受けてて。TO-BUちゃんが耳の調子が悪くなって休まなきゃならなくなって、ちーちゃんに白羽の矢が立った。

●親子二代でロリータのファン、そして娘はメンバーに抜擢。スゴイ

M：相当なプレッシャーはあったと思います。師匠の後に入らなきゃないっていうので。

●それが今や曲も作って。ちーちゃんだけじゃなく、勿論、ベースのたこちさんも。

M：歌詞は全部アタシなんですけど、曲は誰が作るとか決めてなくて。「曲を作ってきた人は挙手してください〜」って、スタジオでオーディションが始まるんですよ(笑)。各々が作ってきた曲をみんなで聴いて意見を言う。昔なら考えられないです。当時はアタシがやりたいことだけをやって、押し付けてたぐらいの感じだったんで。

●30年近い歴史の中、ロリータは常に変化はしていってたけど、前々作の『LOLITAAA!!!』で大きく変わったと思います。

M：そう思います。もともと好きなバンドのコピーバンドから始めたんで、自分で曲作るのはめんどくせーぐらいに思ってたんです。そういう怠惰な考えを変えてくれたのがAA recordsで。AAから出してもらえることでかわりましたね。

●改めてAA recordsからのいきさつは？

M：中学生の頃からずっとラフィンノーズが好きで。ラフィンとは20年くらい前から一緒のイベントに出たり、面識はあったんですが、そこまで親しくはなくて。4〜5年前に九州のDead rock projectっていう個人でイベンターをやってる長尾くんが「ラフィンとツアー廻りませんか？」って言ってくれて。ロリータはやりたいに決まってるんですけど、はたしてラフィンはやってくれるんだろうか？って思ってたら、ラフィンからもまさかのOKが出ました。せっかくツアーに行くならアルバムを持っていこう、ラフィンと廻れるならAAから出せたらステキだなって。思い切ってPONさんに聞いてみたんです。打ち上げで、PONさんが酔っ払う前に話そうって隣に正座して、ドキドキしながら「ツアーにアルバム持っていきたいんですけど、AAから出していただけないでしょうか？」って。言い終えた瞬間に「ええよ」。うわわわーって(笑)。それで作ったのが『LOLITAAA!!!』。

●夢が叶った。

M：叶いました。それより前にPONさんに、「ロリータの夢を見た」って言われたことがあったんですよ。「真っ白な景色の中でマサヨが「テッケ〜テッケ〜」って歌ってた。起きた瞬間に、メッチャええ曲やん！あ、俺の曲や！」って(笑)。それで「いつかロリータに歌わせたい」って。ロリータは毎回アルバムにカバーを1曲入れてるんで、コレは「TAKE IT!」しかない！って『LOLITAAA!!!』に入れて。PONさん、レコーディングでその曲の時だけはスタジオに来てくれた(笑)。おやつの差し入れ持って(笑)。嬉しかったです。

●いい話。結果、『LOLITAAA!!!』凄くいいアルバムで。

M：AAからのリリースはもう二度とないかもしれないので、悔いのないようにちゃんとやろうって。次の、去年出した『ガブレサス』はミニ・アルバムだけどモチベーションは変わらず。今作も無事にAAからリリースできました(笑)。以前PONさんに「ロリータはポップだよね」って言われたんですよ。ポップって言われてびっくりして。ロリータのいいところってポップなんだ！って。だから『ガブレサス』はかなりポップを意識して作った。それまで、ポップってものは自分には当てはまらないってずっと思っていて。今は、ポップでいいんだって素直に思ってます。

●歌詞も変わりましたよね。赤裸々になった。

M：はい。『ガブレサス』に入ってる「アメリカンショートヘア」は飼っていたネコが死んじゃった歌なんですけど、前はこんな個人的なことは絶対に書かなかった。その悲しい情報いらなくない？って。でも伝え方によっては、聴いてくれた人は感情移入してくれたり。そういうふうに聴いてもらえるんだって。前々作、前作を作って凄く勉強になりました。

●昔のロリータってトリックスター的なバンドで、歌詞も意味を持たせない感じで。

M：そうそう。自分の中で何かを護っていたんですよ、パブリックイメージとか。ガチガチの衣装を着てたり。ライダーズのオーノさんに「宝塚か！」って言われた事もあった(笑)。ライヴもトリッキーにナンセンスに。それが変わってきたのは…、昔、メジャーでやってた頃は自分でマネージメントすることもないし、自分で機材車ころがすこともない。そういう中で何も考えずにやってたんです。今は必死なんですよ！自分で全部やる。状況的に見たらランクダウンしてる。でも、それなら護るものなんて別にないじゃん？って。これ以上失うものもないし。そしたらどんどん、頭に付いてた孫悟空の輪っかみたいなものがなくなって、頭の中がワーって自由になった。それまで照れて歌えなかったことが歌えるようになって、気持ちが楽になった。

●昔はロリータ18号という器がまずあったけど、今は石坂マサヨという人間がどんどん出てきて。

M：この声だから、アタシが歌えば何を歌ってもロリータになるって言われたこともあって。あとやっぱりメンバーも大きいです。たこちとはもともと古い友達で何でも言える仲で。前のドラマーTO-BUちゃんはプロのミュージシャンで、それまでのロリータには持ってないスタンスの人。学ぶことは多かった。TO-BUちゃんにもっと楽しんでロリータをやってもらいたいし、その為にはもっとアタシもちゃんとやらなきゃなって。歩み寄るというか、返していこうって思った。2人の存在は大きいですね。で、ちーちゃん。ちーちゃんがメンバーになった3年前はドラムプレイが全然ついてこられなくて。でもね、本人は何も言わないけど、ずっと自主練してるんですよね。できなかったとこがどんどんできるようになってる。凄いなーって。このままじゃちーちゃんに追い越されるぞって。メンバーによって音も意識も変わったとこはありますね。

●人を受け入れる、認め合う。いいなぁ。

M：バンドがアタシを成長させてくれたんです。バンドやってなかったら自分のことしか考えないただのクソ野郎です(笑)。

●マサヨさんは性別を超えてバンドをやってますよね。DVD見てもただただカッコいいパンクロック・バンドで性別なんて全く意識させなくて。

M：嬉しいです。ホント、人間としてやってるだけなんで。

●でもだからこそ、マサヨさんに憧れてる女の子はたくさんいる。

M：嬉しいです。一度だけ男のメンバーがいたことはあったんですけど、それ以外ずっとロリータは女子でやってきて。ロリータ始めた89年頃は、仕事に就くにしても今よりもっと男女の差があった時代で、だから、女の子でもなんでもできるよってことの指針になればって。

●うんうん。で、やっと今作のことを質問します。4曲目のちーちゃん作曲の「Cock Cook」。ハードでノイジーで、歌詞は前半が毒づいてる感じだけど、最後、“そしてトビラを 自分でこじ開けろ!”ってメッセージで終わる。

M：曲ができてから歌詞をつけるんですが、ちーちゃんからランシドみたいにって発注があって、ランシドはアタシの中にはないので、どんなのかな？って思いつつ勘で(笑)。最初は、全編“自分でこじ開けろ!”みたいな歌詞だったんです。そしたらちーちゃんが「もうちょっと毒が欲しいです」って更なる発注が(笑)。ちーちゃんはずっとロリータのファンだったから、そういう視点もあって。ありがたいですよね。いろいろ気づかせてくれる。

●毒と言えば2曲目の「RON」は、世の中の風潮を鋭く刺してる。

M：わりとね、アタシが作ってるんでこういう感じになっちゃう。

●パンクロックはこういう曲をやらなきゃって意識はあります？

M：それはないです。普段から思ってることを、書かなきゃいけない時がきたから作ってるだけで。自分の引き出しを開けて歌いたい言葉や音を引っ張り出してブラッシュアップしていく。前回ぐらいからそういう作業をしてます

●5曲目の「Up Down」はパーティー・チューンなんだけど、そこに自分の気持ちも含めて。

M：最初はホントにパーティー感だけだったんですけど、なんか引っかかるものがないともったいない、貧乏性なもんで(笑)。パーティー・チューンにどうやって自分の気持ちを入れるか、かなり考えました。

●たこちさん作曲の「someone’s tonight」はスピード感ある爽快な曲にセンチメンタルな歌詞。コレがピッタリで。

M：仮歌でたこちが“tonight tonight”ってサビだけを歌ってたんですよ。コレ昭和感満載だなって(笑)。

●世良公則かよ！古くてすみません(笑)。

M：そう、ホントに仮タイトルが「銃爪(ひきがね)」だったんです(笑)。たこちがつけて、若いちーちゃんは「銃爪」なんて知らないのに「銃爪、銃爪」って盛り上がってて(笑)。最初メロディを聴いた時にちょっとバンドブームの頃のような懐かしい感じがしたので、それを歌詞に。サビは“tonight tonight”を超えるものが浮かばなかったから、そのままに(笑)。

●あと「シンガソング」。この曲は本当にマサヨさんの思いが詰まってる。グッときます。

M：ライヴでちゃんと腹から感情が出せるように作りました。最初曲ができた時に、イケル！って思ったんですけど、歌詞でドハマりして一番時間がかかった。やっぱり自分のことを出すのは難しかったです。どこにポイントを置けばいいのか、どういう言葉が一番伝わるんだろうかって試行錯誤して。

●照れがなくなって自分の気持ちを歌えるようになったって言ってましたけど、今は照れは？

M：超えました。今は照れがなくなって書いた歌詞の感情を、どう出して歌っていくかっていうことで。どういう言葉を持ってきたら、自分がより感情的に歌えるんだろうっていう。そういうことを意識し始めたのは『LOLITAAA!!!』の「エモ」で。歌詞はわりとサラサラ書けたんです。その後、ライヴを重ねる度に、凄く感情移入してる自分に気づいて。歌ってこういう風に歌うんだってことを知った。だから今回は敢えて「作る」ってことから意識してやってみたんです。最初から歌う自分をイメージして言葉を選んで。

●「エモ」はメンバーが抜けたことと震災以降の思いもあった曲ですよね。「シンガソング」は自分ですもんね。歌詞の材料は自分だけっていう。

M：そう。タイトルは「石坂マサヨ45才」にしてもよかったぐらい(笑)。言葉は色々出てくるんですけど、もっと出るだろう、もっと出るだろうってことをずっとやって。この苦しみを超えたことは今後の自信になる。自分を見つめるということもやったし。45才にして(笑)。

●最後はカバー「この素晴らしき世界」。

M：ジョーイ・ラモーンのバージョンのカバーです。最初は英語にしようかと思ったら、メンバーが日本語のほうがいいって。歌詞を見せたらたこち号泣(笑)。

●自分が居る場所への愛、ライヴハウスへの愛を感じます。

M：パンクの人達ってみんな優しいですよね。この世界にいてよかったってホントに思います。

●ライヴDVDと二枚組の本作。DVD、本当にカッコイイ。お客さんも凄くいい。こういうお客さんたちを見てたら、本当に届けたいって思いますよね。

M：凄く思います。そういう想いが曲になっていくこともあるし。もっともっと喜んでくれることをやりたいなって思う。DVDを見て、今のロリータのライヴをパンクが好きだった大人たちに観に来て欲しいなって、凄く思います！

ロリータ18号
New Album
『kinder PUNK market』
(CD+DVD)
AA records/AA-036/¥2,800 (+税)
2018.4.4 on Sale!!

Live Schedule『kinder PUNK market TOUR 2018!!!』

◎4/14(土) 福岡DRUM SON　◎4/15(日) 熊本BE-9 V3　◎4/21(土) 静岡SUNASH　◎4/22(日) 長野INDIA live the Sky　◎4/28(土) 富山SOUL POWER　◎5/12(土) 仙台BIRDLAND　◎5/19(土) 徳島CROWBAR　◎5/20(日) 高松TOO NICE　◎5/26(土) 大阪BRONZE　◎5/27(日) 名古屋RED DRAGON　◎6/1(金) 新宿LOFT

●新作、凄くいいいです。バンド感がガツンとあってダイナミックで。

Hiroaki Okawa(Vo,Alto Sax/以下O)：ありがとうございます。

●RUDE BONES(以下ルード)は25周年なんですね。

O：そうなんですよ。

●前作『GOOD TIMES,7300DAYS』は20周年でしたっけ?

Chibamatt(B/以下C)：いや、『GOOD TIMES, 7300DAYS』は4年前なんで20周年じゃなくて。アルバムに入ってる曲の7インチをアルバムの前に出したんですけど、それが5年前の2013年で20周年なんですよ。

O：なんとなくアルバムが20周年だったって感じになってますけどね(笑)。

●前作もとてもいいアルバムでしたもんね。

O：そうなんですよ(笑)。

●今作は前作と感触が違って。

O：前作に負けないものにしたいっていう気持ちはありました。そういう意味で前作を多少意識しました。違う感触なのも、同じようには曲を作っていないつもりだし。曲作りも前作を超えたいって気持ちが自分の中にあって。粘りました、今作。

●その感触の違いは、前作はそれまでのルードが培ってきたものだったり、その時のルードの楽しさや新鮮さだったりが出た、バラエティあるものだと思ったんです、アコースティックの曲もあったし。

C：確かに前作は僕の中でも集大成的なとこもあったと思います。

●メンバーも、一度ルードを抜けていたHiroshi君(Hiroshi Brown/Tb)が復帰した作品だったし。

O：Hiroshiが戻ってきたのと、Shu-Hey!(G)とMasaki(Tenor Sax)がルードに入って初のアルバムだったし。

●だからメンバーが揃って次に向かうワクワクしたムードもあった。で、今作はよりバンドの塊感があるしダイナミックだし、強いですよね。

C：それはもうスカコアを意識したんで。改めてスカコアをガシッとやりたいなって。

O：俺もそう思ったし、メンバーもスカコアを意識してやっていきたいって意見が出てきて。

●凄くいいです!でも前作に手応えがあってその流れからだと、よりバラエティある方向に行くとも考えられたわけで。

C：まず…、アルバムの前に、リリー・フランキーさんが出た映画「パーフェクト・レボリューション」(2017年公開/監督・松本准平)のオープニング曲として作った「THE RACE」は元々作っていて。凄くいい曲なんですけど、自分としてはもうちょっとスカコアをガツンとやりたいという思いが、その前から、ここ2、3年でふつふつと湧き出るように。アルバムを作るならスカコアをガシッとやったほうがいいんじゃないかって話をしてたんですね。

O：俺も前作の手応えから、むしろスカコアに向かってるって感触があったし。前作で今のメンバーが揃ってライヴを重ねていって、その一つの結果が本作だと思うんですね。

●まさにそうでしょうね。

O：でも「THE RACE」もいい曲ですよ(笑)。

C：勿論(笑)。

●いや本当にいい曲(笑)。こういう曲も浮かないでアルバムに入ってるってことが今のルードだし。本作はこのメンバーのライヴ感がガッツリあるサウンドで、だから原点回帰とも違いますよね。

O：確かに昔の、例えば1st『REALITY HAS BECOME "SKA"』(1995年)とか確かにハードでしたけど、やっぱり今とは違いますね。

C：初期衝動が詰まってるアルバムが1stで。今回はそうですね、どうなんですかね(笑)。

●きっとバンドを組んだ頃のルードが、こういうバンドになりたいって思ってたことを、今やれてるんじゃないかと。

O：あぁ、うん。そうなってたらいいですよね。

●やっぱ今のメンバーでのライヴがどんどん良くなっていったからで。

O：前作で手応えがあったからこそライヴの本数も増えてきて、ライヴもどんどん良くなっていって、その流れでアルバムに向けてメンバーでガッツリまとまってきたっていうのもあったんで。ライヴにも反映できるアルバム。ライヴの方向性も含めてこういう感じのアルバムになっていったのかなって気はしますね。

●肉体的なアルバムですもんね。

O：メンバー、一人増えて7人ですからね。車に乗りきらないっていう(笑)。面白いですよ、みんな。

C：みんな個性ありますしね。

O：Shu-Hey!やMasakiも前は探り探りだったけど、だいぶメンバーらしくなった(笑)。実際、音に厚みや重さが出てるし。

●スカコアをガシッとやりたいって出てきたのは、そういう今のメンバーやバンドの状況がいいからで。

C：それも勿論なんですけど、僕は周りからっていうのがありましたね。いろいろライヴを観に行って、スカパンクは結構多いけどスカコアってなるとあんまりいないような気がして。ルードはスカパンクではなくスカコアだとずっと思ってるんで、ここでスカコアをガツンとやりたいって思ったんです。

O：Chibaちゃんは激しいの好きだもんね。

C：ハードコアも好きなんで。スカコアやりたい、ルードならやれるって思いがふつふつと。

●確かにスカコアってなると少ないですね。じゃ、スカコアってどういうものだと思います?

C：Okawa君が言ってた、音の厚みや重みですよね。僕はそういうとこが出てるほうが好きだしルードはそういうものを出せるし。

O：まぁ、俺は昔はメタルを聴いてたし、厚くて重いのは好きなんで。

C：その辺リフとかに出てるのかもしれない。

●ギターはカッティングだけじゃなくソロがまたいいですもんね。そういう感じが若い頃より自然になってきてると思います。説得力が出てます、悪い感じとかの(笑)。

O：人間的に悪くなっちゃったしね。歳取ってくると(笑)。

●私がスカコアに感じること、ルードに感じることってそういうとこなんですよ。不良っぽさ。モロに不良じゃなくて粗削りでも微妙に哀愁があり。今作収録の「STAND & SHOUT」のMVの、あの夜の街の感じが凄く似合う。

C：健康的ではないかもしれないですね。

●例えばスカパンクって、元気が出るハッピーでポジティブな曲も多いですよね。ルードがやっているスカコアは、楽しいんだけどそれとは違う。

C：そうですね。Okawa君が書く歌詞がそういうものではないし。

●明るい曲であっても決してバカ明るくはしないし。

O：やっぱ歌詞かね(笑)。

●歌詞は抽象的であってもリアルに響くし、あと声のせいかもしれない、独特な悪さは(笑)。

O：ただ明るいものっていうのは、俺は作れないんですよね。抜けきった青空の感じとか作れない。子供の頃から晴天の日より曇りの日が好きだったし(笑)。抜けきった明るい曲はもともと好みではないんで出てこないってことかもしれないけど。でもコードもメロディラインも完全に明るくならないように考えて作ってます。

●でもきっとみんなルードを暗いバンドだとは思ってないと思うんですよ。そこがまた面白い。

O：言っておきますけど、歌詞も全部が暗いわけじゃないですよ(笑)。

C：僕は凄い好きです、Okawa君が作ってくるメロディ、歌詞。バンドとしてやり甲斐があるんですよ。

O：あの、スペシャルズとかもそうですけど、ただ明るいだけではないですよね。明るそうに見えて、やっぱり黒い感じとかが混じってる。そっちが好きですから。底抜けに明るいというよりは、明るいメロディラインや明るいコードでも、歌にはいろんな思いが込められていたり。ボブ・マーリーなんかそうなわけで。俺は、俺自身はそういった先人たちが抱えていたものと同じものを抱えているわけではないけど、抱えているものは小さいかもしれないけど、そういう音楽に心を動かされたわけですから。

●うん、ルードに独特なムードがあるのはなぜなのか、だいぶわかってきました(笑)。だから「THE RACE」のようなダークで美しい曲も、今作に中で浮くことはない。

O：浮いてはいないと思います。

●アルバムの制作のスタートとして、「THE RACE」が最初にあった曲?

O：そうですね。オープニング曲として僕らに決まったのは、松本監督がもともとルードの『RUDE BONES』(2002年)に入ってる「go up!」ってレゲエの曲を気に入ってくれていて、オリジナルで書き下ろしてほしいって言ってくれて。なのでオープニング曲ではあるけど、ルードらしさを出していくって方向ではあったんです、「THE RACE」は。

●いいですよね、「THE RACE」がある中盤の流れ。ミディアムだったりバラード調が出てきそうだけどとどそうはしないで、気持ちいい速さのあるテンポ感で。

C：スカコアは、ゆっくりのテンポでも勢いなかったらダメなんです(笑)。

●だからバラエティある作品ではなく、バラエティがスカコアの中に内包されてるんですよね。

O：曲作りはかなり粘ったんです。作り直した曲もあったし。トータルバランスを意識したら、作り直したほうがいいと思うのも出てきて。

C：4曲目の「RIDE ON THE BEAT」は最初は全然違う感じで。初めはもうちょっとゆったりめだったのが激しくなっていった。

●今作、メロディもしっかり残るし。

O：サビとかメロディはこだわってますから。そこをちゃんと出した上で、アレンジは歪ませたり厚みや重さは出すようにしましたね。

●で、大事なことを聞かなきゃですが、アメリカにも行ったんですよね。ライヴとレコーディングで。

C：ニュージャージーとボストンに。レコーディングはニュージャージーで。その前から東京でレコーディングはしていて、2曲だけニュージャージーで録ったんです。

●きっかけは?

C：一年ちょっと前ですかね、町田のNutty'sでライヴやった時、楽屋でHiroshi君が「アメリカ行かない?」って言い出して。

O：「ボストンズのライヴに出たらどうだ?」ってHiroshiが言って、色々手伝ってくれてるParking LotのAkiraが連絡とって。

●「アメリカ行かない?」って言葉が出るぐらい、ルードのライヴは絶好調になっていたんですね。でもThe Mighty Mighty Bosstonesとライヴ、旧知の仲とはいえスゴイ!

O：ボストンズが毎年やっているフェス"Hometown Throwdown"に出たいって連絡して。すぐには返事は来なかったんですけど、たくさんのバンドからオファーがあるみたいで。こっちは返事は来なくても行く準備を始めなきゃいけないし。

C：レコーディングもしようって決めてたからスタジオも押さえたり。

O：で、OKの返事が来た。

●興奮しますね。

C：アメリカでライヴやるのが17年ぶりですからね。

O：4枚目の『SOMETHING THAT'S ORIGINAL』(2001年)の時で、それ以来。今回のボストンズのフェスは3Daysで、僕たちは真ん中の日に出て。

C：ルードも盛り上がったんですけど、ボストンズのライヴ観たら、もう、涙出そうになりましたね。ヤバかったです。

●同時代を生き抜いてきた仲ですし。

O：ずっとお世話になってますからね。会ってなくても、前回のアルバムも音を送って歌ってもらってますし。お互い、バンドの周年のコメントを送り合ったり。ホントに信じられないぐらい良くしてもらってる。ボストンズがやってるってことは、我々としては凄く心強いことで。今も全然カッコイイし。

C：ステージも作りこんでますし。とにかく凄かった。

O：現役バリバリだしね。スゲェなっていう。負けてられない。

●間違ってなかったって気持ちになりますよね。

O：そうそう。ホントそう。

C：好きで良かったって。

●ボストンズとのライヴが、今作のスカコアの確信になったんでしょうね。

O：そうですね。あと昔はアルバム作る時に、ポップに作ってみようとか、流行りの音を試してみようとか、そういうのがあった時もあったんです。でも今は、なんかもう、そんなのいいんじゃない?って。

C：アルバムを出していくと違った面も見せていこう、とかね。それはもういいかなって。

O：そんなこと考えなくても、楽曲を作っていく感覚は日々成長してるんです、僕の中で。スカコアというジャンルの中においても、やればやるほど深みというか、いい曲ができている感触がある。そういう気持ち、そういう感覚は衰えてないんで。今作も、前作を超えるのは難しいかなって思ったけど、粘って曲作りをして、粘れば粘るほど良くなった。今、スカコアバンドとしてルードは良くなってるし、曲作りも、スカコアという中でやれることはいっぱいあるって実感してるんです。だからホント、ライヴを楽しみにしてください!

LIVE Schedule

RUDE BONES 25th Anniv.
"Hey! Rudies! it's Just Started! Tour!"

4.14(土) 下北沢SHELTER
4.22(日) 大阪PANGEA
4.28(土) 名古屋CLUB ZiON
4.29(日) 富山MAIRO

25th Anniv. RUDE BONES

結成25周年のRUDE BONESから届いた傑作。前作『GOOD TIMES,7300DAYS』だし、7人の音の個性をガンガンと出しながら、ルに突き進み、そしたらむしろ自由を手にしたRUDE BONES、これからです!!

ニュー・アルバム『Just Started』。もうコレがRUDE BONESならではのスカコアが轟く以降、この7人で培ったバンド感と不良な空気感。ダイナミックだし勢いがあるし、メロディアス一体感というよりグイグイ迫ってくる塊感とでも言おうか。スカコアという、いわば一つのジャンという感じ。昨年はアメリカでのThe Mighty Mighty Bosstonesとのライヴを大成功。

Interview：遠藤妙子　Photo：YUTA ASAHINA

OFFICIAL HP　www.rudebones.net

@rudebonesbrigade　@rudeokawa

RUDE BONES
NEW ALBUM『Just Started』
SKA IN THE WORLD/SIWI263/¥2,500(+税)
2018.3.21 ON SALE!!

diskunion限定
7インチ付セット
SIWI263R　¥4,000(+税)

diskunion
オリジナル特典
缶バッジ

COVER ARTIST

RUDE BONES

25th Anniv.

A MESSAGE TO YOU ...

APRIL
2018. Vol.176

FOLLOW UP

CREATE YOUR MUSIC LIFE!

ロリータ18号 ... DON KARNAGE ... SKALAPPER ... EU'S ARSE ... and more!!